

第8回  
メディアに関する全国世論調査  
(2015年)

公益財団法人 新聞通信調査会

# 目 次

## 《各メディアの印象・信頼度》

1. 各メディアの情報の信頼度は？ ..... 1  
    《1位「NHK テレビ」70.2点、2位「新聞」69.4点、3位「民放テレビ」61.0点》
2. 各メディアにつけた信頼度得点に影響が大きかったのは？ ..... 2  
    《「情報源として欠かせない」「情報が分かりやすい」「社会的影響力がある」》
3. 各メディアの信頼感の変化は？ ..... 3  
    《この1年間で新聞の信頼感が「低くなった」が昨年の10.2%から7.9%に減少》
4. 各メディアの印象は？ ..... 4  
    《情報源として欠かせない「新聞」、信頼の「NHK テレビ」、面白い「民放テレビ」》

## 《戦後70年報道について》

5. 戦後70年報道の情報入手メディアは？ ..... 6  
    《「民放テレビ」65%、「NHK テレビ」60%、「新聞」57%》
6. 各メディアの戦後70年に関する報道の印象は？ ..... 7  
    《「専門家の意見を比較」「分かりやすく解説」で民放テレビが高評価》
7. 戦後70年に関する報道で好ましくなかった点は？ ..... 9  
    《「70年の節目というだけで取り上げている」が42%で最多》
8. 戦後70年と聞いて思い浮かぶ人物・事柄は？ ..... 10  
    《人物は「昭和天皇」、事柄は「平和」》
9. 戦後70年、時代の印象は？ ..... 11  
    《半数近い人が「経済の時代」という印象》
10. 戦後70年を経た今を天気で表すと？ ..... 12  
    《「薄曇り」41%、「曇り」32%》

## 《憲法改正問題に関する報道》

11. 憲法改正問題に関心がある？ ..... 13  
    《「関心がある」75%と昨年度から5ポイント増》
12. 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディアは？ ..... 14  
    《「民放テレビ」66%、「NHK テレビ」61%、「新聞」59%》
13. 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいメディアは？ ..... 15  
    《「民放テレビ」54%、「NHK テレビ」46%、「新聞」44%》
14. 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道は？ ..... 16  
    《新聞は「海外の実情や日本の現況に対する反応についての報道」を》
15. 集団的自衛権に関する新聞の報道は？ ..... 17  
    《「分かりやすかった」19%、「分かりにくかった」22%》

## 《報道の自由》

16. 報道の自由についてどう思う？ ..... 18  
    《「報道の自由は常に保障されるべきだ」が83%》

## 《新聞への意見》

17. 新聞についてどう思う？ ..... 19  
    《情報の「多様性」「正確性」「責任感」に高い評価》
18. 新聞の政治に対する態度についてどう思う？ ..... 21  
    《「不正を追及」に4割が肯定。  
    「政治家について全て報道している」には変わらず厳しい評価》
19. 新聞の政治的立場についてどう思う？ ..... 23  
    《欧米のように政治色を出すことに否定的なのは昨年度と変わらず》
20. 新聞の記事の満足度は？ ..... 24  
    《ラ・テ欄、地元記事、社会記事など、身近な記事の満足度が高い》
21. 新聞全般の満足度は？ ..... 26  
    《満足している人は54%、不満な人は7%。高年齢層で満足度が高い》

## 《生活の中の新聞》

22. 新聞を読んでいる人は？ ..... 27  
    《「読んでいる」は朝刊74%、夕刊27%。朝刊の閲読率は前年より減少》
23. この1年間で新聞を読む回数や時間に変化は？ ..... 29  
    《「変わらない」が80%、「減った」が15%》
24. 新聞を読む時間は？ ..... 30  
    《平均時間は27分で前回から微増。若い世代ほど短い》
25. 新聞を読む場所は？ ..... 31  
    《新聞を読むのは朝刊、夕刊共に自宅が中心》
26. 新聞を読む理由は？ ..... 32  
    《新聞を読むことは生活の一部。  
    1位「習慣になっている」、2位「世間の動きが分かる」》
27. よく読む新聞記事は？ ..... 33  
    《身近な記事が人気。1位「地元記事」、2位「社会記事」、3位「ラ・テ欄」》
28. 新聞を読まない理由は？ ..... 34  
    《1位は「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(75%)》
29. 戸別配達をどう思う？ ..... 35  
    《日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」72%。2012年より減少続く》
30. 夕刊の発行をどう思う？ ..... 36  
    《「続けてほしい」は18%、「なくてもよい」が34%》
31. 月ぎめ新聞の購読状況は？ ..... 37  
    《76%が購読、購読率は減少傾向が続く》

|  |    |
|--|----|
| 32. 新聞の購読料をどう思う？   | 39 |
| <b>《「高い」とする人が45%、「妥当」とする人が52%》</b>                                     |    |
| 33. 通信社の役割を知っている？  | 40 |
| <b>《「役割を知っている」人の割合は前年に続き50%超》</b>                                      |    |
| 34. 見たり聞いたりしたことがある通信社は？  | 41 |
| <b>《1位「ロイター通信」(70%)、2位「共同通信社」(69%)》</b>                                |    |
| <b>《新聞のこれからとインターネット》</b>   |    |
| 35. インターネットのニュースをどの程度見る？   | 42 |
| <b>《「インターネットニュースを毎日見る」20~40代では半数超。<br/>毎日閲覧は30~60代で前回より5ポイント以上の増加》</b> |    |
| 36. よく見るインターネットニュースの記事は？   | 43 |
| <b>《1位「スポーツ・芸能に関する記事」(71%)、2位「社会記事」(59%)》</b>                          |    |
| 37. インターネットニュースを見るサイトは？  | 44 |
| <b>《ポータルサイトが89%、新聞社の公式サイトは21%》</b>                                     |    |
| 38. 将来の新聞の役割についてどう思う？  | 45 |
| <b>《新聞の役割減少派43%、役割持続派40%。<br/>昨年度に続き役割減少派が役割持続派を上回る》</b>               |    |
| 39. 電子新聞の利用意向は？  | 47 |
| <b>《利用希望は伸びず。「利用してみたい」は11%と昨年度より微減》</b>                                |    |
| 40. 記事ごとに料金を支払うシステムの利用意向は？   | 48 |
| <b>《「利用したい」は6%》</b>  |    |

(注) 本文の見出しに(\*)があるのは昨年度調査と同一質問であることを示している。

## 《各メディアの印象・信頼度》

### 1. 各メディアの情報の信頼度は？（\*）

－ 1位「NHKテレビ」70.2点、2位「新聞」69.4点、3位「民放テレビ」61.0点 －

- ・各メディアの情報をどの程度信頼しているかを、全面的に信頼している場合は100点、全く信頼していない場合は0点、普通の場合は50点として点数をつけてもらったところ、平均点が最も高かったのは「NHKテレビ」で70.2点、次いで「新聞」が69.4点、「民放テレビ」が61.0点となっている。
- ・性別、年代別に見ても、「NHKテレビ」、「新聞」が全ての категорияで上位2位を占めており、幅広く厚い信頼を得ていることが分かる。
- ・第1回調査（2008年12月、標本数3,000、以下、「2008年度調査」と言う）、第2回調査（2009年10月、標本数5,000、以下、「2009年度調査」と言う）、第3回調査（2010年9月、標本数5,000、以下、「2010年度調査」と言う）、第4回調査（2011年9月、標本数5,000、以下、「2011年度調査」と言う）、第5回調査（2012年9月、標本数5,000、以下、「2012年度調査」と言う）、第6回調査（2013年9月、標本数5,000、以下、「2013年度調査」と言う）、第7回調査（2014年9月、標本数5,000、以下、「2014年度調査」と言う）でも、1位「NHKテレビ」（2008年度74.0点、2009年度73.5点、2010年度73.5点、2011年度74.3点、2012年度70.1点、2013年度72.5点、2014年度71.1点、今回調査70.2点）、2位「新聞」（同72.0点、同70.9点、同72.0点、同72.0点、同68.9点、同70.7点、同69.2点、今回調査69.4点）、3位「民放テレビ」（同65.4点、同63.6点、同65.3点、同63.8点、同60.3点、同60.6点、同60.2点、今回調査61.0点）、4位「ラジオ」（同63.6点、同61.6点、同61.6点、同63.1点、同58.6点、同60.4点、同59.7点、今回調査59.7点）、5位「インターネット」（同58.0点、同58.2点、同58.0点、同56.3点、同53.3点、同54.1点、同54.0点、今回調査53.7点）、6位「雑誌」（同48.2点、同46.4点、同47.1点、同44.1点、同44.6点、同44.7点、同44.3点、今回調査45.5点）で、順位に変化はなかった。いずれのメディアも昨年度調査からはほぼ横ばいの様相を呈している。

図1-1 各メディアの信頼度

(n=3,183)

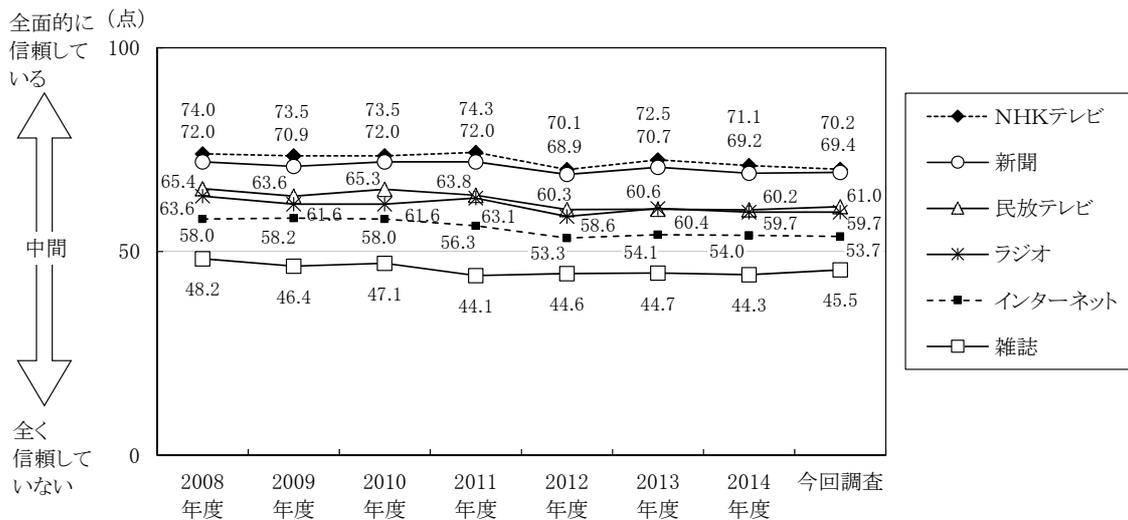


表1-1 各メディアの信頼度（性・年代別）

(n=3,183)

|        | 1位             | 2位             | 3位            | 4位          | 5位              | 6位         | (点) |
|--------|----------------|----------------|---------------|-------------|-----------------|------------|-----|
| 総数     | NHKテレビ<br>70.2 | 新聞<br>69.4     | 民放テレビ<br>61.0 | ラジオ<br>59.7 | インターネット<br>53.7 | 雑誌<br>45.5 |     |
| 男性     | NHKテレビ<br>69.9 | 新聞<br>69.3     | 民放テレビ<br>59.8 | ラジオ<br>59.8 | インターネット<br>53.7 | 雑誌<br>45.1 |     |
| 女性     | NHKテレビ<br>70.4 | 新聞<br>69.5     | 民放テレビ<br>62.1 | ラジオ<br>59.5 | インターネット<br>53.8 | 雑誌<br>45.8 |     |
| 18-19歳 | NHKテレビ<br>71.1 | 新聞<br>68.3     | 民放テレビ<br>62.2 | ラジオ<br>59.2 | インターネット<br>51.5 | 雑誌<br>48.5 |     |
| 20代    | NHKテレビ<br>66.3 | 新聞<br>64.7     | 民放テレビ<br>58.9 | ラジオ<br>54.8 | インターネット<br>53.2 | 雑誌<br>45.5 |     |
| 30代    | NHKテレビ<br>65.5 | 新聞<br>65.3     | 民放テレビ<br>57.6 | ラジオ<br>56.8 | インターネット<br>55.7 | 雑誌<br>47.5 |     |
| 40代    | 新聞<br>69.6     | NHKテレビ<br>68.5 | 民放テレビ<br>60.7 | ラジオ<br>58.9 | インターネット<br>51.7 | 雑誌<br>45.4 |     |
| 50代    | NHKテレビ<br>71.5 | 新聞<br>70.4     | 民放テレビ<br>61.8 | ラジオ<br>61.0 | インターネット<br>56.2 | 雑誌<br>45.2 |     |
| 60代    | NHKテレビ<br>71.3 | 新聞<br>70.4     | 民放テレビ<br>62.1 | ラジオ<br>61.5 | インターネット<br>54.2 | 雑誌<br>44.2 |     |
| 70代以上  | NHKテレビ<br>73.8 | 新聞<br>72.2     | 民放テレビ<br>62.5 | ラジオ<br>61.8 | インターネット<br>51.9 | 雑誌<br>45.2 |     |

## 2. 各メディアにつけた信頼度得点に影響が大きかったのは？（\*）

— 「情報源として欠かせない」「情報が分かりやすい」「社会的影響力がある」 —

- ・各メディアの信頼度得点をつける際に最も影響の大きい要因を聞いたところ、「情報源として欠かせない」が18.0%で最も多く、次いで、「情報が分かりやすい」が17.7%、「社会的影響力がある」が15.4%となった。また、「何となく」と回答した人の割合は7.4%となった。
- ・年代別に見ると、「情報源として欠かせない」は、60代までは年代が上がるほど割合が高くなり、50～60代では最も影響の大きい要因となった。一方、「何となく」と回答した人の割合は年代が低い層で割合が高くなった。「情報が分かりやすい」「社会的影響力がある」は全ての年代で10%以上の割合となった。

図2-1 各メディアの信頼度得点をつけた要因

(n=3,183)

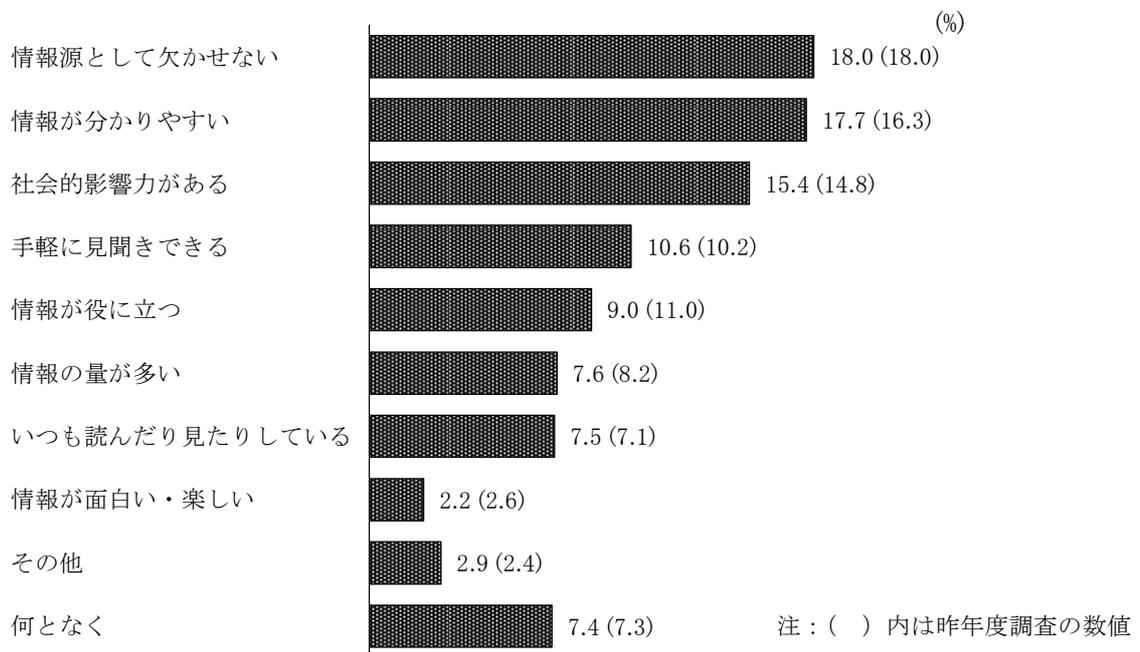
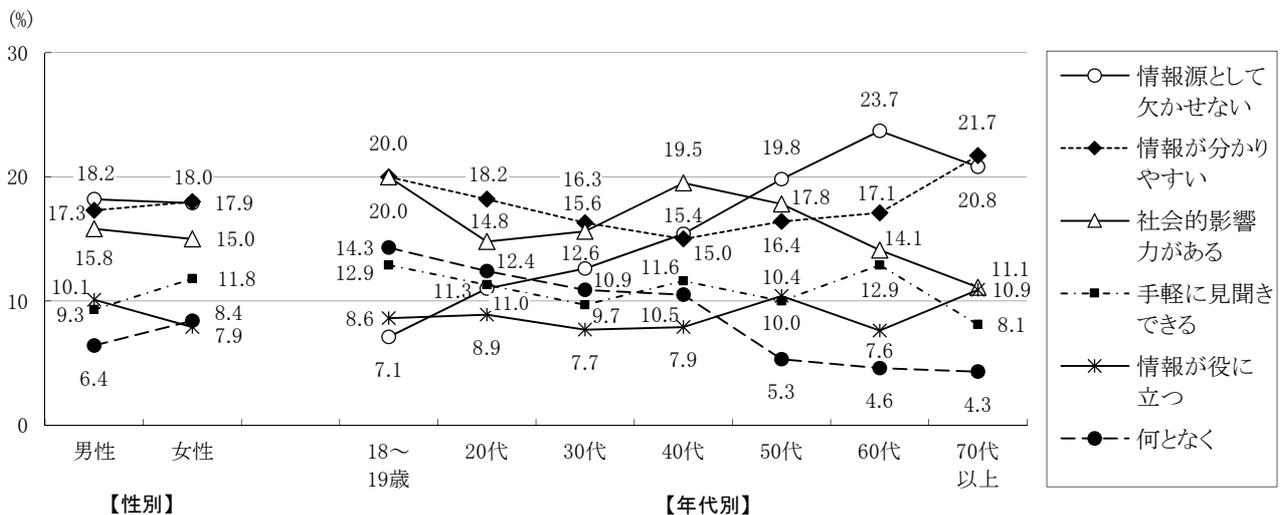


図2-2 各メディアの信頼度得点をつけた要因（性・年代別）

(n=3,183)



### 3. 各メディアの信頼感の変化は？（＊）

－ この１年間で新聞の信頼感が「低くなった」が昨年の10.2%から7.9%に減少 －

- この１年間で各メディアの信頼感が変化したか尋ねたところ、全てのメディアで「変わらない」と回答した人が70%以上を占めた。「高くなった」は「インターネット」が7.9%と最も多く「新聞」4.1%、「NHKテレビ」3.9%となった。一方、「低くなった」は「雑誌」が14.7%と最も多く、「民放テレビ」12.2%、「NHKテレビ」11.3%、「インターネット」11.1%、「新聞」7.9%となった。「新聞」の信頼感が「低くなった」と回答した人の割合は昨年度4.6ポイント増加したが、今回調査では2.3ポイント減少した。
- 新聞の信頼感が「高くなった」と答えた人にその理由を聞いたところ、「情報が正確だから」35.4%（前回調査37.0%）、「公正・中立な立場で報道しているから」28.5%（前回調査21.3%）、「根拠に基づく情報を報道しているから」17.7%（前回調査25.2%）となった。
- 新聞の信頼感が「低くなった」と答えた人にその理由を聞いたところ、「特定の勢力に偏った報道をしているから」29.9%（前回調査25.1%）、「誤報があったから」25.1%（前回調査28.7%）となった。

図3-1 各メディアの信頼感の変化

(n=3,183)

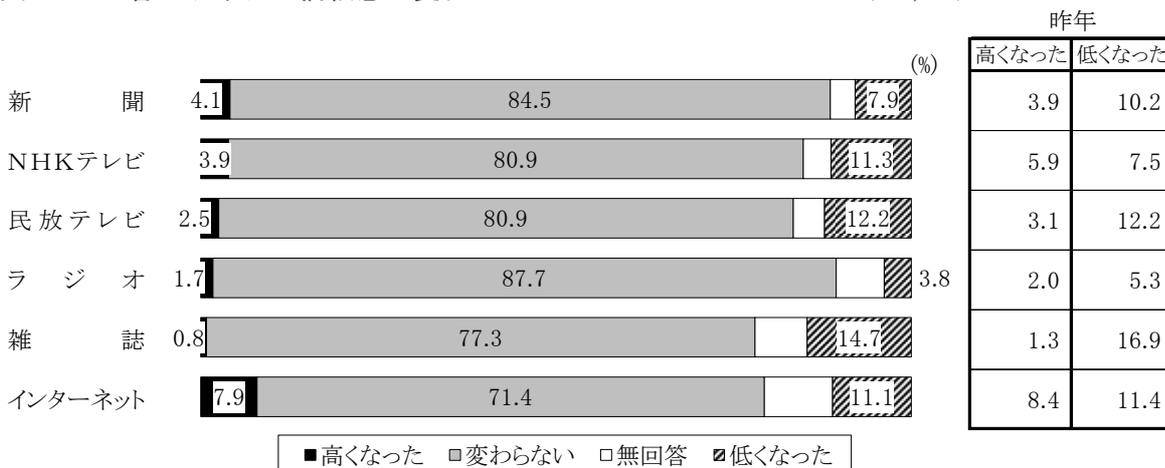


図3-2 新聞の信頼感が高くなった理由 (n=130)

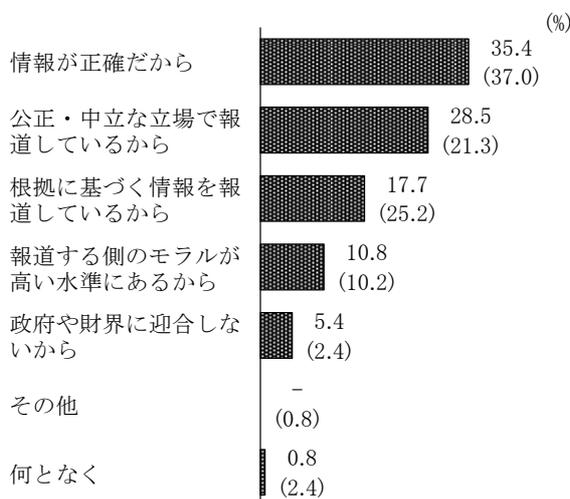
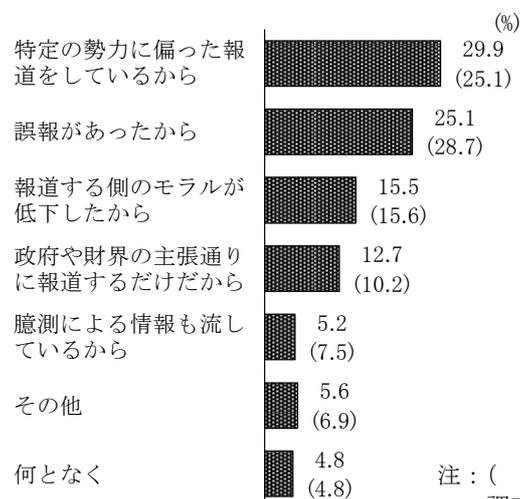


図3-3 新聞の信頼感が低くなった理由 (n=251)



注：( )内は昨年度調査の数値

## 4. 各メディアの印象は？（＊）

### － 情報源として欠かせない「新聞」、信頼の「NHK テレビ」、面白い「民放テレビ」 －

- ・各メディアの印象を聞いたところ、「情報が役に立つ」メディアとして新聞を挙げた人が 50.2%、「情報源として欠かせない」メディアとして新聞を挙げた人が 50.0%、「情報の量が多い」メディアとして新聞を挙げた人が 42.7%とそれぞれ 1 位となった。
- ・「情報が信頼できる」「社会的影響力がある」ではNHKテレビが、「情報が面白い・楽しい」「手軽に見聞きできる」「情報が分かりやすい」では民放テレビが 1 位となった。
- ・昨年度調査と比較すると、新聞は「手軽に見聞きできる」が 2.8 ポイント、「情報が役に立つ」「情報源として欠かせない」がそれぞれ 2.0 ポイント低下した。NHKテレビは、全ての項目の割合が 2.0～3.8 ポイント低下した。民放テレビは「情報が分かりやすい」が 3.0 ポイント上昇した。ラジオはほとんど変化が見られなかった。インターネットは、全ての項目で昨年より割合が上昇し、「情報の量が多い」「情報が面白い・楽しい」「手軽に見聞きできる」は 2 位、「情報源として欠かせない」は 3 位となった。
- ・年代別に見ると、「情報源として欠かせない」は、新聞では年代が上がるほど、インターネットでは 20 代以上で年代が下がるほど挙げる人の割合が高くなり、40 代まではインターネットが 1 位であったが、50 代以上では新聞が逆転して 1 位になった。「情報が信頼できる」は、NHKテレビと新聞では全年代で民放テレビとインターネットより高くなっている。「手軽に見聞きできる」は、新聞とNHKテレビでは年代が上がるると多く挙げられる傾向にあるが、民放テレビでは年代差は小さい。インターネットは 40 代以下では他のメディアを大きく離して 1 位となっているが、50 代以降は年代が上がるにつれ顕著に減少している。

表 4-1 各メディアの印象

(複数回答、n=3,183)

(%)

|             | 1 位                   | 2 位                    | 3 位                    | 4 位                    | 5 位                   | 6 位                |
|-------------|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|--------------------|
| 情報が役に立つ     | 新聞<br>50.2 (52.2)     | NHKテレビ<br>42.1 (45.9)  | 民放テレビ<br>39.1 (38.3)   | インターネット<br>38.6 (38.4) | ラジオ<br>12.3 (13.0)    | 雑誌<br>11.0 (10.3)  |
| 情報源として欠かせない | 新聞<br>50.0 (52.0)     | NHKテレビ<br>43.5 (47.3)  | インターネット<br>42.9 (39.8) | 民放テレビ<br>40.1 (39.6)   | ラジオ<br>12.2 (12.3)    | 雑誌<br>6.1 (5.9)    |
| 情報の量が多い     | 新聞<br>42.7 (42.5)     | インターネット<br>41.9 (40.8) | 民放テレビ<br>32.6 (31.4)   | NHKテレビ<br>23.3 (26.5)  | 雑誌<br>6.0 (5.8)       | ラジオ<br>4.1 (4.5)   |
| 情報が信頼できる    | NHKテレビ<br>60.0 (63.7) | 新聞<br>59.2 (58.2)      | 民放テレビ<br>24.6 (23.0)   | インターネット<br>13.3 (13.2) | ラジオ<br>13.0 (12.7)    | 雑誌<br>2.1 (2.8)    |
| 社会的影響力がある   | NHKテレビ<br>57.6 (59.9) | 新聞<br>54.3 (55.3)      | 民放テレビ<br>47.8 (48.6)   | インターネット<br>36.7 (35.8) | ラジオ<br>8.3 (9.5)      | 雑誌<br>8.2 (8.4)    |
| 情報が面白い・楽しい  | 民放テレビ<br>61.1 (61.4)  | インターネット<br>38.0 (37.5) | 雑誌<br>20.9 (22.4)      | 新聞<br>17.3 (17.6)      | NHKテレビ<br>17.1 (19.1) | ラジオ<br>12.8 (13.0) |
| 手軽に見聞きできる   | 民放テレビ<br>50.9 (51.2)  | インターネット<br>49.8 (47.2) | 新聞<br>41.3 (44.1)      | NHKテレビ<br>34.2 (37.9)  | ラジオ<br>16.7 (16.2)    | 雑誌<br>9.7 (9.9)    |
| 情報が分かりやすい   | 民放テレビ<br>47.0 (44.0)  | NHKテレビ<br>45.9 (49.1)  | 新聞<br>39.9 (39.5)      | インターネット<br>26.6 (25.1) | ラジオ<br>8.7 (9.0)      | 雑誌<br>6.2 (6.0)    |

注：( ) 内は昨年度調査の数値

図 4-1 「情報源として欠かせない」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,183)

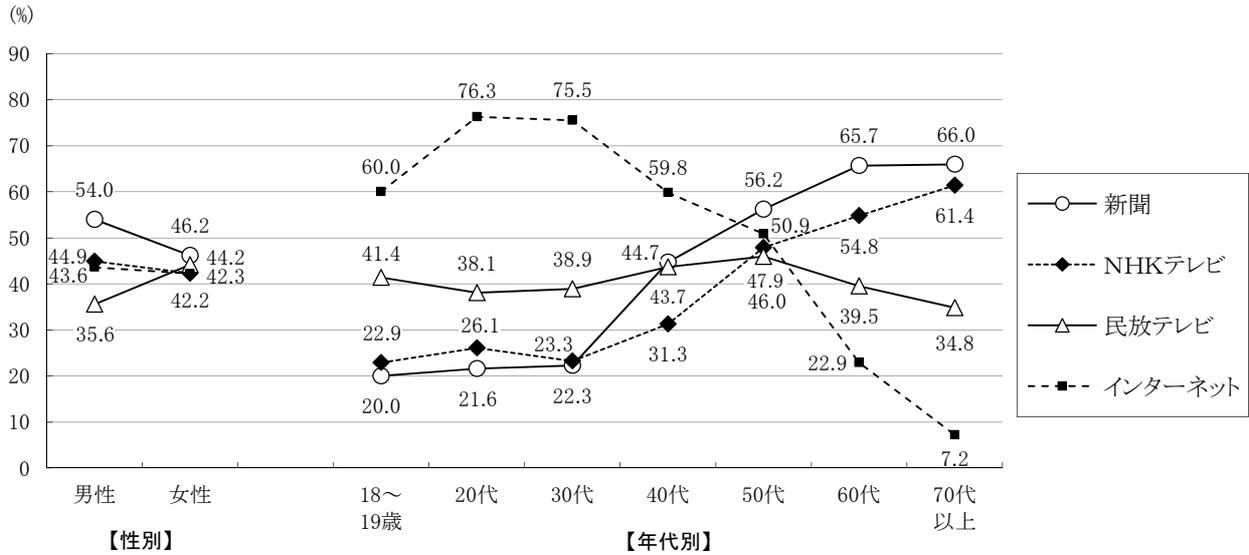


図 4-2 「情報が信頼できる」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,183)

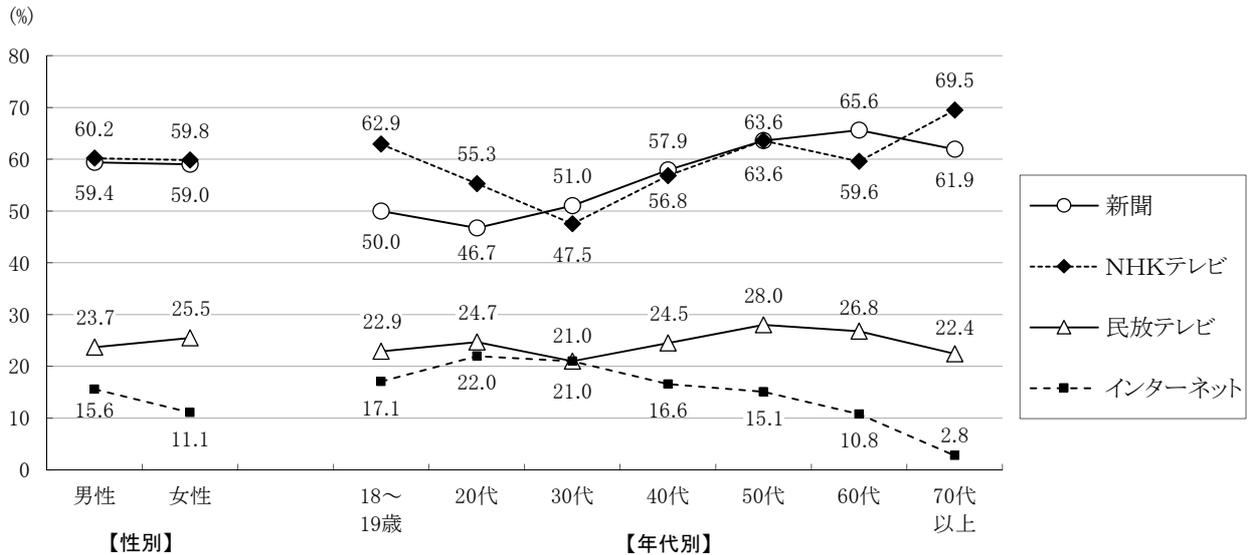
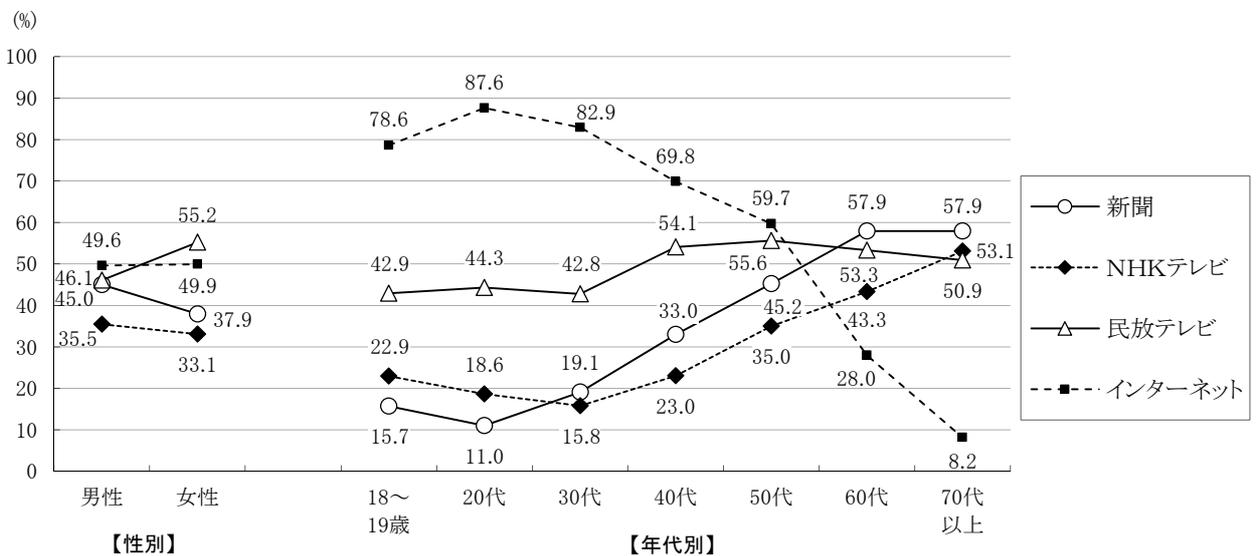


図 4-3 「手軽に見聞きできる」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,183)



## 《戦後 70 年報道について》

### 5. 戦後 70 年報道の情報入手メディアは？

－ 「民放テレビ」65%、「NHK テレビ」60%、「新聞」57% －

- ・戦後 70 年に関する事柄をどのメディアから入手しているか質問したところ、「民放テレビ」を挙げた人が 64.9%と最も多く、以下、「NHKテレビ」が 59.5%、「新聞」が 57.4%、「インターネット」が 25.4%という結果になった。
- ・年代別に見ると、女性と 50 代以下では民放テレビが 1 位、男性と 70 代以上ではNHKテレビが 1 位、60 代では新聞が 1 位となった。また、30 代以下ではインターネットが 2 位となり、3 位のNHKテレビ、4 位の新聞を上回った。新聞、NHKテレビは 20 代から年代の上昇とともに割合が高くなるが、インターネットは 20 代以上で年代が低いほど割合が高くなっている。

図 5-1 戦後 70 年報道の情報入手メディア

(n=3,183)

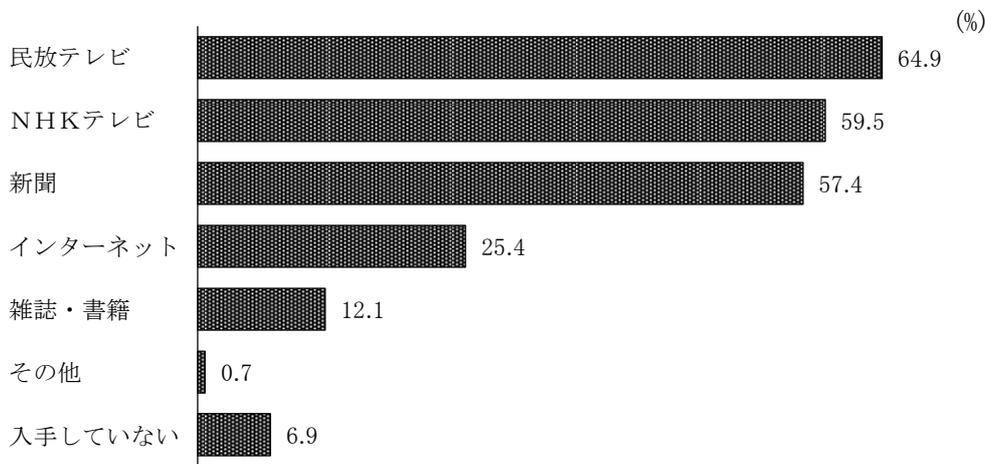


表 5-1 戦後 70 年報道の情報入手メディア (性・年代別)

(n=3,183)

|        | 1 位            | 2 位             | 3 位            | 4 位             | 5 位             | 6 位            |
|--------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 総 数    | 民放テレビ<br>64.9  | NHKテレビ<br>59.5  | 新聞<br>57.4     | インターネット<br>25.4 | 雑誌・書籍<br>12.1   | 入手していない<br>6.9 |
| 男 性    | NHKテレビ<br>61.8 | 民放テレビ<br>61.0   | 新聞<br>60.0     | インターネット<br>30.5 | 雑誌・書籍<br>13.5   | 入手していない<br>7.0 |
| 女 性    | 民放テレビ<br>68.4  | NHKテレビ<br>57.4  | 新聞<br>54.9     | インターネット<br>20.7 | 雑誌・書籍<br>10.8   | 入手していない<br>6.8 |
| 18-19歳 | 民放テレビ<br>52.9  | インターネット<br>44.3 | NHKテレビ<br>37.1 | 新聞<br>24.3      | 入手していない<br>12.9 | 雑誌・書籍<br>1.4   |
| 20 代   | 民放テレビ<br>56.4  | インターネット<br>46.0 | NHKテレビ<br>34.0 | 新聞<br>24.1      | 入手していない<br>18.2 | 雑誌・書籍<br>3.4   |
| 30 代   | 民放テレビ<br>61.4  | インターネット<br>41.8 | NHKテレビ<br>39.6 | 新聞<br>31.4      | 入手していない<br>11.4 | 雑誌・書籍<br>5.2   |
| 40 代   | 民放テレビ<br>69.1  | NHKテレビ<br>50.3  | 新聞<br>48.9     | インターネット<br>34.0 | 入手していない<br>8.5  | 雑誌・書籍<br>7.3   |
| 50 代   | 民放テレビ<br>67.7  | 新聞<br>63.8      | NHKテレビ<br>62.8 | インターネット<br>29.0 | 雑誌・書籍<br>15.5   | 入手していない<br>4.3 |
| 60 代   | 新聞<br>73.4     | NHKテレビ<br>72.0  | 民放テレビ<br>68.4  | 雑誌・書籍<br>16.9   | インターネット<br>15.9 | 入手していない<br>3.3 |
| 70代以上  | NHKテレビ<br>77.7 | 新聞<br>77.3      | 民放テレビ<br>62.8  | 雑誌・書籍<br>17.7   | インターネット<br>4.4  | 入手していない<br>2.8 |

## 6. 各メディアの戦後70年に関する報道の印象は？

－ 「専門家の意見を比較」「分かりやすく解説」で民放テレビが高評価 －

- ・戦後70年に関する報道について、各メディアの印象を聞いたところ、NHKテレビが「事実が正確に報道されていた」で53.7%、「公正・中立な報道がされていた」で50.5%、「他のメディアの情報より信頼していた」で47.0%、「この問題に対する報道姿勢がよいと評価できる」で45.8%と1位になった。
- ・民放テレビは「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」で49.1%、「難しい内容が分かりやすく解説されていた」で47.5%、「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」で43.5%と1位になった。
- ・新聞は「事実が正確に報道されていた」(48.5%)、「公正・中立な報道がされていた」(41.2%)、「他のメディアの情報より信頼していた」(41.3%)、「この問題に対する報道姿勢がよいと評価できる」(40.0%)で堅調な支持を得た。
- ・年代別に見ると「他のメディアの情報より信頼していた」はNHKテレビと新聞が40代以上で他のメディアに比べ高評価を得た。「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」は、50代以下の年代では民放テレビが1位、60代以上の年代では新聞が1位となっており、年代が上がるほど新聞が参考になるとする傾向が見られた。「公正・中立な報道がされていた」については、全年代でNHKテレビが1位となった。新聞は20代から年代が上がるほど高く評価されたが、民放テレビは年代差がほとんど見られなかった。インターネットは全年代で他のメディアに比べ最も低い評価となった。

表6-1 戦後70年に関する報道について各メディアの印象

(複数回答、n=3,183)

(%)

|                             | 1位             | 2位             | 3位            | 4位              | 5位        |
|-----------------------------|----------------|----------------|---------------|-----------------|-----------|
| 事実が正確に報道されていた               | NHKテレビ<br>53.7 | 新聞<br>48.5     | 民放テレビ<br>32.5 | インターネット<br>9.0  | 雑誌<br>2.6 |
| 公正・中立な報道がされていた              | NHKテレビ<br>50.5 | 新聞<br>41.2     | 民放テレビ<br>28.1 | インターネット<br>7.9  | 雑誌<br>2.0 |
| 他のメディアの情報より信頼していた           | NHKテレビ<br>47.0 | 新聞<br>41.3     | 民放テレビ<br>23.2 | インターネット<br>8.9  | 雑誌<br>1.8 |
| この問題に対する報道姿勢が良いと評価できる       | NHKテレビ<br>45.8 | 新聞<br>40.0     | 民放テレビ<br>29.8 | インターネット<br>7.3  | 雑誌<br>2.1 |
| いろいろな立場の専門家の意見を比較できた        | 民放テレビ<br>49.1  | NHKテレビ<br>33.4 | 新聞<br>27.1    | インターネット<br>11.7 | 雑誌<br>3.8 |
| 難しい内容が分かりやすく解説されていた         | 民放テレビ<br>47.5  | NHKテレビ<br>37.5 | 新聞<br>30.6    | インターネット<br>11.9 | 雑誌<br>3.3 |
| 自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった | 民放テレビ<br>43.5  | NHKテレビ<br>40.5 | 新聞<br>39.7    | インターネット<br>17.6 | 雑誌<br>4.6 |

図6-1 「他のメディアの情報より信頼していた」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,183)

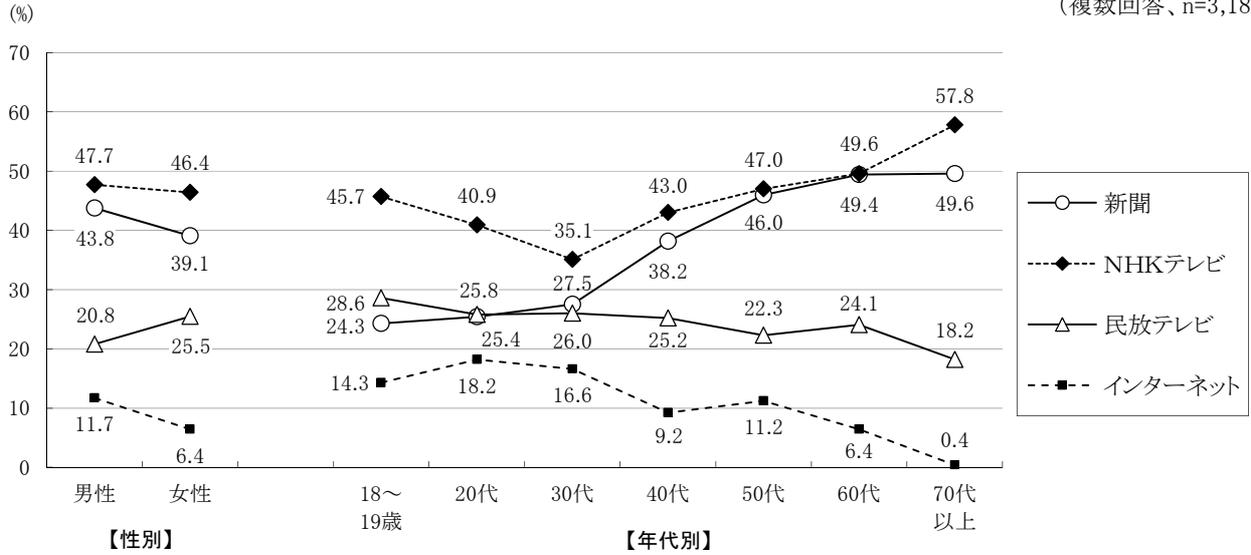


図6-2 「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,183)

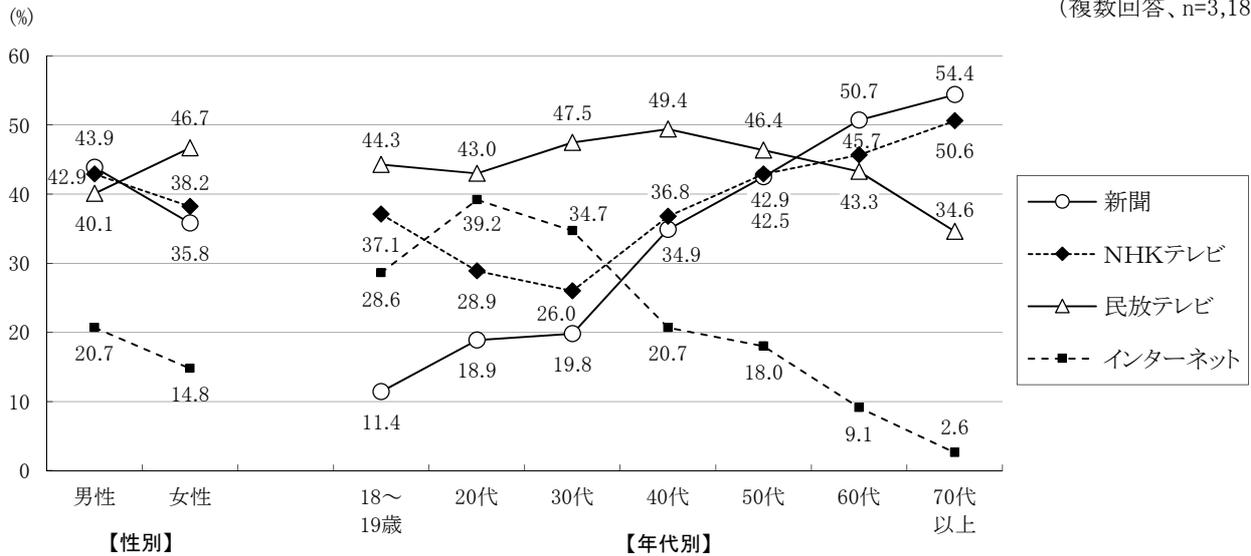
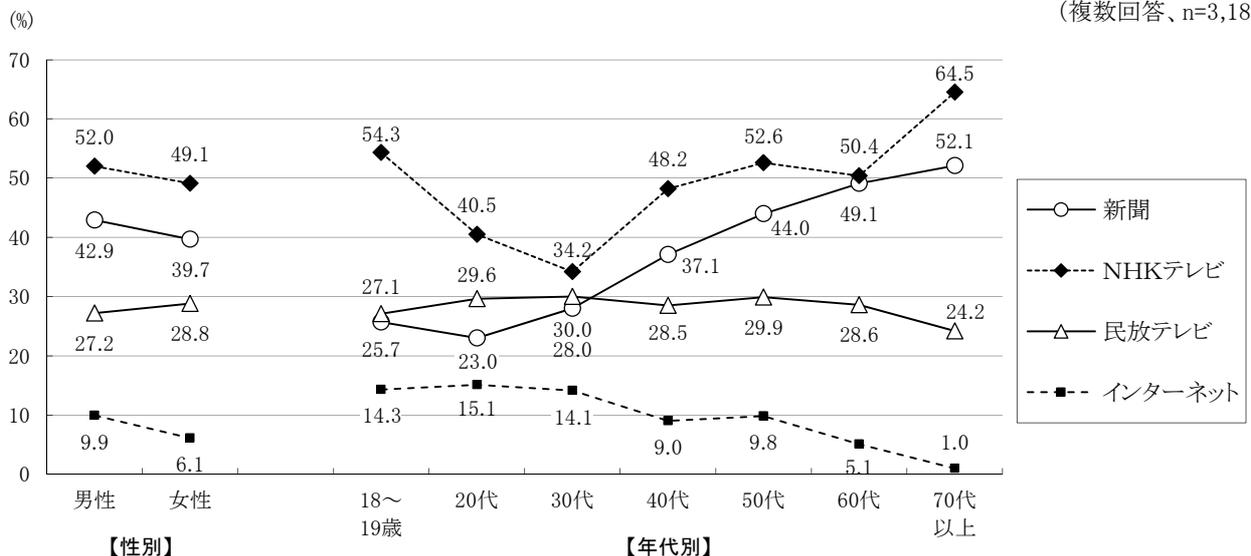


図6-3 「公正・中立な報道がされていた」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,183)



## 7. 戦後70年に関する報道で好ましくなかった点は？

— 「70年の節目というだけで取り上げている」が42%で最多 —

- ・戦後70年に関する報道で好ましくなかった点を尋ねたところ、「70年の節目というだけで取り上げている感じがあった」が41.6%、「どのメディアも同じような報道で差を感じなかった」が34.3%、「戦後70年から次の時代を考えるような報道がなかった」が32.7%となった。
- ・性別に見ると、「戦後70年から次の時代を考えるような報道がなかった」「戦争の話題に集中しすぎた」「戦後70年の歴史的な視点からの報道が少なかった」は男性の方が挙げる割合が5ポイント以上多かった。年代別に見ると、「70年の節目というだけで取り上げている感じがあった」は全年代で最も多く挙げられた。「戦後70年から次の時代を考えるような報道がなかった」は年代の高い層で多く挙げられた。

図7-1 戦後70年報道で好ましくなかった点

(複数回答、n=3,183)

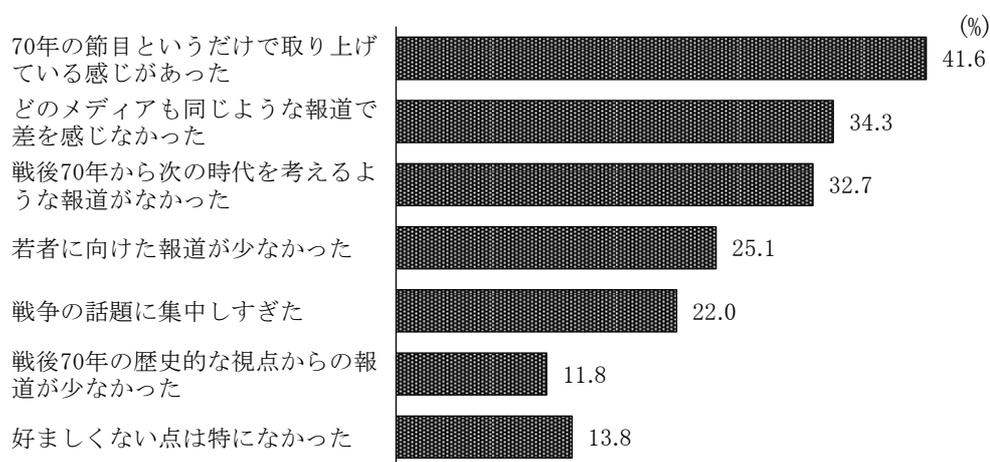
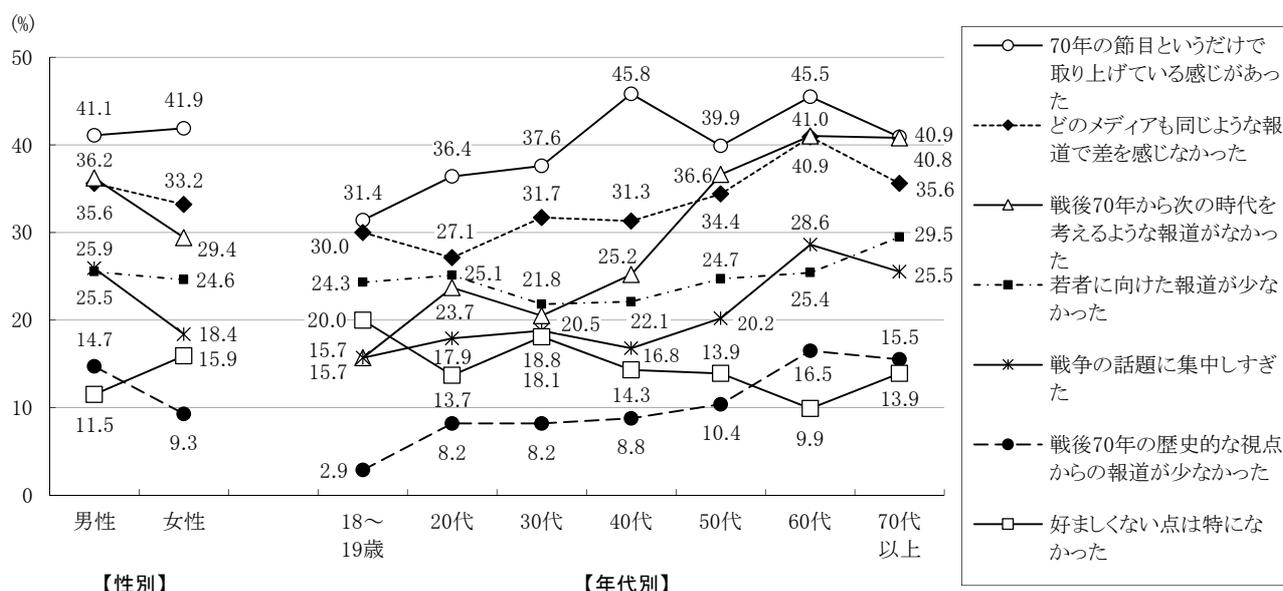


図7-2 戦後70年報道で好ましくなかった点(性・年代別)

(複数回答、n=3,183)



## 8. 戦後 70 年と聞いて思い浮かぶ人物・事柄は？

### — 人物は「昭和天皇」、事柄は「平和」 —

- ・戦後 70 年と聞いて思い浮かぶ人物を挙げてもらったところ、「昭和天皇」が 779 人と最も多く、以下、「親、兄弟など身内」が 274 人、「安倍晋三」が 174 人、「吉田茂」が 126 人、「田中角栄」が 102 人という結果になった。
- ・戦後 70 年と聞いて思い浮かべることを挙げてもらったところ、「平和」が 583 人と最も多く、以下、「風化・忘れてはいけない」が 258 人、「戦争・終戦・敗戦」が 221 人、「原爆」が 215 人、「不戦・反戦・戦争への不安」が 208 人、「復興・経済発展」が 168 人という結果になった。戦争に関連する事柄を挙げた人が多かった。

図 8-1 戦後 70 年と聞いて思い浮かぶ人物

(記入あり、1,921 人)

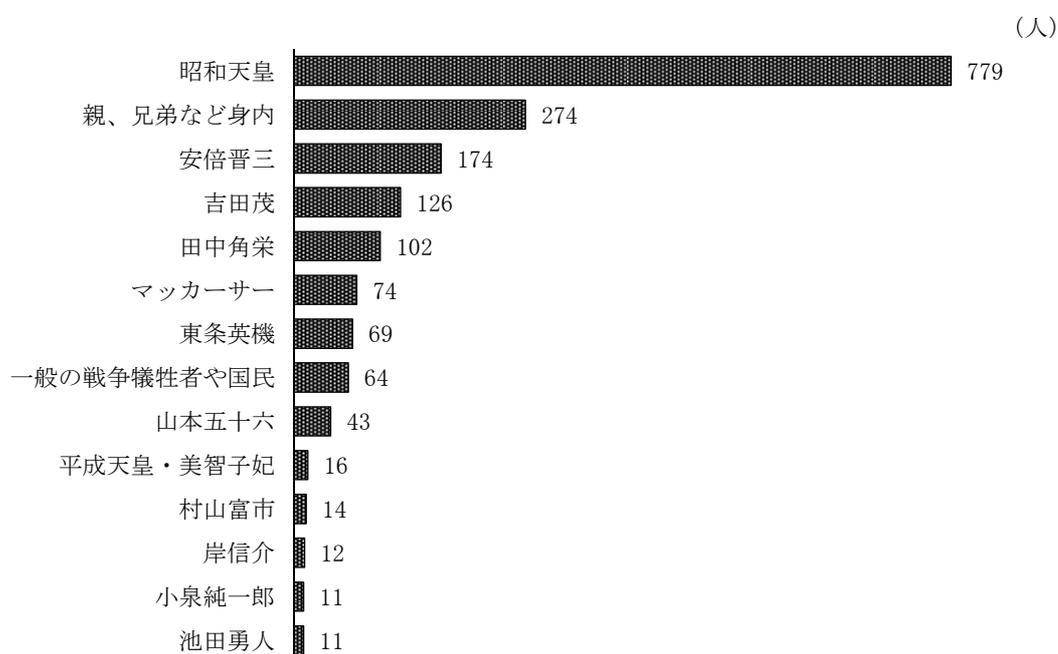
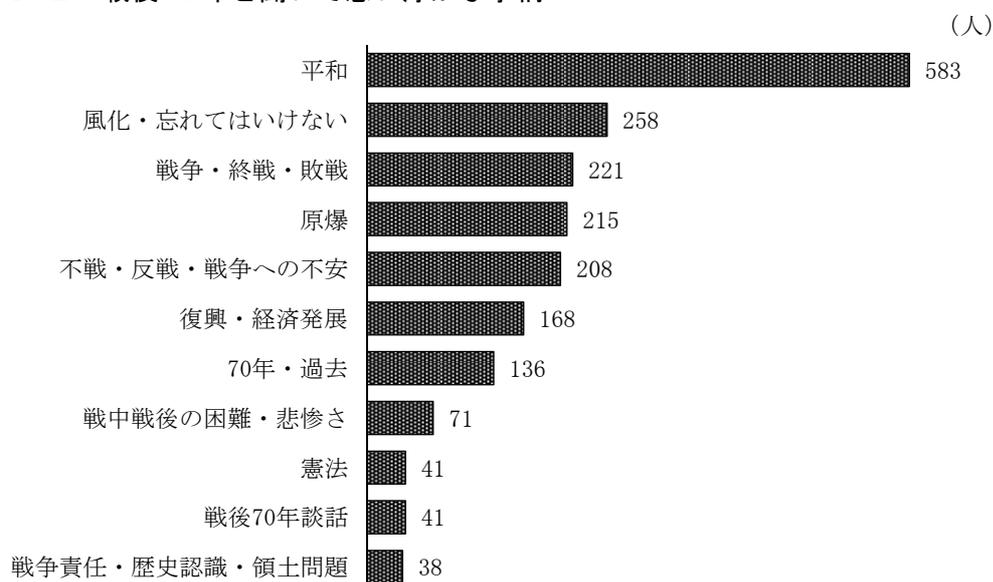


図 8-2 戦後 70 年と聞いて思い浮かぶ事柄

(記入あり、2,323 人)



## 9. 戦後70年、時代の印象は？

### － 半数近い人が「経済の時代」という印象 －

- ・戦後70年とはどのような時代だったという印象かを尋ねたところ、「経済の時代」を45.3%と半数近くの人が挙げた。以下、「国際関係の時代」12.2%、「家族や親族など身近な人との生活に根ざした時代」12.0%、「戦争の時代」9.8%、「科学技術の時代」9.6%となった。
- ・性別に見ると、男女とも「経済の時代」が他の項目に比べ圧倒的に多くなっているが、男性の方が挙げる割合が5.7ポイント多かった。年代別に見ると、全年代で「経済の時代」が1位となっているが、40代と50代をピークに18-19歳と60代が低くなる曲線を描いている。60代と70代以上では「家族や親族など身近な人との生活に根ざした時代」を挙げる人が多くなっている。

図9-1 戦後70年の時代の印象

(n=3,183)

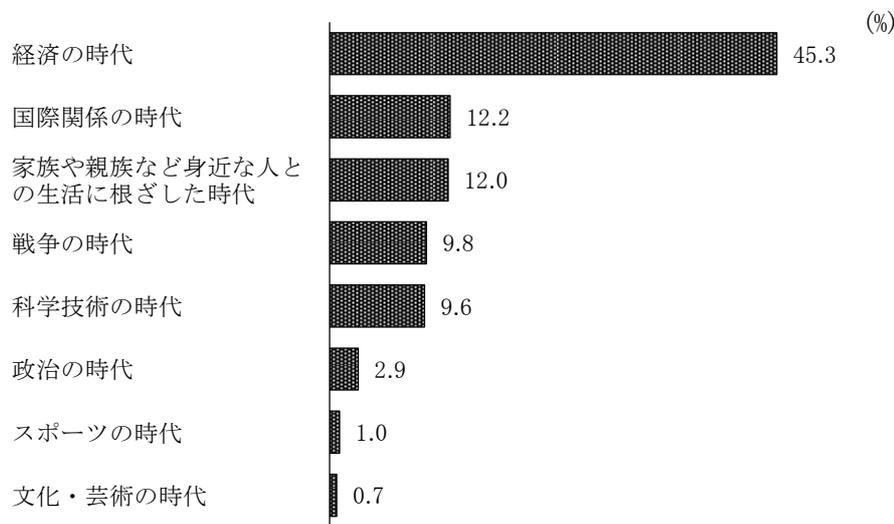
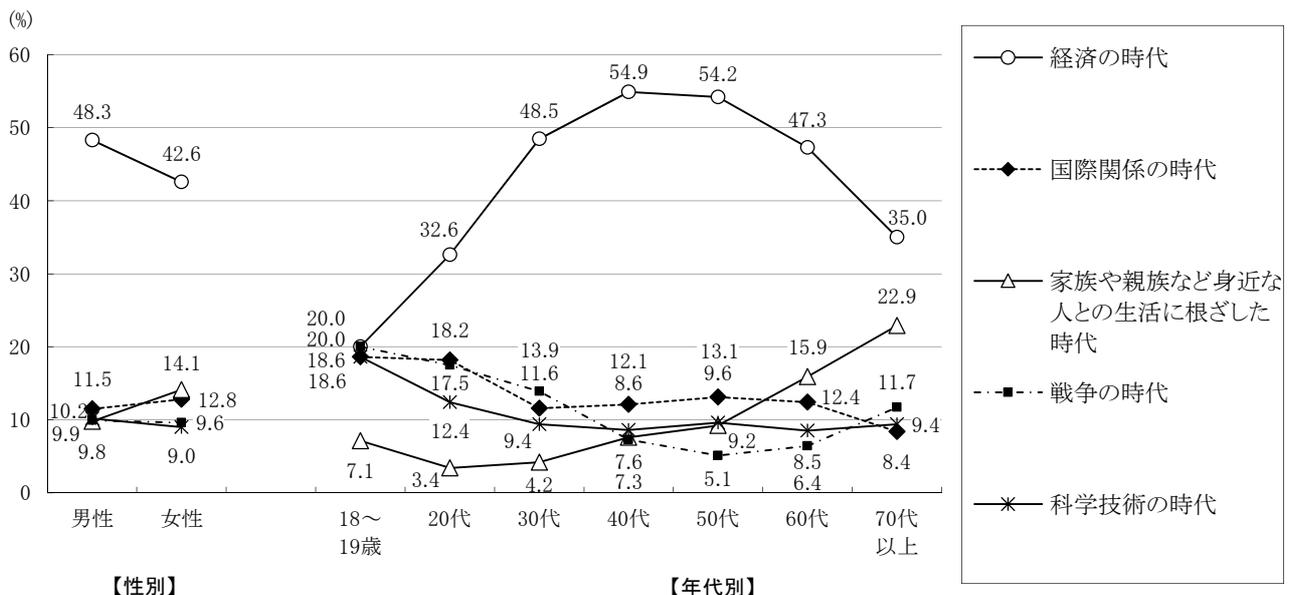


図9-2 戦後70年の時代の印象（性・年代別）

(n=3,183)



## 10. 戦後70年を経た今を天気で表すと？

— 「薄曇り」41%、「曇り」32% —

- ・戦後70年を経た今を1つの天気で表すと、「晴れ」が17.6%、「薄曇り」が41.0%、「曇り」が31.7%、「雨」が3.5%、「大雨」が2.1%という結果になった。
- ・性別、年代を問わず「薄曇り」「曇り」「晴れ」の順に挙げた人が多い結果となった。「晴れ」は女性より男性の方が3.2ポイント多く挙げており、年代別では30代以下に比べ40代以上で多く挙げられた。

図10-1 戦後70年を経た今を1つの天気で表すと

(複数回答、n=3,183)

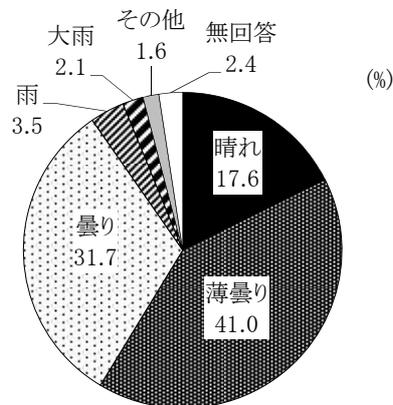
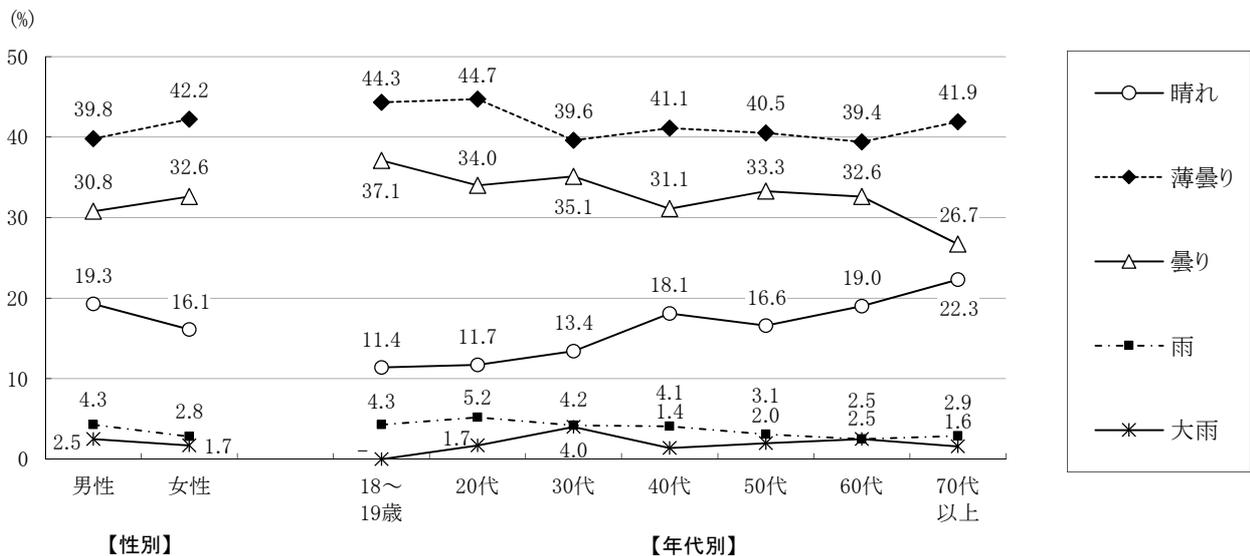


図10-2 戦後70年を経た今を1つの天気で表すと (性・年代別)

(複数回答、n=3,183)



## 《憲法改正問題に関する報道》

### 11. 憲法改正問題に関心がある？（＊）

－ 「関心がある」75%と昨年度から5ポイント増 －

- ・憲法改正問題に、「関心がある」と答えた人が74.9%（「非常に関心がある」27.3%と「やや関心がある」47.6%の計）、「関心がない」と答えた人が24.3%（「あまり関心がない」19.7%と「全く関心がない」4.6%の計）となった。関心がある人の割合が前回調査から5.0ポイント増加した。
- ・性別に見ると、「関心がある」と答えた人の割合は、女性が70.8%に対し男性が79.5%と、男性の方が8.7ポイント高かった。年代別に見ると、最も関心が高かったのが50代で80.8%、続いて60代で79.2%、70代以上で77.9%という結果になった。

図 11-1 憲法改正問題への関心

(n=3,183)

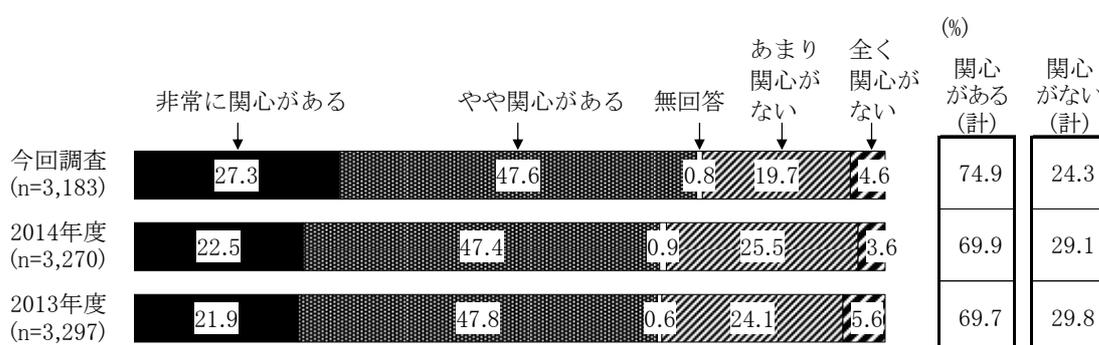
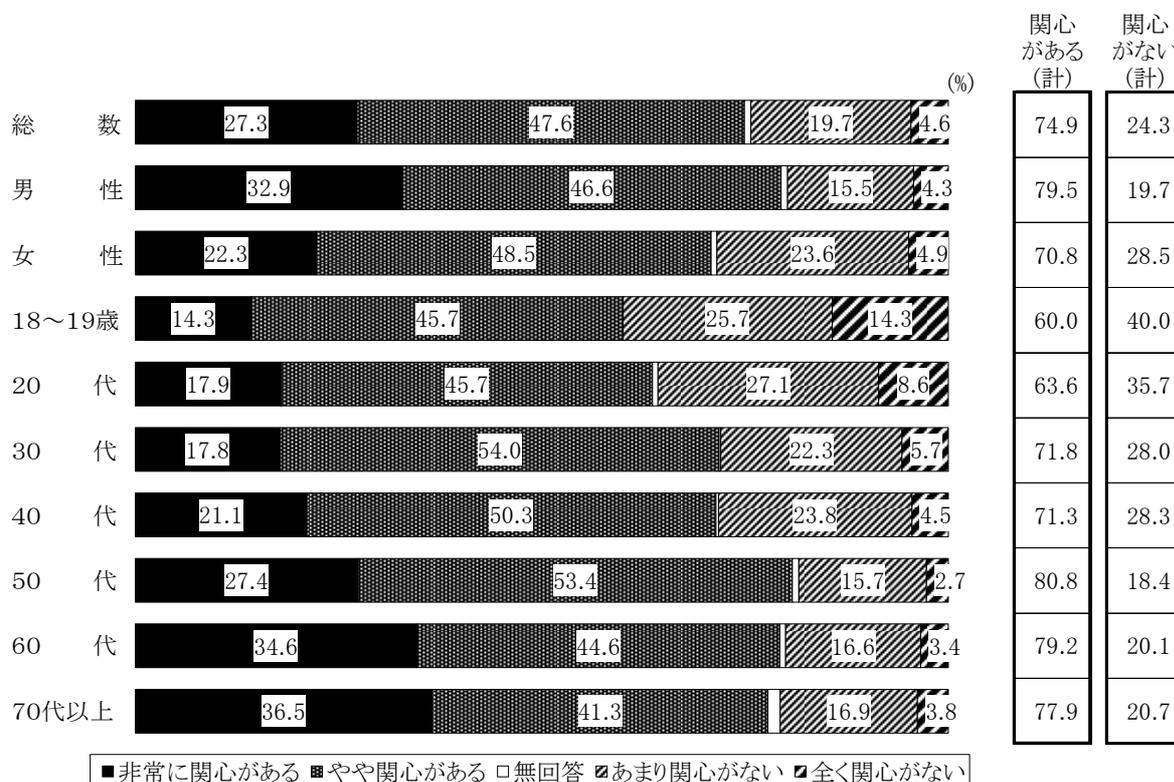


図 11-2 憲法改正問題への関心（性・年代別）

(n=3,183)



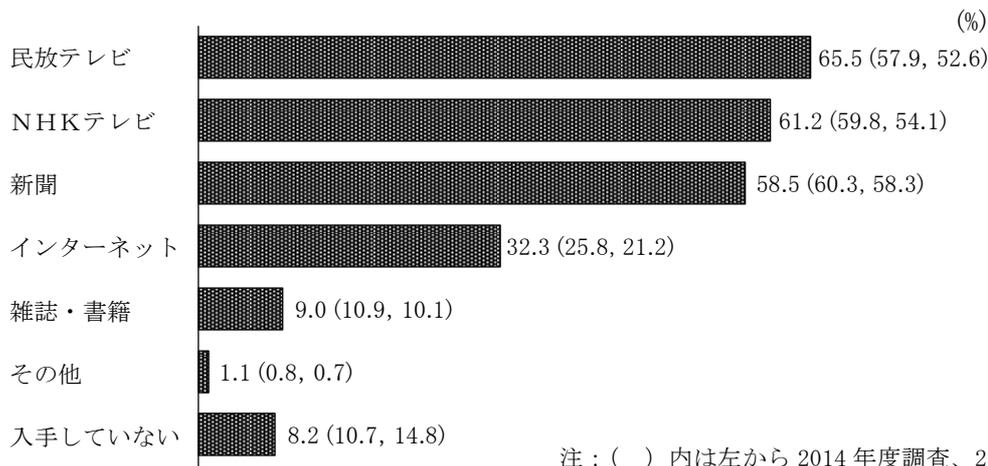
## 12. 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディアは？（＊）

－ 「民放テレビ」66%、「NHK テレビ」61%、「新聞」59% －

- ・憲法改正問題に関する情報をどのメディアから入手しているか質問したところ、「民放テレビ」を挙げた人が65.5%と最も多く、以下、「NHKテレビ」が61.2%、「新聞」が58.5%、「インターネット」が32.3%という結果になった。前回調査と比べると、民放テレビは7.6ポイント、NHKテレビは1.4ポイント、インターネットは6.5ポイント増加したが、新聞は1.8ポイント減少した。
- ・性別では男女ともに民放テレビ、NHKテレビ、新聞、インターネットの順となった。
- ・年代別に見ると、50代以下では民放テレビが1位、60代では新聞が1位、70代以上ではNHKテレビが1位となった。また、30代以下ではインターネットが2位となり、3位のNHKテレビ、4位の新聞を上回った。新聞、NHKテレビは20代から年代の上昇とともに割合が高くなるが、インターネットは20代以上で年代が低いほど割合が高くなっている。

図 12-1 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディア

(複数回答、n=3,183)



注：( ) 内は左から 2014 年度調査、2013 年度調査の数値

表 12-1 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディア（性・年代別）

(複数回答、n=3,183)

|        | 1 位            | 2 位             | 3 位            | 4 位             | 5 位             | 6 位            |
|--------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 総数     | 民放テレビ<br>65.5  | NHKテレビ<br>61.2  | 新聞<br>58.5     | インターネット<br>32.3 | 雑誌・書籍<br>9.0    | 入手していない<br>8.2 |
| 男性     | 民放テレビ<br>65.2  | NHKテレビ<br>65.0  | 新聞<br>63.2     | インターネット<br>36.9 | 雑誌・書籍<br>11.7   | 入手していない<br>6.2 |
| 女性     | 民放テレビ<br>65.7  | NHKテレビ<br>57.8  | 新聞<br>54.3     | インターネット<br>28.1 | 入手していない<br>10.0 | 雑誌・書籍<br>6.4   |
| 18-19歳 | 民放テレビ<br>54.3  | インターネット<br>50.0 | NHKテレビ<br>41.4 | 新聞<br>27.1      | 入手していない<br>18.6 | 雑誌・書籍<br>-     |
| 20代    | 民放テレビ<br>58.4  | インターネット<br>57.7 | NHKテレビ<br>37.8 | 新聞<br>26.8      | 入手していない<br>17.2 | 雑誌・書籍<br>5.8   |
| 30代    | 民放テレビ<br>63.6  | インターネット<br>56.7 | NHKテレビ<br>43.6 | 新聞<br>32.2      | 入手していない<br>10.4 | 雑誌・書籍<br>4.5   |
| 40代    | 民放テレビ<br>70.5  | 新聞<br>52.8      | NHKテレビ<br>50.9 | インターネット<br>45.1 | 入手していない<br>8.6  | 雑誌・書籍<br>7.1   |
| 50代    | 民放テレビ<br>71.8  | 新聞<br>67.1      | NHKテレビ<br>66.1 | インターネット<br>37.4 | 雑誌・書籍<br>10.4   | 入手していない<br>3.5 |
| 60代    | 新聞<br>72.9     | NHKテレビ<br>70.8  | 民放テレビ<br>68.4  | インターネット<br>17.4 | 雑誌・書籍<br>13.0   | 入手していない<br>6.0 |
| 70代以上  | NHKテレビ<br>79.6 | 新聞<br>75.5      | 民放テレビ<br>59.2  | 雑誌・書籍<br>10.4   | 入手していない<br>7.0  | インターネット<br>5.1 |

(憲法改正問題に関する情報を入手している人に) (全体の 91.2%)

### 13. 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいメディアは? (\*)

— 「民放テレビ」54%、「NHK テレビ」46%、「新聞」44% —

- ・憲法改正問題に関する情報で分かりやすいと思うメディアを挙げてもらったところ、「民放テレビ」が 53.6%、「NHKテレビ」が 45.5%、「新聞」が 43.5%、「インターネット」が 20.0%という結果になった。前回調査では、民放テレビ、NHKテレビ、新聞の評価は同等であった。今回はNHKテレビと新聞の割合が減少したのに対し、民放テレビは 5.2 ポイント増加してトップとなった。
- ・性別では男女ともに民放テレビ、NHKテレビ、新聞、インターネットの順となった。
- ・年代別に見ると、60代以下では民放テレビが1位、70代以上ではNHKテレビが1位となった。また、30代以下では情報入手メディア同様、インターネットが2位となった。新聞、NHKテレビは20代から年代の上昇とともに割合が高くなるが、インターネットは20代以上では年代が低いほど割合が高くなっている。

図 13-1 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいと思うメディア (複数回答、n=2,903)

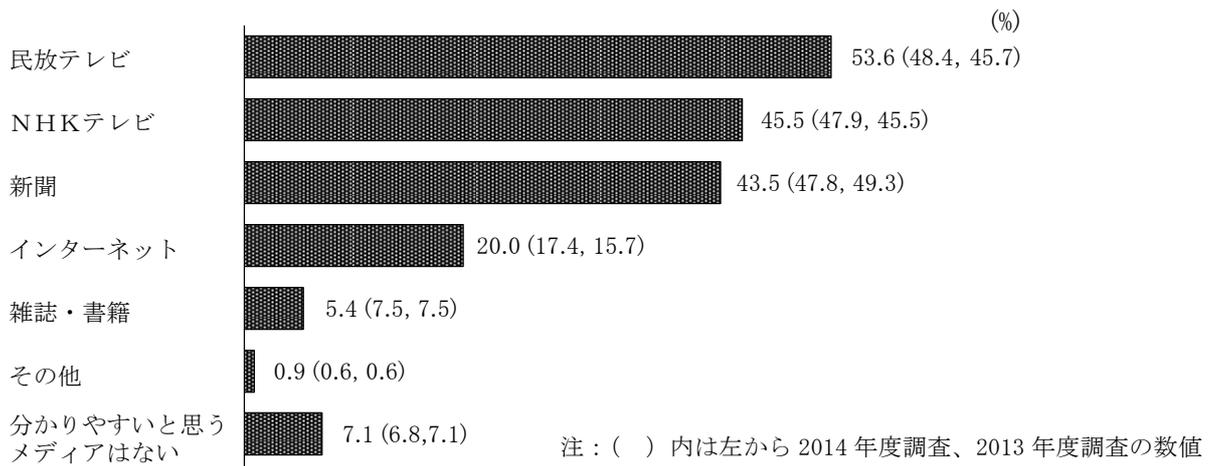


表 13-1 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいと思うメディア (性・年代別) (複数回答、n=2,903)

|        | 1 位            | 2 位             | 3 位            | 4 位             | 5 位          | 6 位            |
|--------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|--------------|----------------|
| 総 数    | 民放テレビ<br>53.6  | NHKテレビ<br>45.5  | 新聞<br>43.5     | インターネット<br>20.0 | ない<br>7.1    | 雑誌・書籍<br>5.4   |
| 男 性    | 民放テレビ<br>50.4  | NHKテレビ<br>48.9  | 新聞<br>48.1     | インターネット<br>23.1 | 雑誌・書籍<br>7.5 | ない<br>6.6      |
| 女 性    | 民放テレビ<br>56.7  | NHKテレビ<br>42.3  | 新聞<br>39.1     | インターネット<br>17.0 | ない<br>7.5    | 雑誌・書籍<br>3.4   |
| 18-19歳 | 民放テレビ<br>51.8  | インターネット<br>30.4 | NHKテレビ<br>28.6 | 新聞<br>19.6      | ない<br>8.9    | 雑誌・書籍<br>-     |
| 20 代   | 民放テレビ<br>49.6  | インターネット<br>43.8 | NHKテレビ<br>27.9 | 新聞<br>15.4      | ない<br>7.9    | 雑誌・書籍<br>4.2   |
| 30 代   | 民放テレビ<br>51.5  | インターネット<br>38.2 | NHKテレビ<br>28.0 | 新聞<br>21.9      | ない<br>7.5    | 雑誌・書籍<br>2.5   |
| 40 代   | 民放テレビ<br>56.1  | NHKテレビ<br>34.5  | 新聞<br>33.5     | インターネット<br>28.2 | ない<br>8.5    | 雑誌・書籍<br>3.8   |
| 50 代   | 民放テレビ<br>56.9  | NHKテレビ<br>46.3  | 新聞<br>43.9     | インターネット<br>20.3 | ない<br>6.4    | 雑誌・書籍<br>5.3   |
| 60 代   | 民放テレビ<br>55.8  | 新聞<br>54.8      | NHKテレビ<br>52.3 | インターネット<br>10.0 | ない<br>7.9    | 雑誌・書籍<br>7.7   |
| 70代以上  | NHKテレビ<br>66.0 | 新聞<br>65.6      | 民放テレビ<br>49.9  | 雑誌・書籍<br>7.2    | ない<br>4.8    | インターネット<br>2.2 |

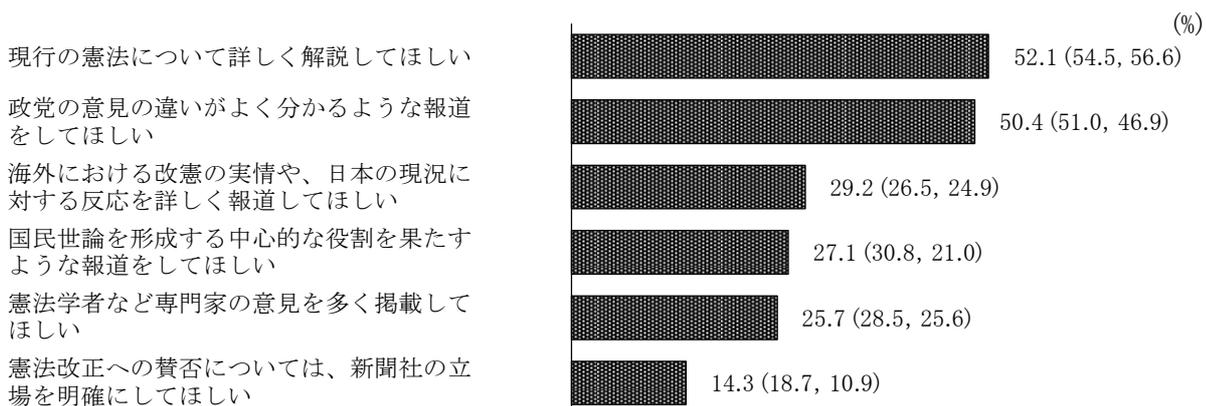
# 14. 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道は？（\*）

## — 新聞は「海外の実情や日本の現況に対する反応についての報道」を —

- ・国会で憲法改正問題が議論されていく中で新聞に期待する報道を尋ねたところ、前回同様、「現行の憲法について詳しく解説してほしい」52.1%、「政党の意見の違いがよく分かるような報道をしてほしい」50.4%が多かった。
- ・「海外における改憲の実情や、日本の現況に対する反応を詳しく報道してほしい」は29.2%（2013年度調査24.9%、2014年度調査26.5%）と増加傾向にある。安保法案の成立など国民を取り巻く状況が変化する中で、人々が新聞報道に求めることも変化している。
- ・性別に見ると、「政党の意見の違い」は5.4ポイント、「海外における改憲の実情や、日本の現況に対する反応」は6.1ポイント、「新聞社の立場を明確に」は7.5ポイント、男性の方が挙げる割合が多かった。年代別に見ると、全ての年代で「現行の憲法についての詳しい解説」と「政党の意見の違い」が1～2位となった。「国民世論を形成」「憲法学者など専門家の意見」「新聞社の立場を明確に」は年代が高い層で割合が高かった。

図 14-1 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道

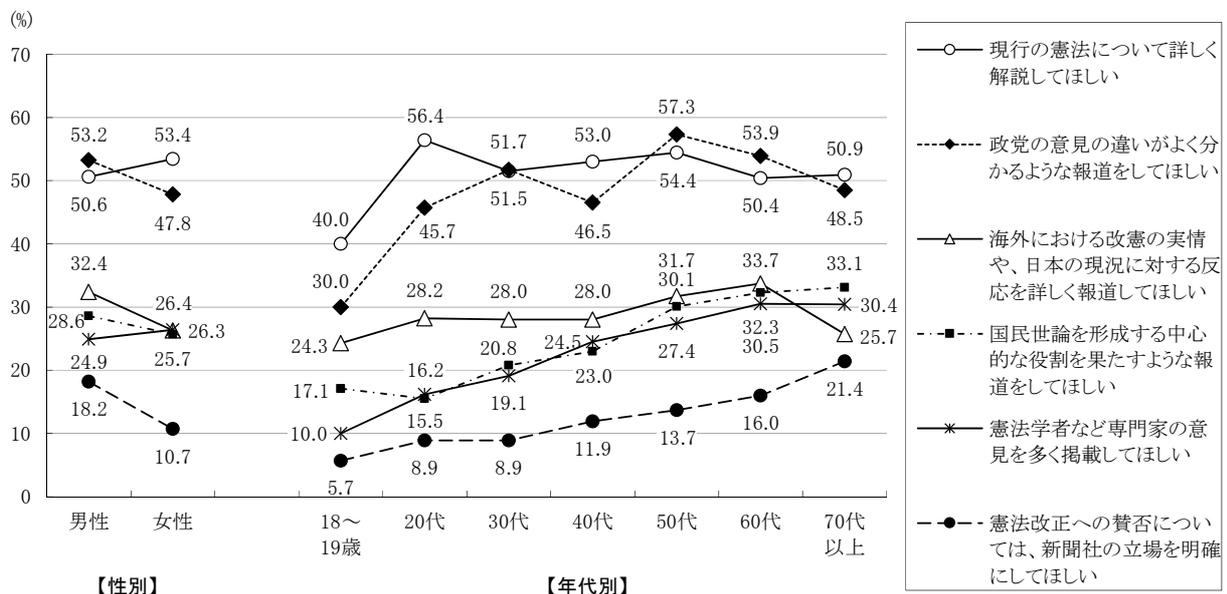
（複数回答、n=3,183）



注：（ ）内は左から2014年度調査、2013年度調査の数値

図 14-2 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道（性・年代別）

（複数回答、n=3,183）



# 15. 集団的自衛権に関する新聞の報道は？（＊）

－ 「分かりやすかった」19%、「分かりにくかった」22% －

- ・集団的自衛権に関する新聞報道に、「分かりやすかった」と答えた人が18.5%（「分かりやすかった」1.9%と「どちらかと言えば分かりやすかった」16.6%の計）、「分かりにくかった」と答えた人が22.1%（「どちらかと言えば分かりにくかった」16.4%と「分かりにくかった」5.7%の計）となった。「どちらとも言えない」と答えた人が56.9%と半数以上を占めた。全体的な国民の評価は昨年から変化していない。
- ・性別に見ると、「分かりやすかった」と答えた人の割合は、女性が15.5%に対し男性が21.7%と、男性の方が6.2ポイント高かった。年代別に見ると、「分かりやすかった」と答えた人の割合は30代以下では10%前後となったのに対し、40代以上では20%前後となった。

図 15-1 集団的自衛権に関する新聞報道の評価 (n=3,183)

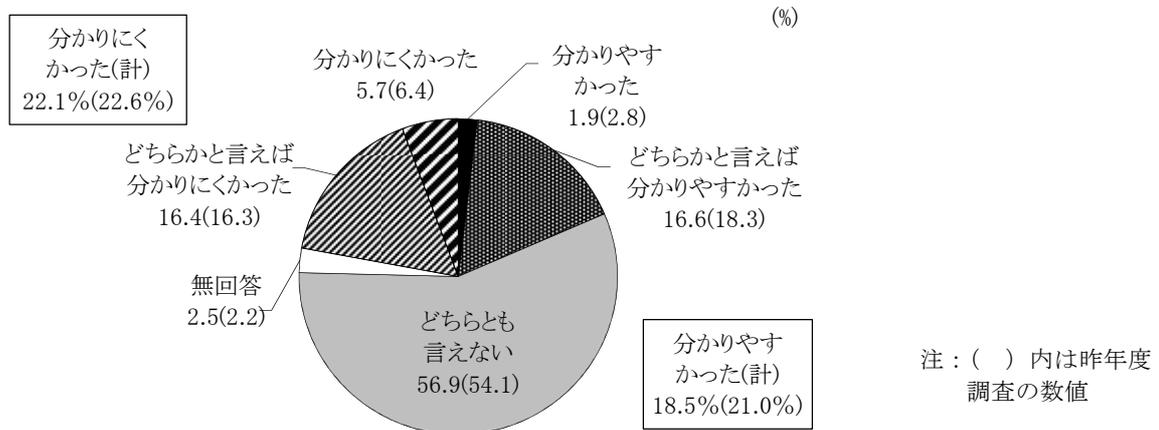
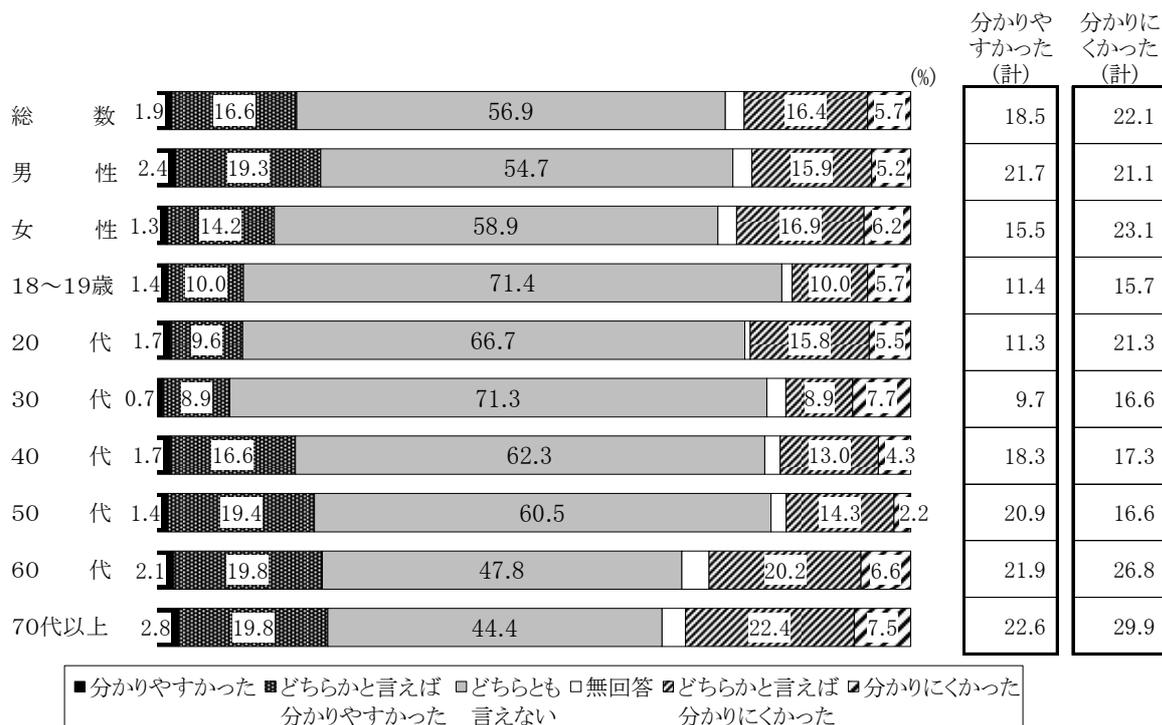


図 15-2 集団的自衛権に関する新聞報道の評価（性・年代別） (n=3,183)



## 《報道の自由》

### 16. 報道の自由についてどう思う？

— 「報道の自由は常に保障されるべきだ」が83% —

- ・「報道の自由は常に保障されるべきだ」については、「思う」と答えた人が 83.2%、「思わない」と答えた人が 14.0%となった。「メディアは報道の自由を振りかざしていると思うか」という質問に対して「思わない」と答えた人が 51.7%、「思う」と答えた人が 43.4%となった。「現在の報道を見ていると、圧力をかけられても仕方がないと思うか」という質問に対して「思わない」と答えた人が 60.4%、「思う」と答えた人が 35.2%となった。「政府が国益を損なうという理由でメディアに圧力をかけるのは当然だと思うか」という質問に対して「思わない」と答えた人が 67.8%、「思う」と答えた人が 27.6%となった。
- ・性別に見ると、「メディアは報道の自由を振りかざしていると思う」と答えた人の割合は女性より男性の方が 7.9 ポイント高かった。年代別に見ると、18-19 歳で「報道の自由は常に保障されるべきだ」と答えた人の割合が他の年代より低く、「メディアは報道の自由を振りかざしている」「現在の報道を見ていると、圧力をかけられても仕方がない」「政府が国益を損なうという理由でメディアに圧力をかけるのは当然だ」と答えた人の割合が他の年代より高かった。

図 16-1 報道の自由について

(n=3,183)

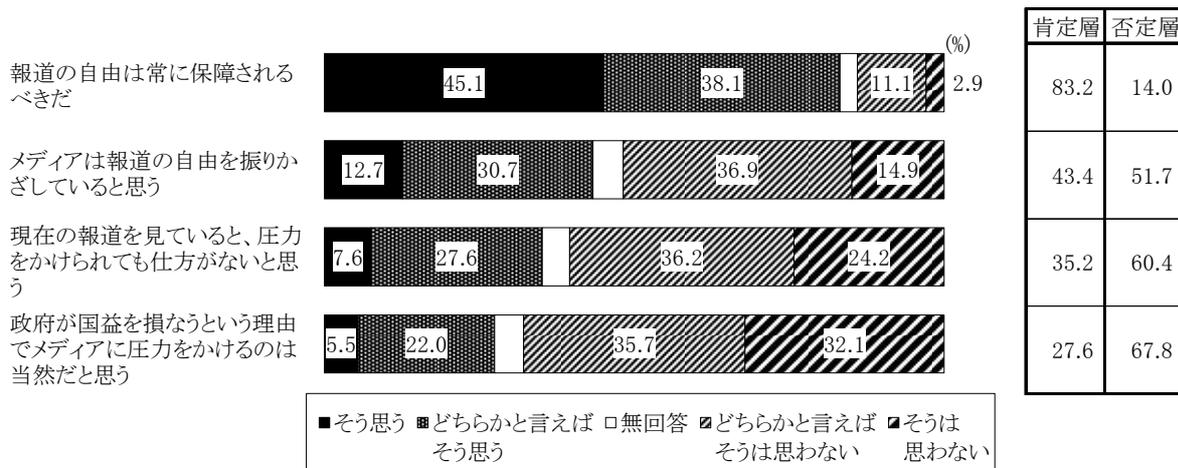
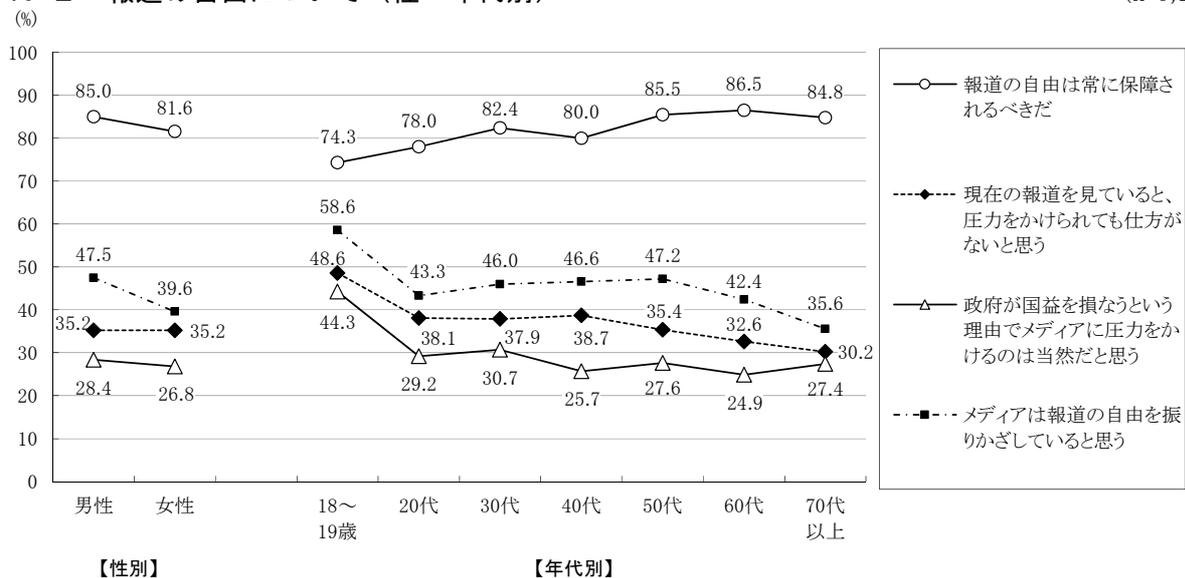


図 16-2 報道の自由について（性・年代別）

(n=3,183)



## 《新聞への意見》

### 17. 新聞についてどう思う？（\*）

— 情報の「多様性」「正確性」「責任感」に高い評価 —  
「多種多様な情報を知ることができる」が71%

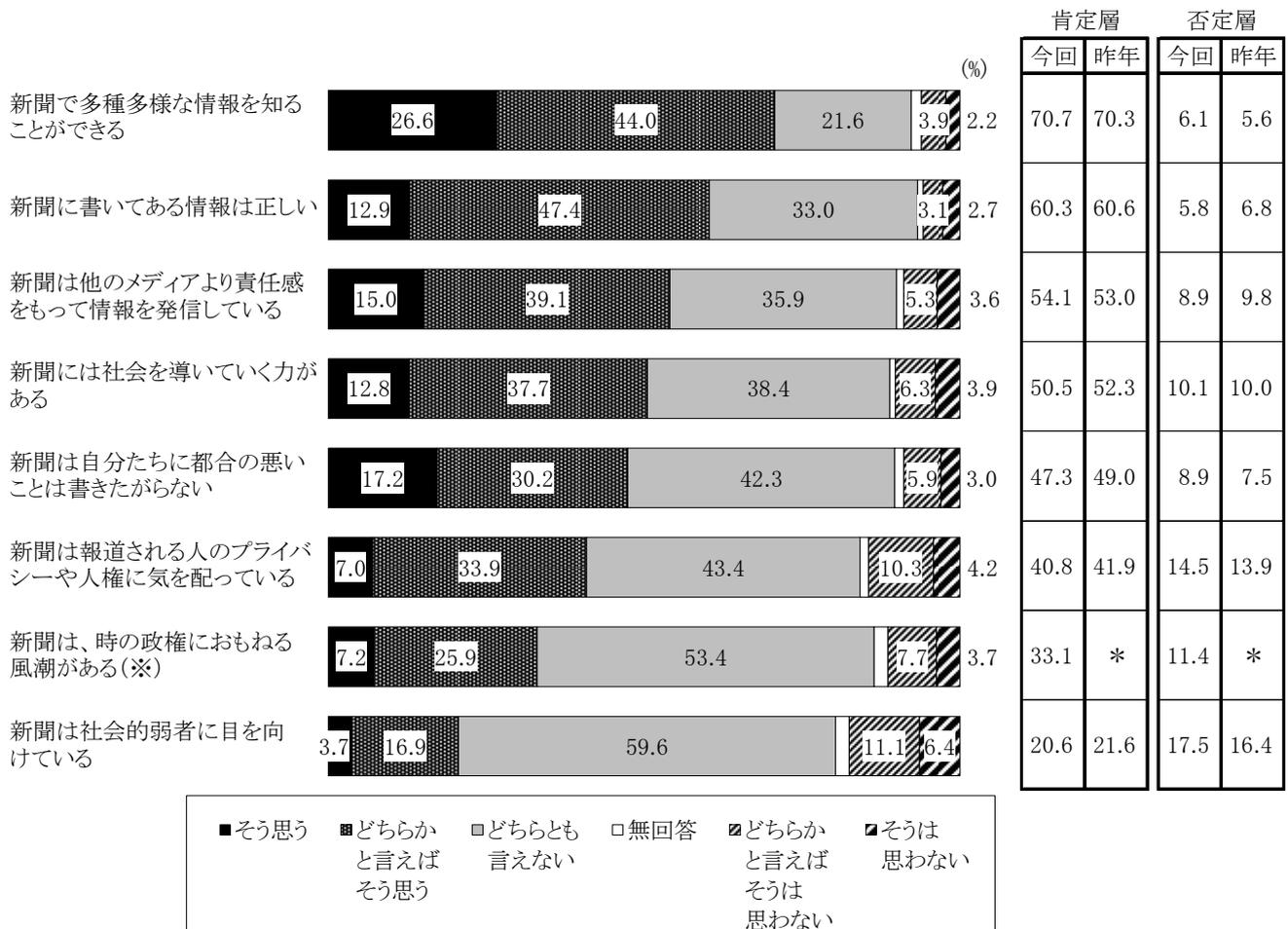
- ・新聞についての印象や意見について、肯定層の占める割合を比較すると、「新聞で多種多様な情報を知ることができる」（70.7%）が最も多く、次いで、「新聞に書いてある情報は正しい」（60.3%）、「新聞は他のメディアより責任感をもって情報を発信している」（54.1%）、「新聞には社会を導いていく力がある」（50.5%）の順に多くなっており、新聞が発信している情報に対しての評価は高い。
- ・他方、「新聞は報道される人のプライバシーや人権に気を配っている」と「新聞は社会的弱者に目を向けている」で、否定層がそれぞれ14.5%、17.5%となり、新聞の報道倫理に対しては比較的厳しい目が向けられている。
- ・昨年度調査と比較すると、あまり変化は見られなかった。

※肯定層：「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」

否定層：「どちらかと言えばそうは思わない」＋「そうは思わない」

図 17-1 新聞についての印象や意見

(n=3,183)



(※)今年度の新規質問

- ・「新聞で多種多様な情報を知ることができる」の肯定層は、20代・30代で6割台、18-19歳と40代以上で7割台となった。幅広い情報を得られる媒体という点が、世代を問わず評価されていることが分かった。
- ・「新聞は他のメディアより責任感をもって情報発信している」の肯定層は、30代で41.3%と最も低く年代が上がるほど増加する傾向があり、70代以上で62.3%となった。
- ・「新聞は社会的弱者に目を向けている」の否定層は、20代・30代で2割台となり、肯定層を上回った。40代以上では肯定層が否定層を上回るが、肯定層の割合は、最も多い70代以上でも3割に届かない。

図 17-2 「新聞で多種多様な情報を知ることができる」(性・年代別) (n=3,183)

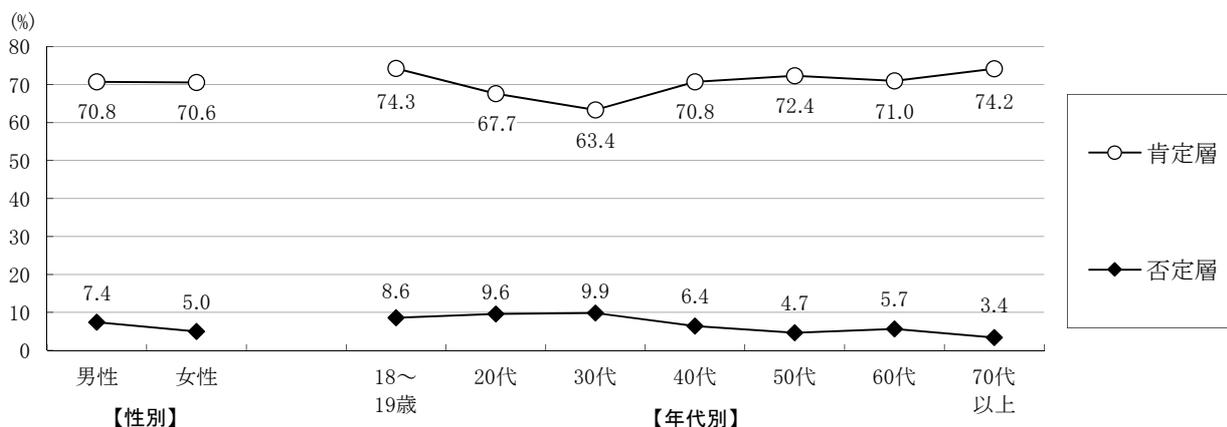


図 17-3 「新聞は他のメディアより責任感をもって情報を発信している」(性・年代別) (n=3,183)

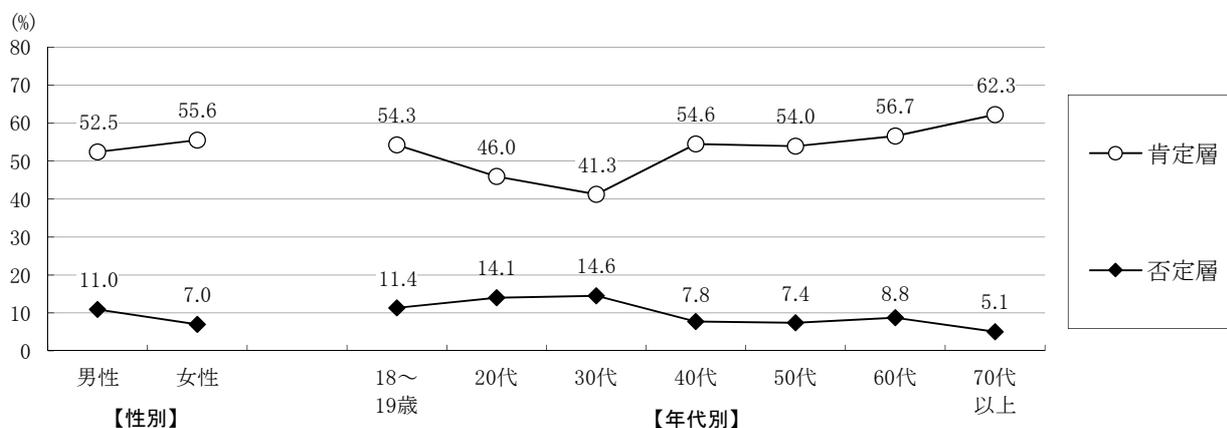
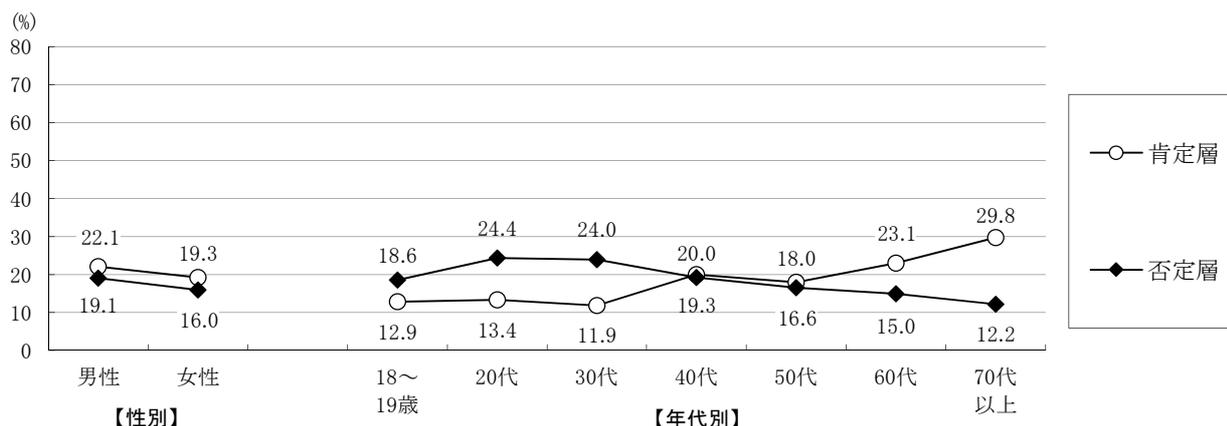


図 17-4 「新聞は社会的弱者に目を向けている」(性・年代別) (n=3,183)



# 18. 新聞の政治に対する態度についてどう思う？（\*）

－ 「不正を追及」に4割が肯定。

「政治家について全て報道している」には変わらず厳しい評価

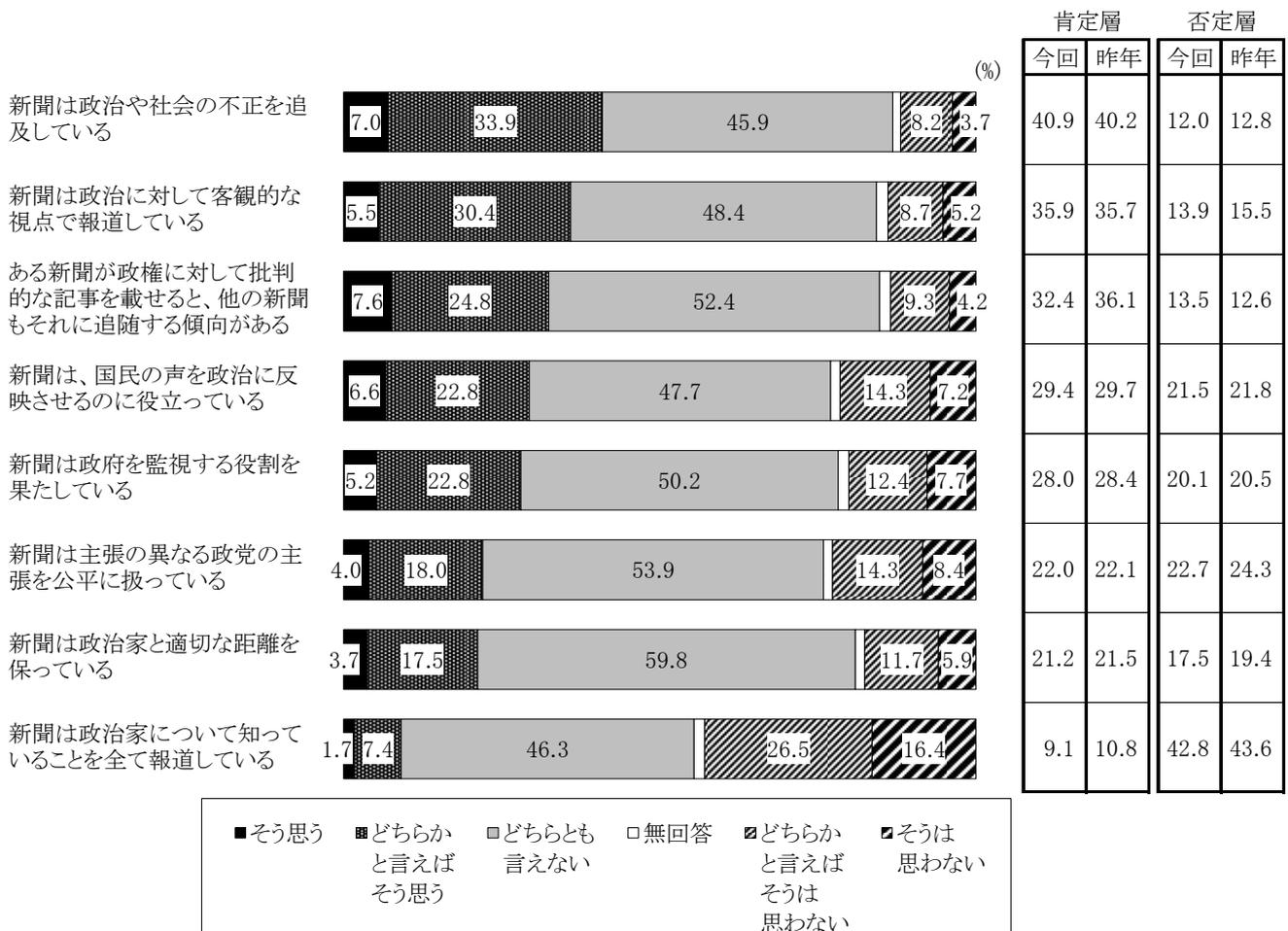
- ・新聞と政治の関係についての意見に関して、肯定層の占める割合を比較したところ、「新聞は政治や社会の不正を追及している」（40.9%）が最も多く、次いで、「新聞は政治に対して客観的な視点で報道している」（35.9%）、「ある新聞が政権に対して批判的な記事を載せると、他の新聞もそれに追随する傾向がある」（32.4%）が多かった。
- ・新聞と政治家の関わりに関する項目については評価が低い傾向にある。「新聞は政治家について知っていることを全て報道している」の否定層が42.8%に上り、「新聞は政治家と適切な距離を保っている」の肯定層が21.2%に留まるなど評価が厳しい。
- ・昨年度調査と比較すると「ある新聞が政権に対して批判的な記事を載せると、他の新聞もそれに追随する傾向がある」の肯定層が3.7ポイント減少した。

※肯定層：「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」

否定層：「どちらかと言えばそうは思わない」＋「そうは思わない」

図 18-1 新聞と政治についての意見

(n=3,183)



- ・「新聞は政治や社会の不正を追及している」の肯定層は、20代（27.5%）と30代（27.7%）で少なく、40代以降、年代が上がるにつれて多くなっている。一方、否定層は20代と30代で多く、年代の上昇と共に少なくなり、肯定層と否定層との差も年代の上昇に伴い大きく開いていく。
- ・「新聞は政府を監視する役割を果たしている」は、20代と30代で否定層が多く、肯定層を10ポイント前後上回った。40代以上では年代が上がるほど肯定層の割合が高くなり、否定層との差が大きくなっていく。
- ・「新聞は主張の異なる政党の主張を公平に扱う」は、40代以下で否定層が肯定層を上回ったが、20代・30代ではその差が15ポイント前後と大きくなった。70代以上では肯定層が否定層を15.5ポイント上回った。

図 18-2 新聞は政治や社会の不正を追及している（性・年代別）

(n=3,183)

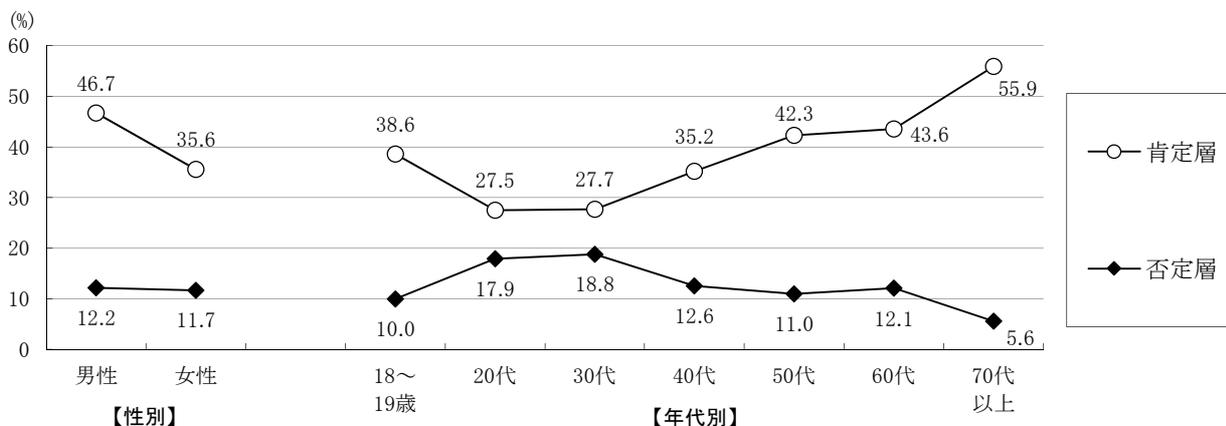


図 18-3 新聞は政府を監視する役割を果たしている（性・年代別）

(n=3,183)

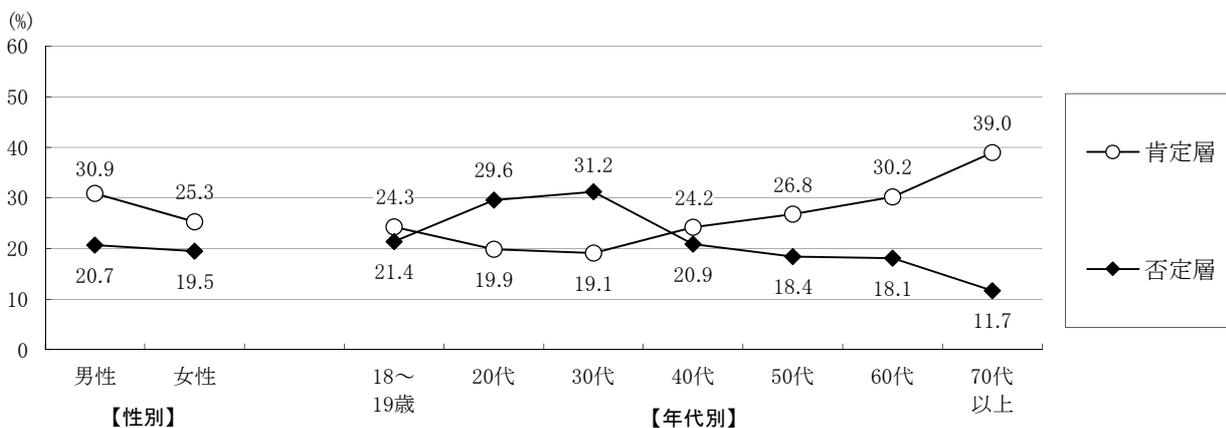
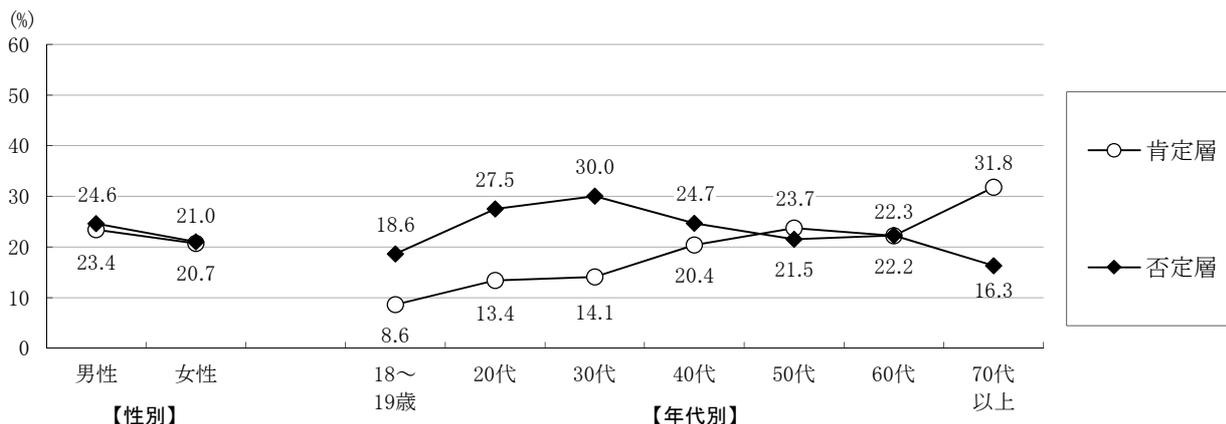


図 18-4 新聞は主張の異なる政党の主張を公平に扱う（性・年代別）

(n=3,183)



# 19. 新聞の政治的立場についてどう思う？（\*）

— 欧米のように政治色を出すことに否定的なのは昨年度と変わらず —  
 「独自色」は13%、「不偏不党」は67%

- ・新聞の政治的立場について、「A：新聞は、それぞれ独自の政治色をはっきり出した方がよい」と考える独自色派は13.3%で、「B：新聞は、1つの政党に偏ることなく不偏不党を貫くべきだ」と考える不偏不党派が66.9%と多く、欧米のように新聞に政治色を出すことに否定的な意見が圧倒的多数を占めた。昨年度と同様、不偏不党派が独自色派を大きく上回った。
- ・年代別に見ると、不偏不党派は最も少ない18-19歳でも57.1%と過半数を占め、いずれの年代(58.9%～75.3%)でも、独自色派(8.5%～16.6%)を大きく上回っており、新聞は不偏不党であるべきとの意見が強いことが分かる。
- ・昨年度調査と比較すると、不偏不党派優位の傾向は変わらないが、全体で不偏不党派が3.1ポイント増加し、60代を除く全年代での増加となった。50代以下では5ポイント以上の増加となった。

※独自色派：「Aに近い」+「どちらかと言えばAに近い」  
 不偏不党派：「どちらかと言えばBに近い」+「Bに近い」

図 19-1 新聞の政治的立場についての意見 (n=3,183)

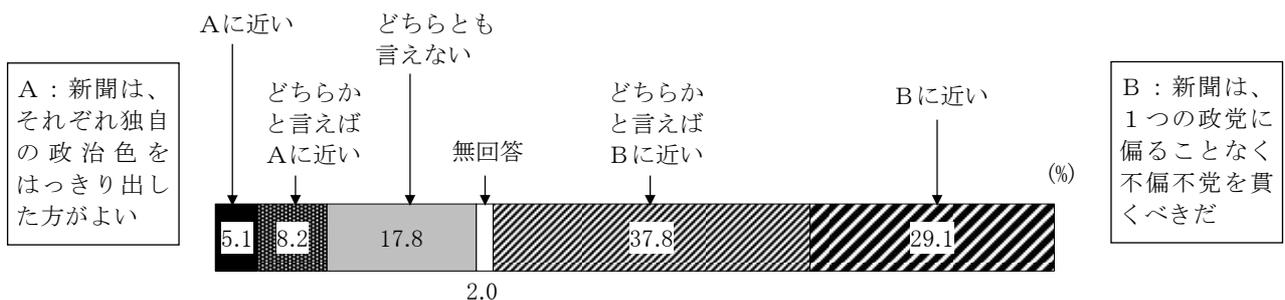
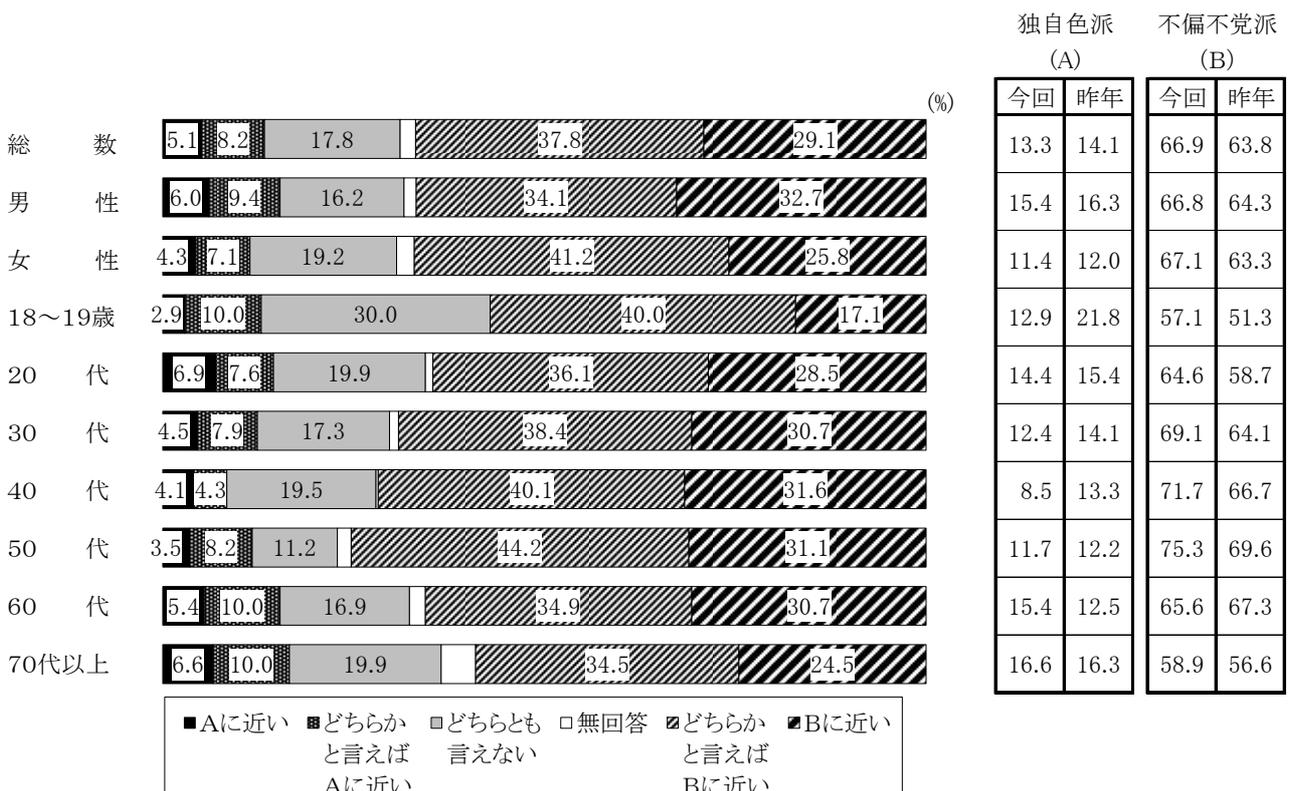


図 19-2 新聞の政治的立場についての意見（性・年代別） (n=3,183)



## 20. 新聞の記事の満足度は？（\*）

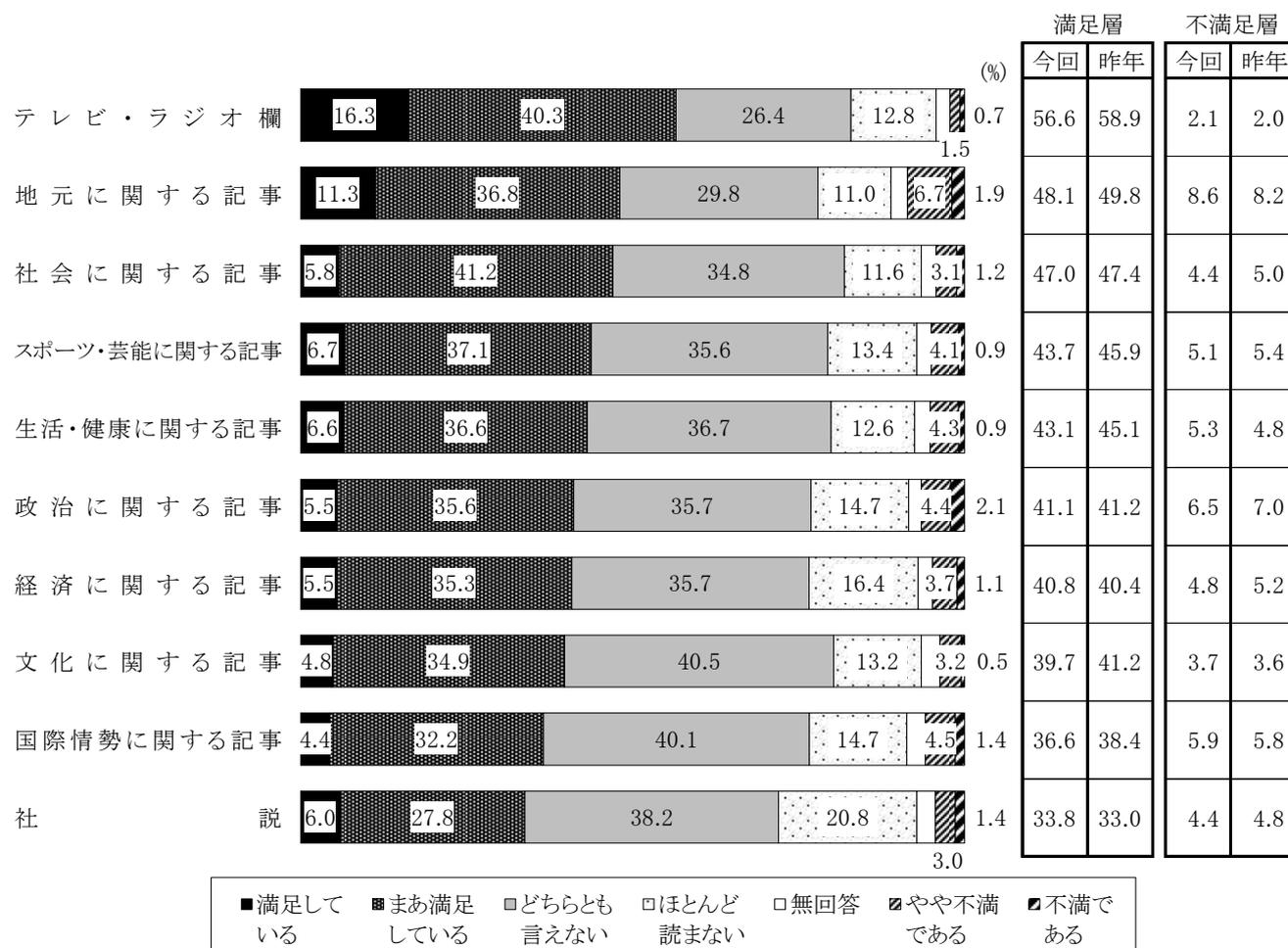
### － ラ・テ欄、地元記事、社会記事など、身近な記事の満足度が高い －

- ・新聞の各記事について満足層の占める割合を比較すると、「テレビ・ラジオ欄」が56.6%を占め、テレビ・ラジオなど他のメディアへの窓口として新聞を利用する人が多いことが分かった。次いで「地元に関する記事」（48.1%）、「社会に関する記事」（47.0%）、「スポーツ・芸能に関する記事」（43.7%）、「生活・健康に関する記事」（43.1%）で満足層が4割台と、生活に密着した身近な記事の満足度が高かった。
- ・「社説」「国際情勢に関する記事」の満足層は3割台（33.8%、36.6%）と少ないが、不満層も1割（4.4%、5.9%）を下回っており、「どちらとも言えない」や「ほとんど読まない」が多く、満足度が低いことがうかがえる。
- ・昨年度調査との比較では、「テレビ・ラジオ欄」「スポーツ・芸能に関する記事」「生活・健康に関する記事」の満足層の割合が2.0～2.3ポイント減少しているが、大きな変化は見られない。

※満足層：「満足している」＋「まあ満足している」  
 不満層：「やや不満である」＋「不満である」

図 20-1 新聞の記事の満足度

(n=3,183)



- ・「テレビ・ラジオ欄」は、男女、全ての年代で最も満足度が高くなった。「地元に関する記事」「社会に関する記事」は18-19歳で満足層が最も少なく、年代の高い層で割合が多くなる傾向が見られた。また、「社会に関する記事」は男性の満足度が女性より6.4ポイント高かった。
- ・「政治に関する記事」「経済に関する記事」「国際情勢に関する記事」は、女性よりも男性の満足度が高かった。年代別に見ると、これらの記事の満足度は、30代以下に比べ40代以上で高かった。

図 20-2 テレビ・ラジオ欄、地元、社会に関する記事に満足している人の割合（性・年代別）

(n=3,183)

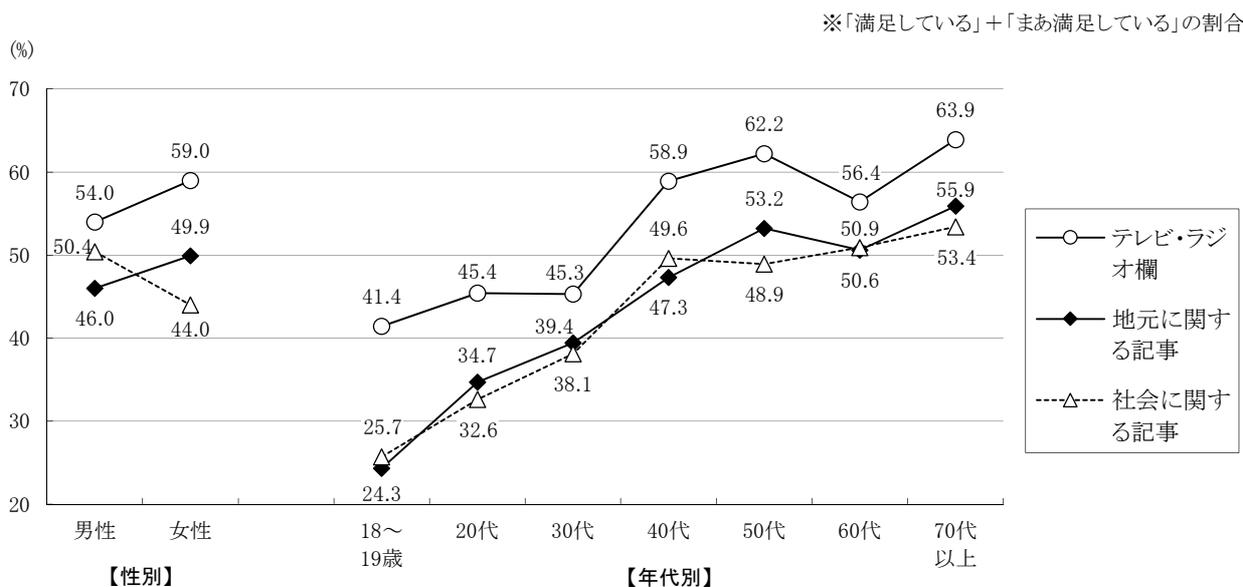
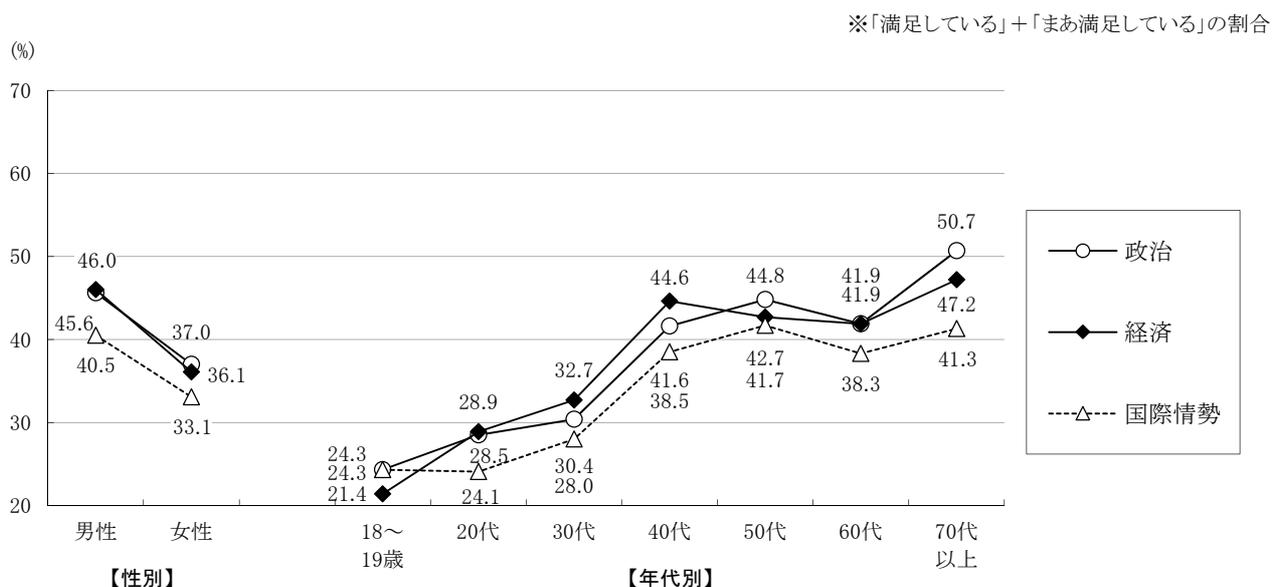


図 20-3 政治、経済、国際情勢に関する記事に満足している人の割合（性・年代別）

(n=3,183)



## 21. 新聞全般の満足度は？（\*）

－ 満足している人は54%、不満な人は7%。高年齢層で満足度が高い －

- ・新聞全般について、「満足している」は14.1%、「やや満足である」は39.8%であり、この2つを合わせた満足層は53.9%を占めた。「やや不満である」と「不満である」を合わせた不満層は7.3%と少数であった。昨年度から変化は見られなかった。
- ・年代別に見ると、満足層は30代以下で半数を下回った。40代では満足層が約5割、年代の上昇とともに満足層の割合も高くなり70代以上では68.3%となった。一方、不満層は20代・30代で約1割となっているが、他の年代では1割未満となり、圧倒的に満足層の方が多くなった。

※満足層：「満足している」＋「やや満足である」

不満層：「やや不満である」＋「不満である」

図 21-1 新聞全般の満足度

(n=3,183)

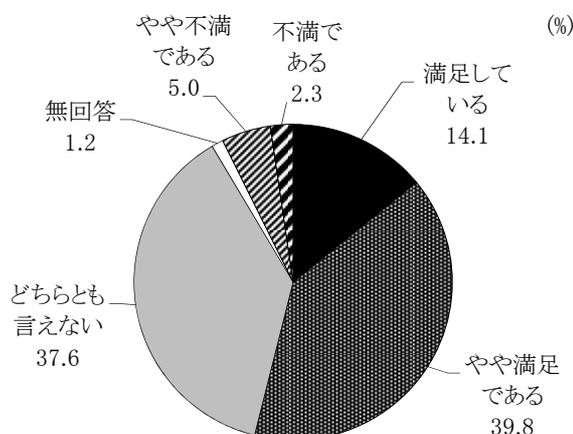
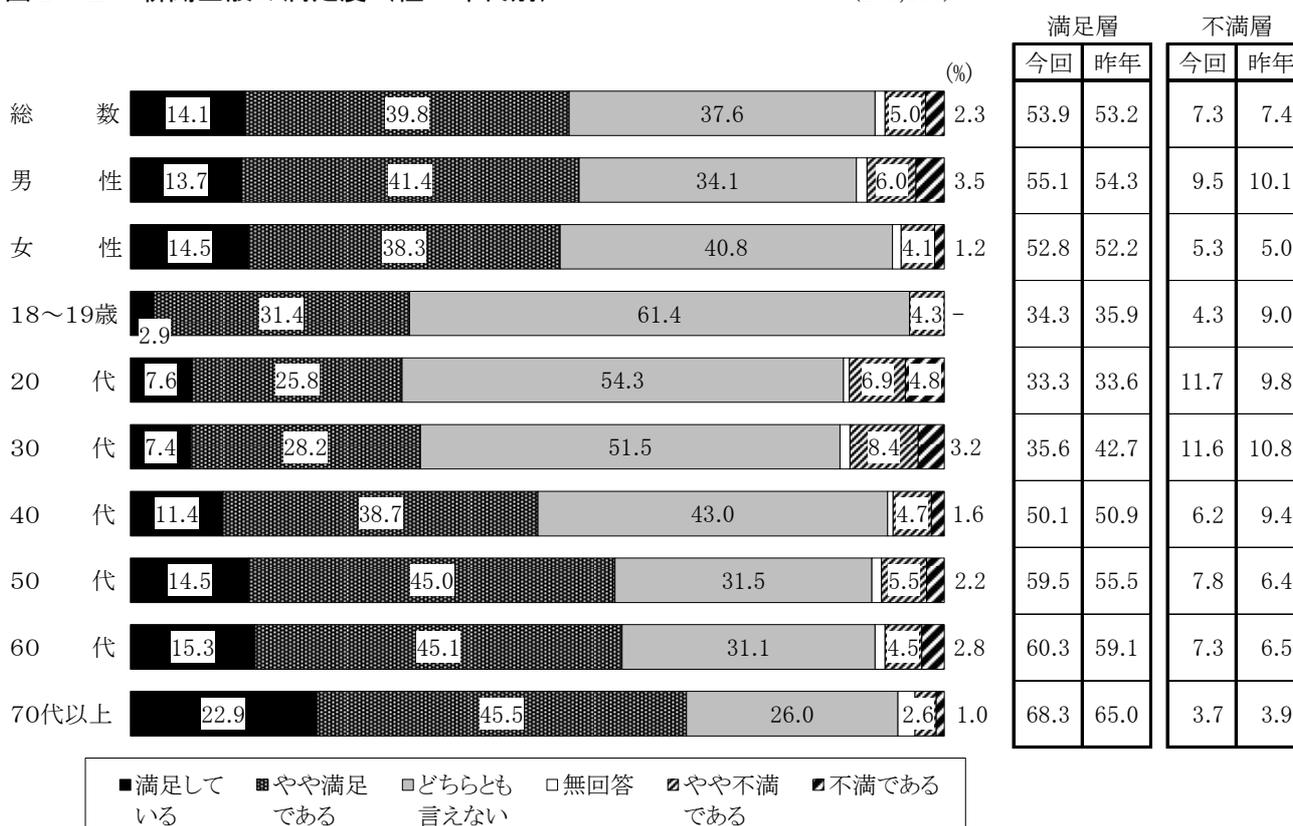


図 21-2 新聞全般の満足度（性・年代別）

(n=3,183)



## 《生活の中の新聞》

### 22. 新聞を読んでいる人は？（\*）

— 「読んでいる」は朝刊74%、夕刊27%。朝刊の閲読率は前年より減少 —

- ・朝刊を読んでいる人は73.8%を占めている。内訳を見ると、「毎日」読んでいる人（52.8%）が過半数を占めている。「毎日」読んでいる人は18-19歳で4.3%、20代で8.2%に留まるが、年代が上がるほど増加し、50代で60.9%、60代で72.2%、70代以上で81.1%となった。
- ・昨年度調査と比較すると、朝刊を読んでいる人は20～40代（6.3～11.0ポイント減）で減少が目立った。また、「毎日」読んでいる人については、全年代で減少しており、もともと毎日閲読割合の少ない30代以下でさらに5.7～8.5ポイントの減少となった。

図 22-1 新聞（朝刊）の閲読頻度

(n=3,183)

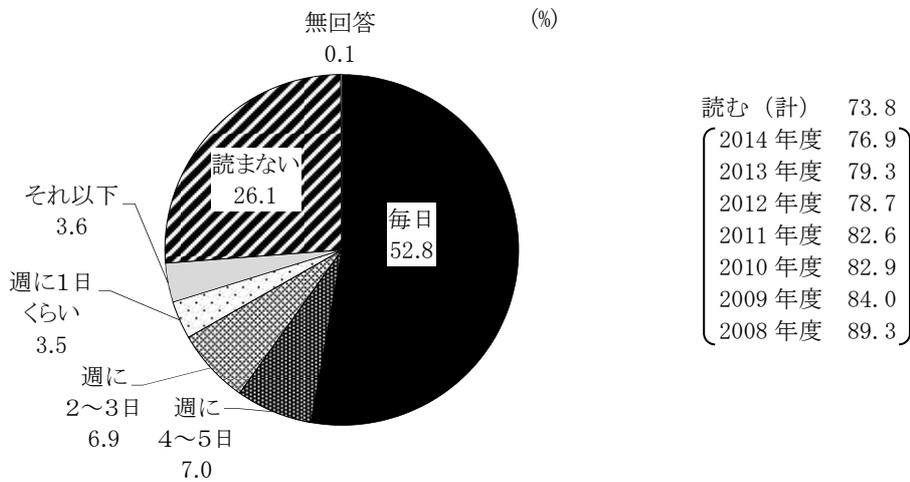


図 22-2 新聞（朝刊）の閲読頻度（読む（計））

（性・年代別）

(n=3,183)

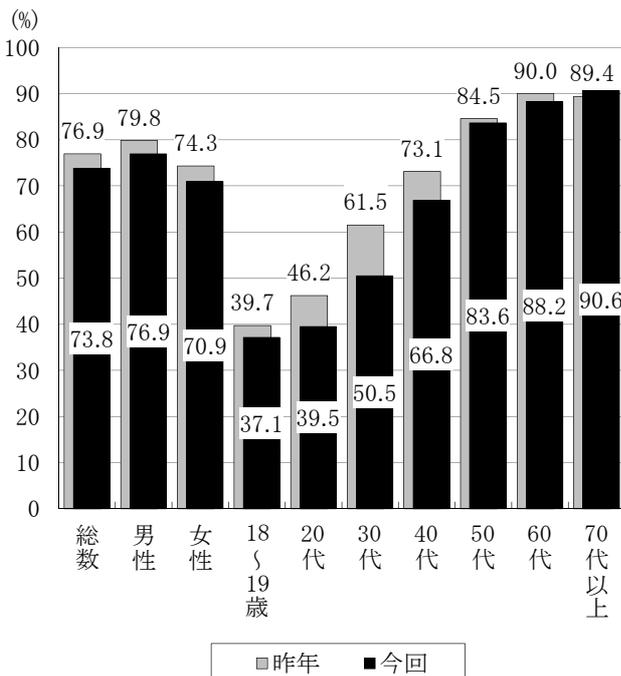
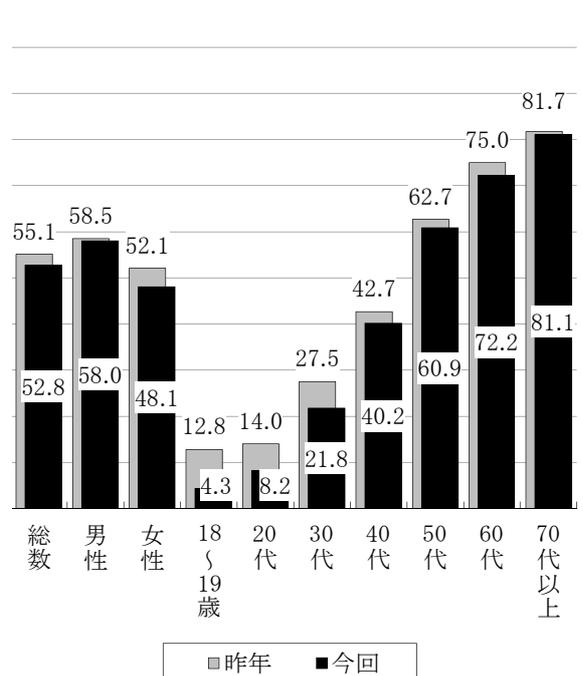


図 22-3 新聞（朝刊）の閲読頻度（毎日）

（性・年代別）

(n=3,183)



- ・夕刊を読む人は26.6%で、調査開始以来、減少傾向が続いている。そのうち「毎日」読んでいる人は17.3%に留まった。
- ・夕刊を読む人は、40代以下で昨年度より減少しており、20代で4.5ポイント、30代で5.5ポイント減少した。

図 22-4 新聞（夕刊）の閲読頻度

(n=3,183)

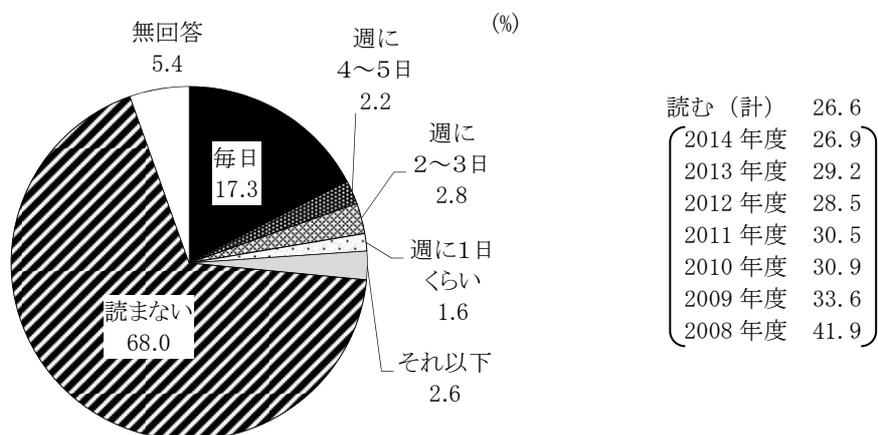


図 22-5 新聞（夕刊）の閲読頻度（読む（計））  
（性・年代別）

(n=3,183)

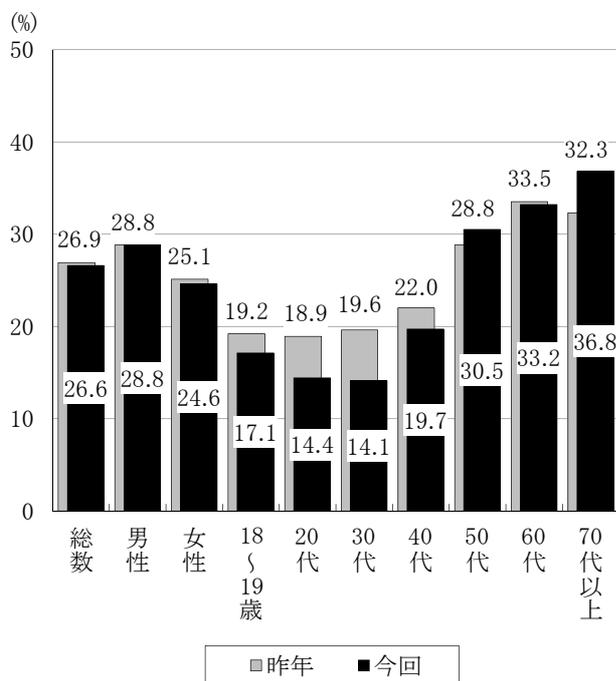
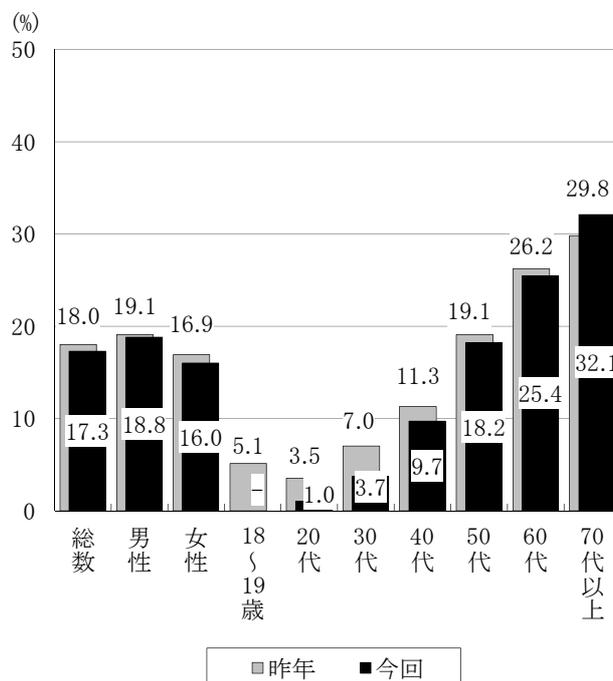


図 22-6 新聞（夕刊）の閲読頻度（毎日）  
（性・年代別）

(n=3,183)



## 23. この1年間で新聞を読む回数や時間に変化は？（\*）

－ 「変わらない」が80%、「減った」が15% －

- ・ 1年間で新聞を読む回数や時間に変化があったかについては、「変わらない」が79.8%と大半を占めた。「増えた」は4.3%、「減った」は15.2%となった。
- ・ 性別に見ると、「増えた」は男女差がない（男性4.5%、女性4.1%）が、「減った」は女性（16.9%）の方が男性（13.4%）より3.5ポイント多かった。
- ・ 年代別に見ると、「増えた」は、18-19歳で8.6%と最も多いが、1割に満たない。一方、「減った」は全年代で1割を超え、特に30～50代（17.8%～20.0%）で2割前後となった。

図 23-1 1年間で新聞を読む回数や時間の変化

(n=3,183)

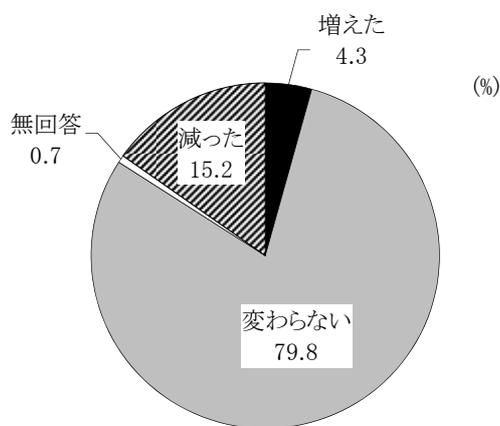
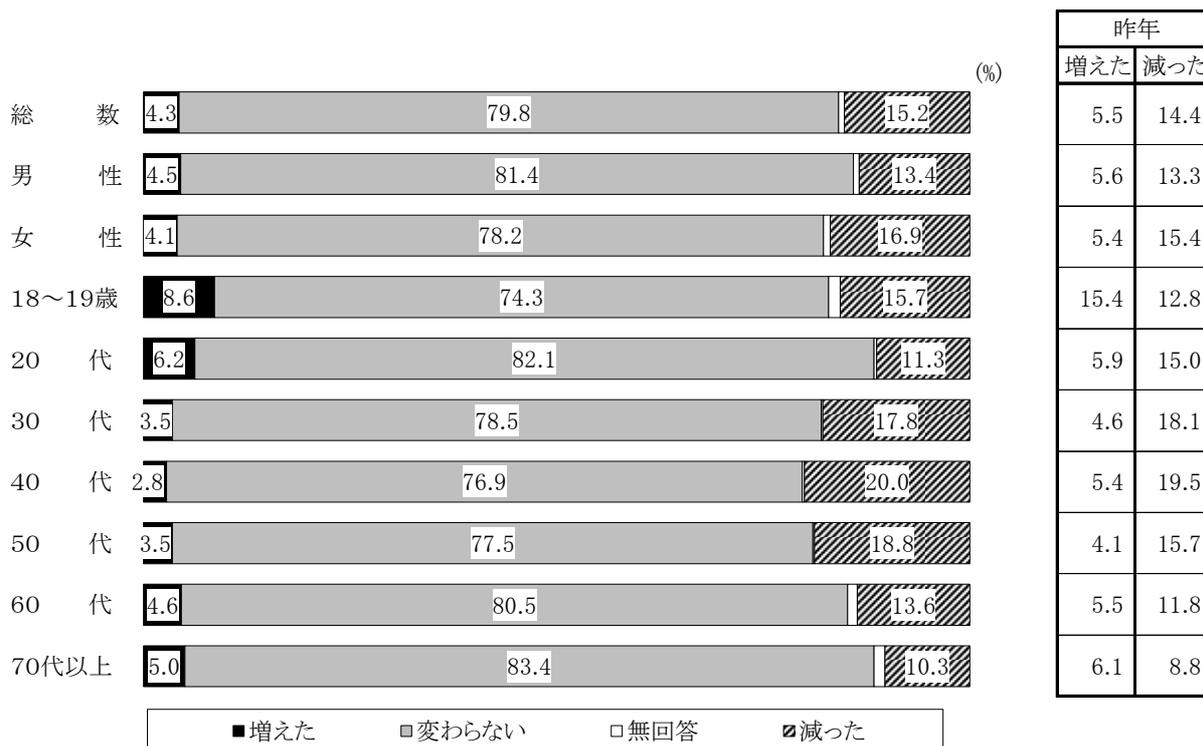


図 23-2 1年間で新聞を読む回数や時間の変化

(n=3,183)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 74.4%)

## 24. 新聞を読む時間は？ (\*)

— 平均時間は 27 分で前回から微増。若い世代ほど短い —

- ・新聞を読む時間は、1 日平均で 27.2 分と、昨年度 (26.3 分) より 0.9 分長くなった。
- ・年代別に見ると、平均時間は 60 代以上では 30 分以上 (30.0 分、40.2 分) となっているが、50 代で 21.7 分、40 代で 19.1 分と 20 分前後、30 代 16.6 分、20 代 14.1 分、18-19 歳 8.9 分と年代が下がるほど短くなっている。若い年代での新聞離れが見てとれる。
- ・昨年度調査と比較すると、平均時間は 18-19 歳で減少が大きく 4.2 分減、次いで 50 代で 1.4 分減となった。70 代以上では 1.6 分増加した。

図 24-1 新聞を読んでいる人 (n=3,183)

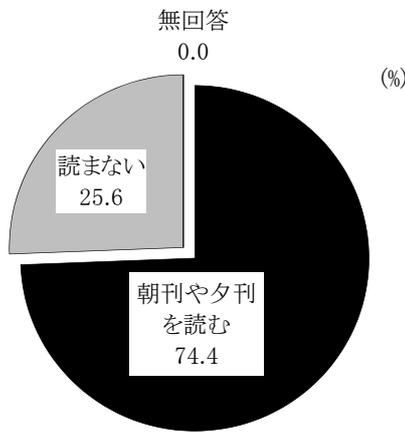


図 24-2 新聞の 1 日の閲読時間 (n=2,368)

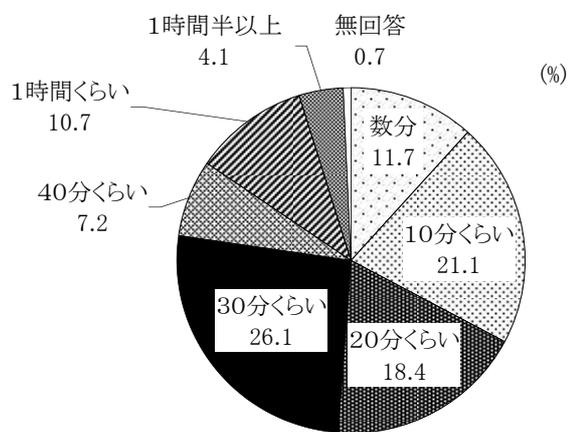
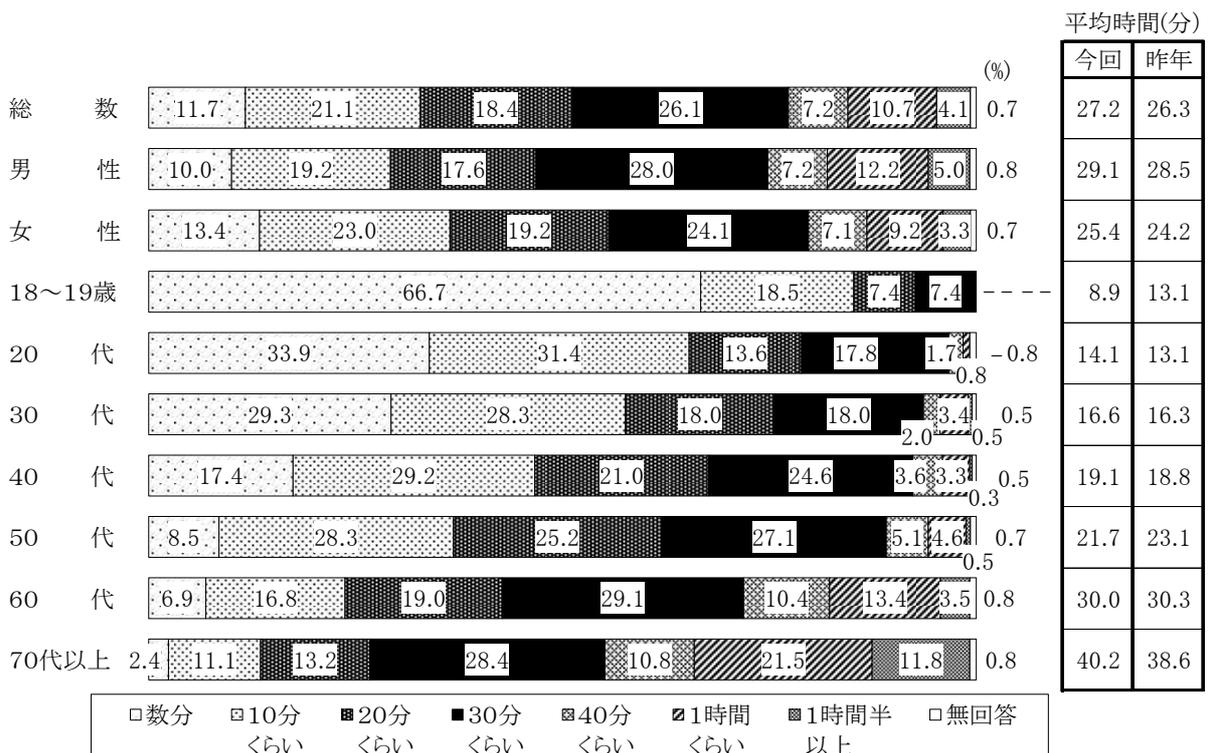


図 24-3 新聞の 1 日の閲読時間 (性・年代別) (n=2,368)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 74.4%)

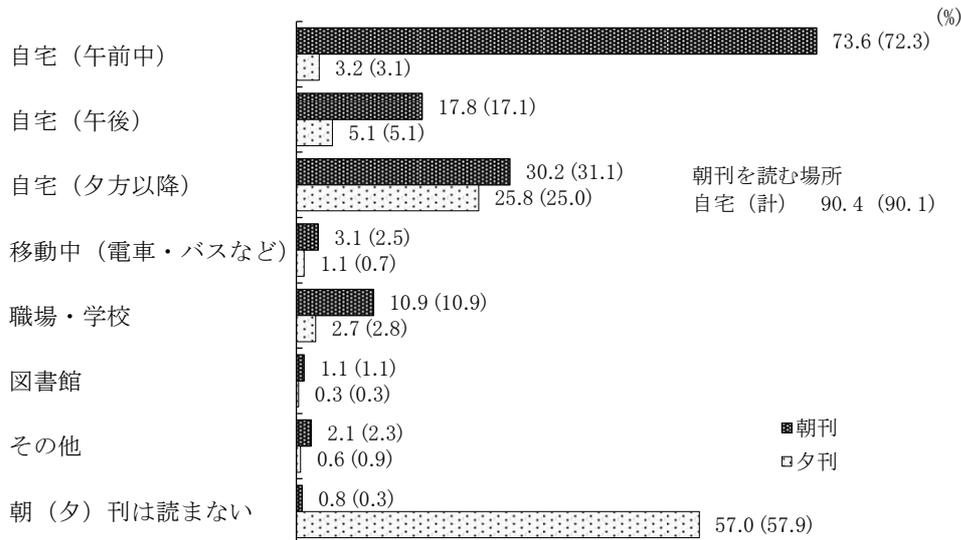
## 25. 新聞を読む場所は？ (\* )

### — 新聞を読むのは朝刊、夕刊共に自宅が中心 —

- ・ 新聞を読む場所としては、朝刊は「自宅 (午前中)」(73.6%) を挙げる人が 7 割を超え、圧倒的に多かった。次いで、「自宅 (夕方以降)」(30.2%)、「自宅 (午後)」(17.8%)、「職場・学校」(10.9%) が続き、全ての時間帯を合わせると「自宅」を挙げた人は 90.4% に上った。夕刊も「自宅 (夕方以降)」が 25.8% で最も多かった。
- ・ 朝刊について年代別に見ると、「自宅 (午前中)」は 18-19 歳 (51.9%) と 20 代 (51.7%) で少なく、年代が上がるほど増加し、60 代で 79.3%、70 代以上で 89.5% に達した。「自宅 (夕方以降)」は 50 代以下の年代では 3 割以上 (30.5%~40.4%)、60 代以上では 2 割台 (23.2%~27.4%) であった。「職場・学校」は 20 代 (22.9%) で最も多く、30~50 代で 1 割台 (14.6%~17.6%) であった。

図 25-1 新聞を読む場所

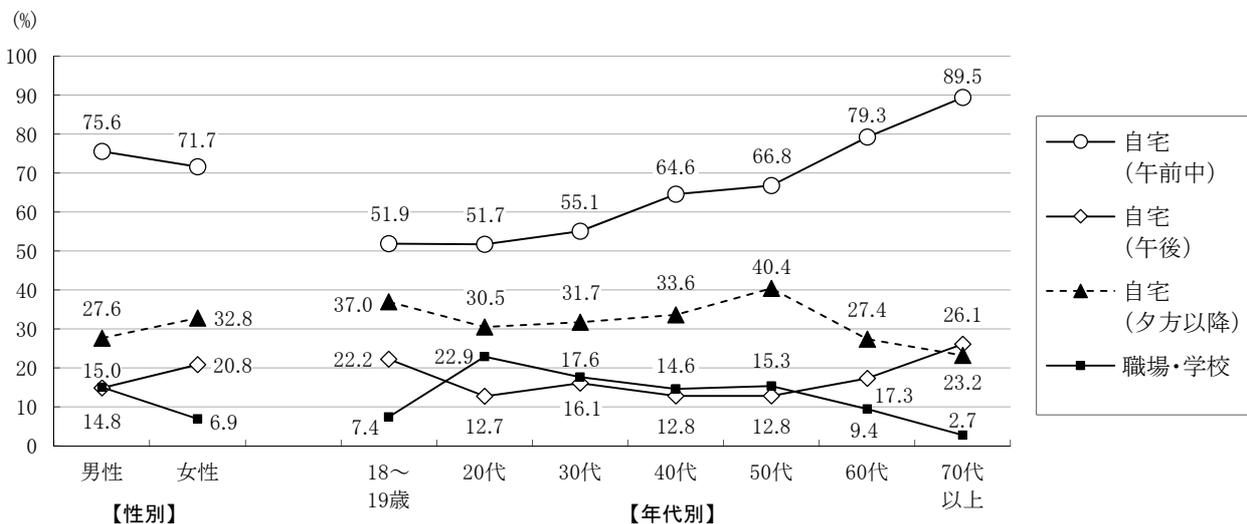
(複数回答、n=2,368)



注：( ) 内は昨年度調査の数値

図 25-2 新聞 (朝刊) を読む場所 (性・年代別)

(複数回答、n=2,368)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 74.4%)

## 26. 新聞を読む理由は？ (\* )

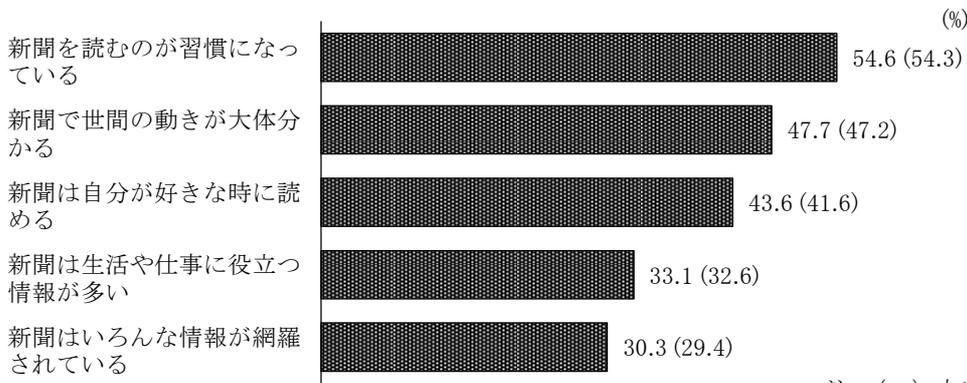
— 新聞を読むことは生活の一部。 —

1 位「習慣になっている」、2 位「世間の動きが分かる」 —

- ・新聞を読む理由としては、「新聞を読むのが習慣になっている」(54.6%)を挙げる人が半数強と最も多く、新聞を読むことが生活の一部となっていることがうかがえる。次いで、「新聞で世間の動きが大体分かる」(47.7%)、「新聞は自分が好きな時に読める」(43.6%)を挙げる人が多かった。
- ・年代別に見ると、「新聞を読むのが習慣になっている」は18-19歳(3.7%)で最も少なく、年代が上がるほど増加し、40代以上では最大の理由となった。一方、30代以下では「新聞で世間の動きが大体分かる」の方が「新聞を読むのが習慣になっている」より多く挙げられた。

図 26-1 新聞を読む理由

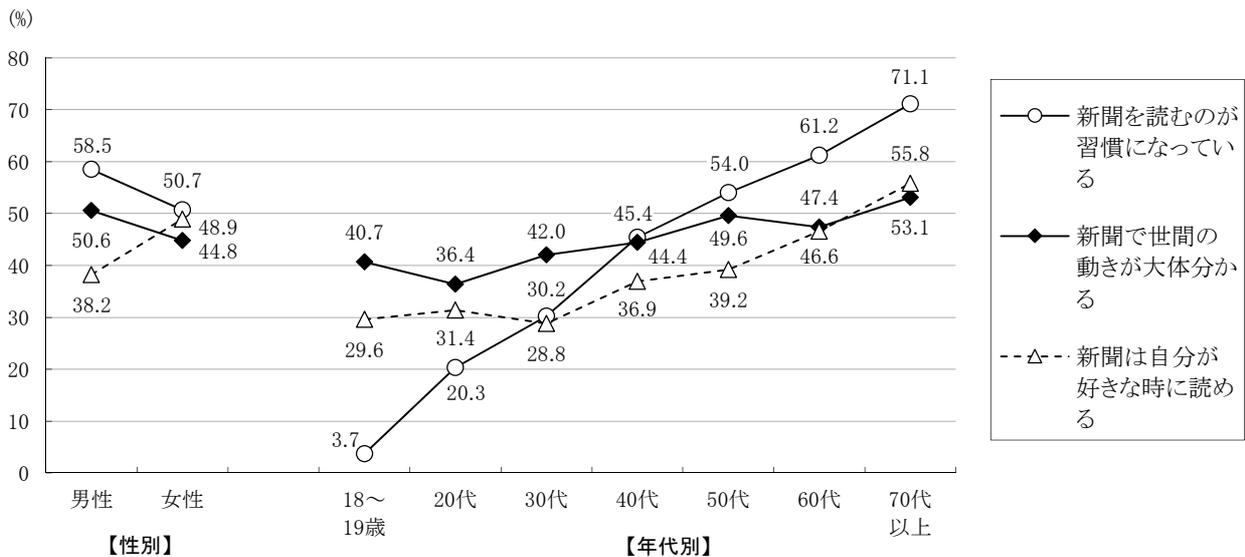
(複数回答、n=2,368)



注：( ) 内は昨年度調査の数値

図 26-2 新聞を読む理由 (性・年代別)

(複数回答、n=2,368)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 74.4%)

## 27. よく読む新聞記事は？（＊）

### － 身近な記事が人気。1位「地元記事」、2位「社会記事」、3位「ラ・テ欄」 －

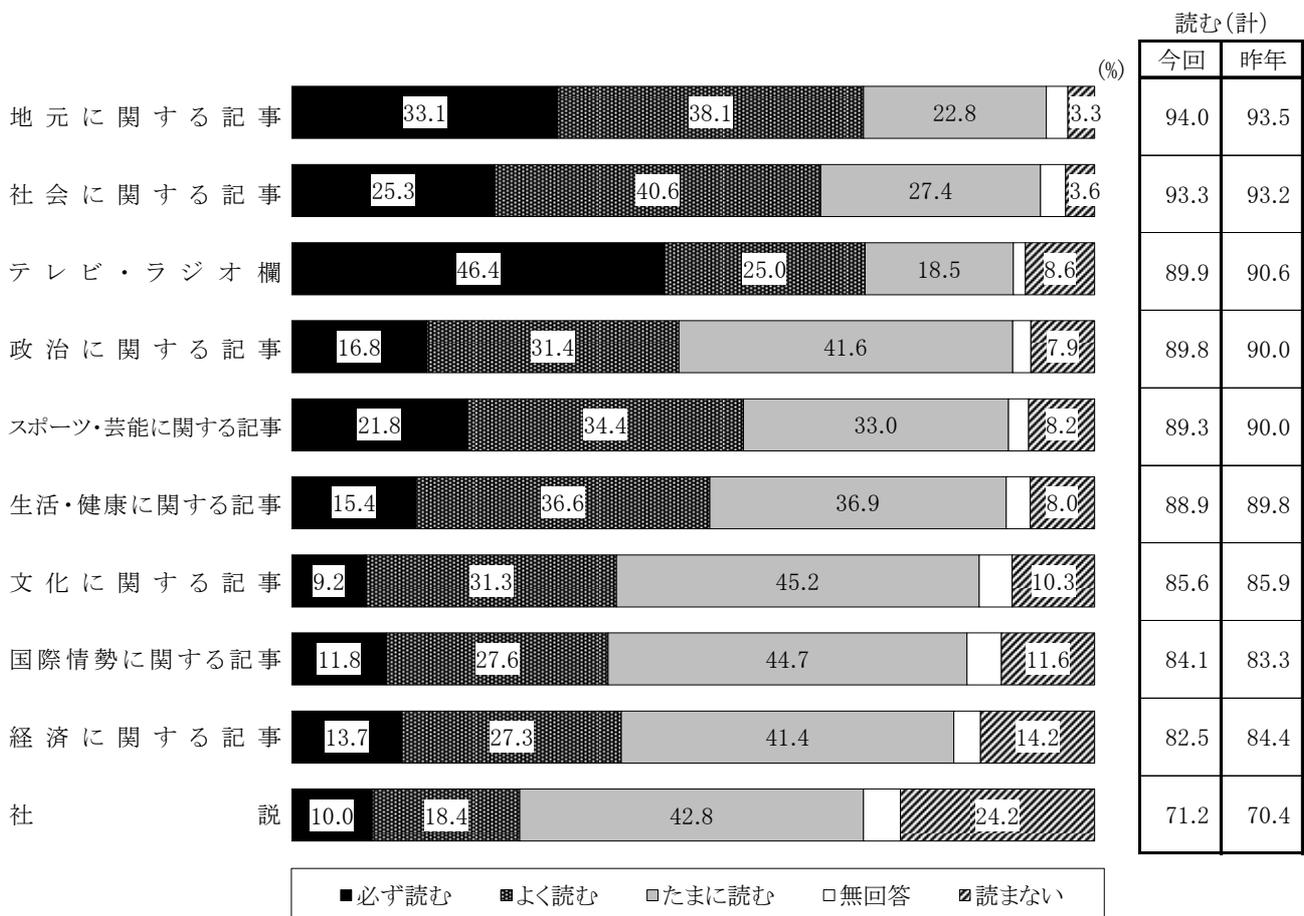
・よく読む新聞の記事については、「必ず読む」「よく読む」「たまに読む」を合わせた『読む(計)』は「地元に関する記事」(94.0%)と「社会に関する記事」(93.3%)が9割を超え、次いで「テレビ・ラジオ欄」(89.9%)、「政治に関する記事」(89.8%)、「スポーツ・芸能に関する記事」(89.3%)、「生活・健康に関する記事」(88.9%)が9割弱となっており、生活に密着した身近な記事がよく読まれていた。

・一方、「社説」は、『読む(計)』が7割(71.2%)となり、「読まない」が24.2%と他の記事に比べ多かった。

※『読む(計)』=「必ず読む」+「よく読む」+「たまに読む」

図 27-1 新聞でよく読む記事

(n=2,368)



(朝刊や夕刊を「読まない」と答えた人に) (全体の 25.6%)

## 28. 新聞を読まない理由は？ (\*)

— 1位は「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(75%) —

- ・新聞を読まない理由としては、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(75.1%)を挙げる人が7割を超え、最も多かった。次いで、「新聞を取っていないから」(42.0%)、「新聞は高いから(お金が掛かるから)」(32.3%)の順であった。新聞以外のメディアへの接触が新聞離れの大きな要因となっていることがうかがえる。
- ・年代別に見ると、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」が70代以上を除き、最も大きな理由となったが、特に50代以下では7割(73.8%~80.4%)を超えた。70代以上では「新聞を取っていないから」(54.8%)が最大の理由となった。また、「新聞は高いから(お金が掛かるから)」は、30代・40代・60代(35.6%~38.7%)で多く挙げられた。
- ・昨年度調査と比較すると、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」の割合が2.4ポイント、「新聞は高いから(お金が掛かるから)」の割合が2.2ポイント増加した。

図 28-1 新聞を読まない人 (n=3,183)

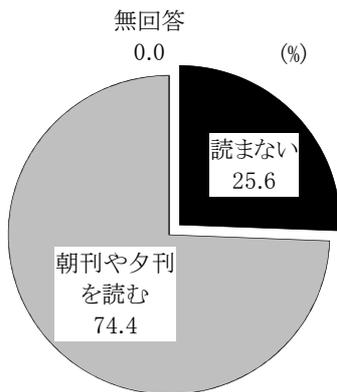
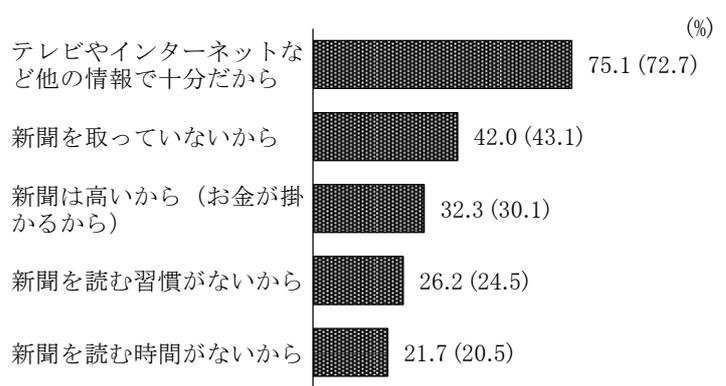


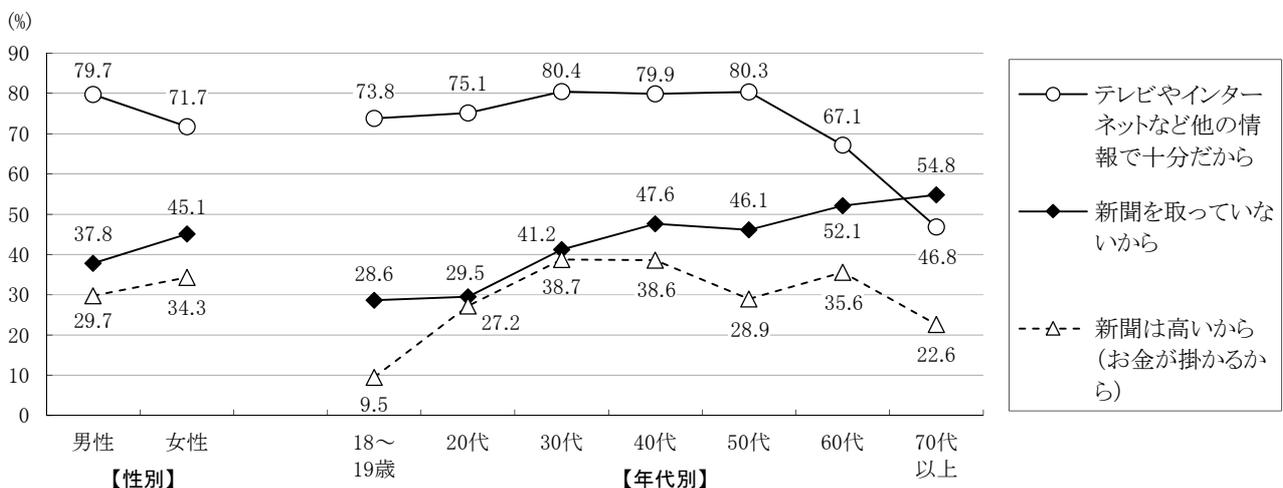
図 28-2 新聞を読まない理由 (複数回答、n=814)



注：( )内は昨年度調査の数値

図 28-3 新聞を読まない理由(性・年代別)

(複数回答、n=814)



## 29. 戸別配達をどう思う？（＊）

### － 日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」72%。2012年より減少続く －

- ・戸別配達については、「ぜひ続けてほしい」は50.0%、「できれば続けてほしい」は21.5%であり、両者をあわせた『続けてほしい(計)』は71.5%であった。毎日決まった時間に自宅に直接新聞が届くという戸別配達へのニーズは高い。
- ・年代別に見ると、『続けてほしい(計)』は20代(45.0%)で最も少なく、30代以降、年代が高いほど多くなり、60代以上では8割(83.1%、89.0%)を超えた。
- ・過去の調査と比較すると、『続けてほしい(計)』の割合は、2009年度以降は80%前後で推移していたが、2013年度に8割を切り、以降減少が続いている。今年度は前年から1.9ポイント減少した。年代別に見ると、2013年度から2014年度にかけて全年代で減少したが、今年度も70代以上を除く全年代で減少した。30代で最も減少幅が大きく5.5ポイント減、次いで40代で4.0ポイント減となった。

※『続けてほしい(計)』＝「ぜひ続けてほしい」＋「できれば続けてほしい」

図 29-1 戸別配達の存続

(n=3,183)

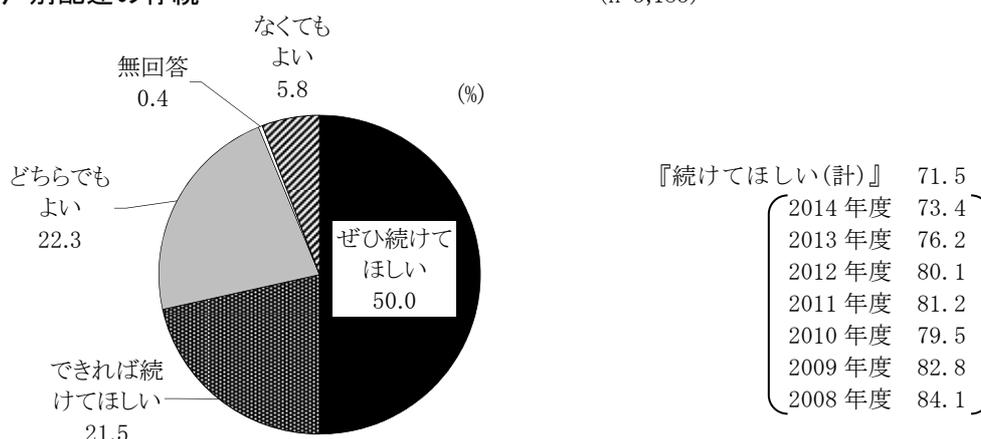
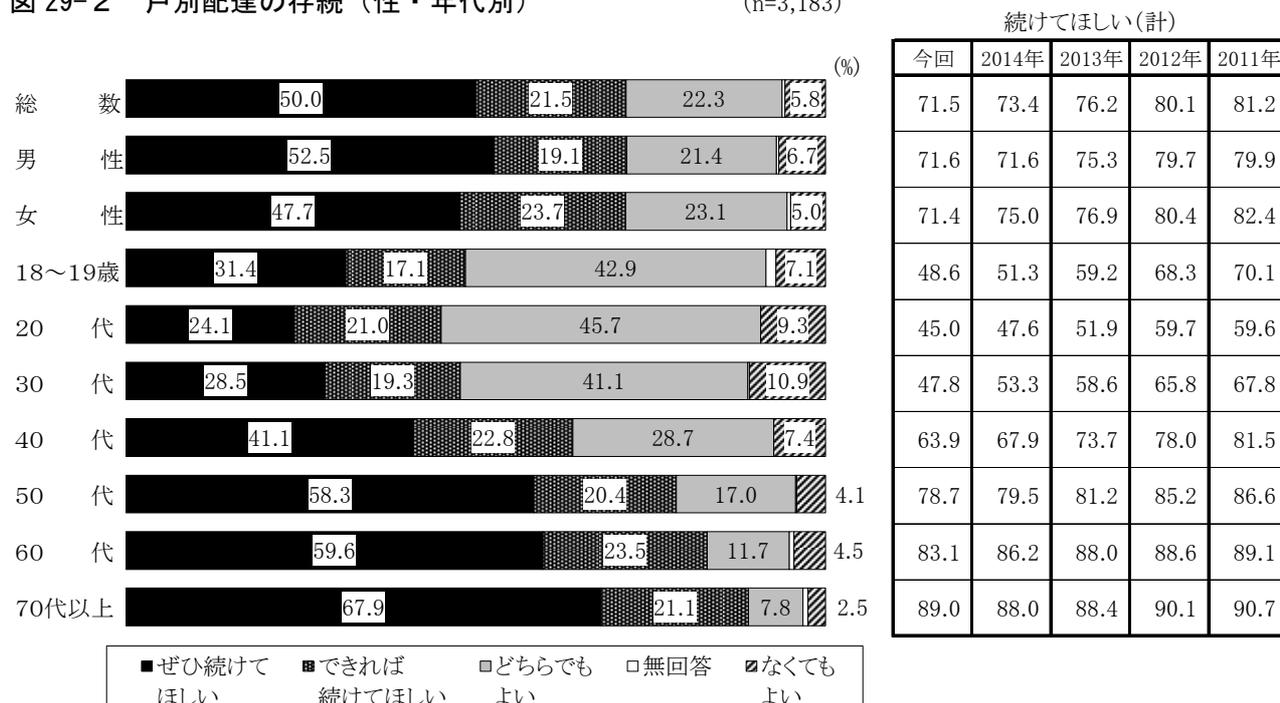


図 29-2 戸別配達の存続（性・年代別）

(n=3,183)



### 30. 夕刊の発行をどう思う？（\*）

－ 「続けてほしい」は18%、「なくてもよい」が34% －

- ・夕刊の発行については、「ぜひ続けてほしい」は7.3%、「できれば続けてほしい」は10.9%であり、両者を合わせた『続けてほしい(計)』は18.2%であった。一方、「なくてもよい」は33.9%であった。夕刊の発行を続けてほしいという層は2割弱に留まり、夕刊の発行への要望は強いとは言えない。
- ・年代別に見ると、夕刊の発行を続けてほしい人は、最も多い70代以上(28.2%)であっても3割を下回った。最も少ない30代では9.4%、50代以下では1割台(12.8%~16.6%)に留まった。全年代で、夕刊はなくてもよいと考える人が多く、『続けてほしい(計)』の割合を上回った。
- ・過去の調査と比較すると、夕刊の発行への要望は、調査開始の2008年度は28.0%と3割近く、2009年度以来、20%台前半で推移していたが、前回調査で初めて2割を切り、今回調査でも同様の結果となった。年代別に見ると、2014年度調査から今回にかけて18-19歳と30~60代で減少となった。

※『続けてほしい(計)』=「ぜひ続けてほしい」+「できれば続けてほしい」

図 30-1 夕刊発行の存続

(n=3,183)

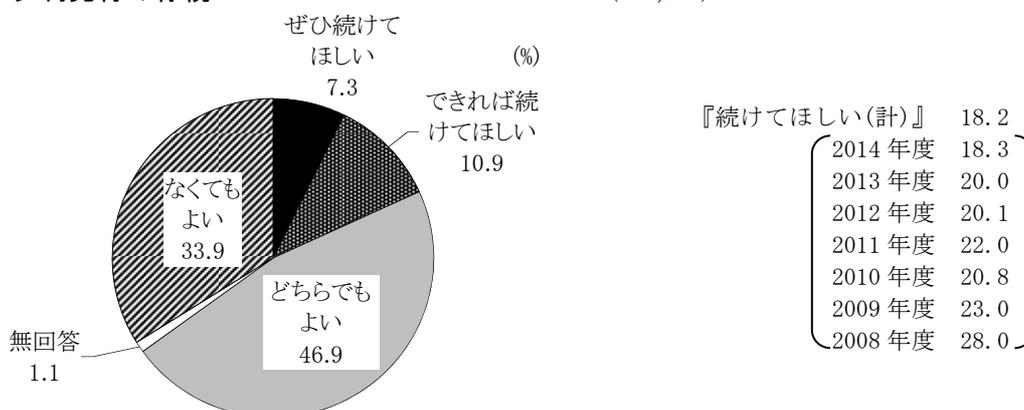
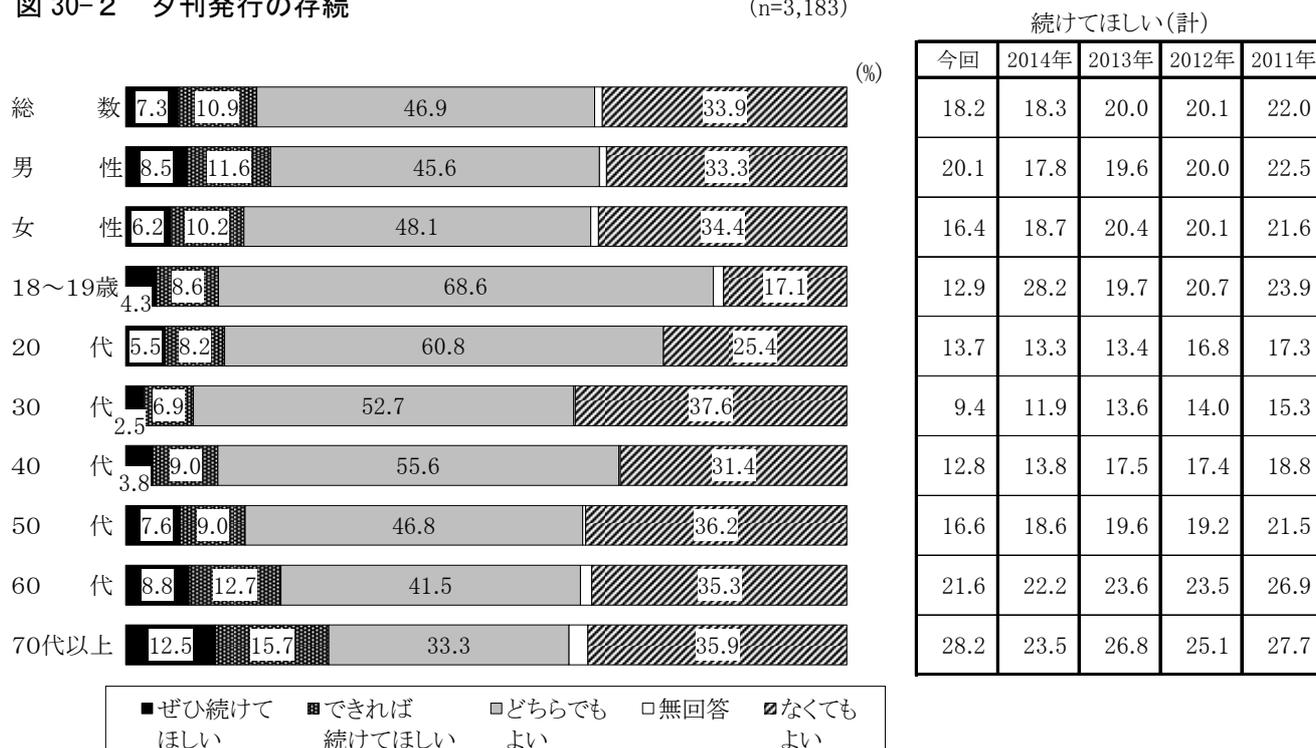


図 30-2 夕刊発行の存続

(n=3,183)



### 31. 月ぎめ新聞の購読状況は？（\*）

— 76%が購読、購読率は減少傾向が続く —

- ・ 自宅で月ぎめで新聞を購読している人は 75.8%であった。新聞の種類を見ると、「全国紙」を購読している人が 53.4%、「県紙・地方紙」を購読している人が 37.1%、「ブロック3紙」を購読している人が 12.6%となった。また、全国紙を購読している人のうち、「2紙以上」の購読は 5.1%と少なく、ほとんどが「1紙のみ」（94.8%）の購読であった。さらに、全国紙を購読している人のうち、「紙の新聞」が 97.4%、「電子新聞」が 1.0%、「両方」が 1.4%であった。
- ・ 過去の調査と比較すると、月ぎめ新聞を購読している人は、調査開始の 2008 年度以降、減少傾向にある。前回調査では調査開始以来、初めて 8 割を切り、今回調査ではさらに前回より 2.2 ポイントの減少となった。新聞の種類で見ると、2014 年度調査から今年度調査にかけては、全国紙が 1.5 ポイント減、県紙・地方紙は 0.8 ポイント増、ブロック3紙は 1.0 ポイント減となった。
- ・ 年代別で見ると、月ぎめ新聞を購読している人は、30 代で約 5 割（50.2%）と最も少なく、20 代で 59.1%、40 代で 66.7%となった。50 代以上では 8 割台（84.0%～89.4%）となった。
- ・ 年代別に昨年度調査と比較すると、月ぎめ新聞を購読している人は 50 代と 70 代以上を除く年代では減少し、30 代（7.5 ポイント減）、40 代（5.4 ポイント減）、18-19 歳（5.0 ポイント減）では 5 ポイント以上の減少となった。

図 31-1 月ぎめでとっている新聞の有無 (n=3,183)

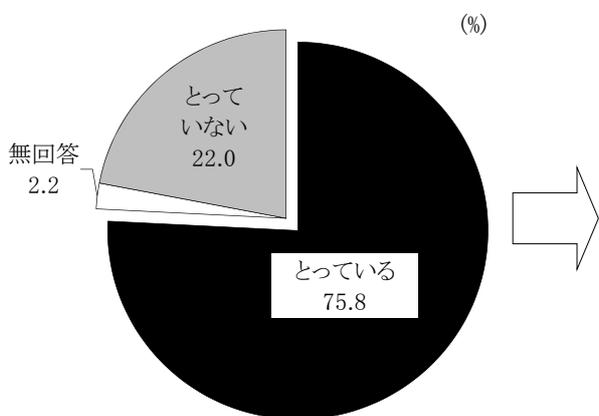


図 31-2 月ぎめでとっている新聞の種類 (複数回答、n=2,414)

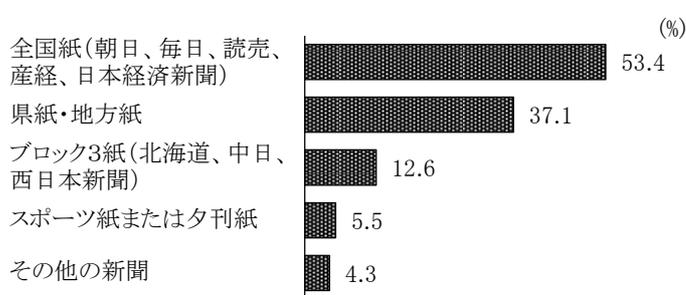


図 31-3 全国紙を何紙とっているか (n=1,290)



図 31-4 購読は紙の新聞か電子新聞か (n=1,290)

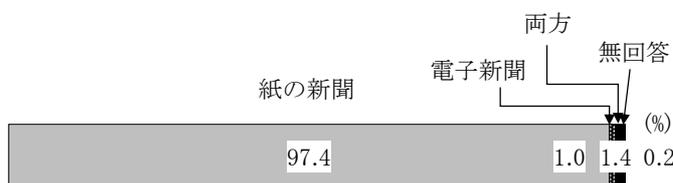


図 31-5 月ぎめでとっている新聞（時系列）

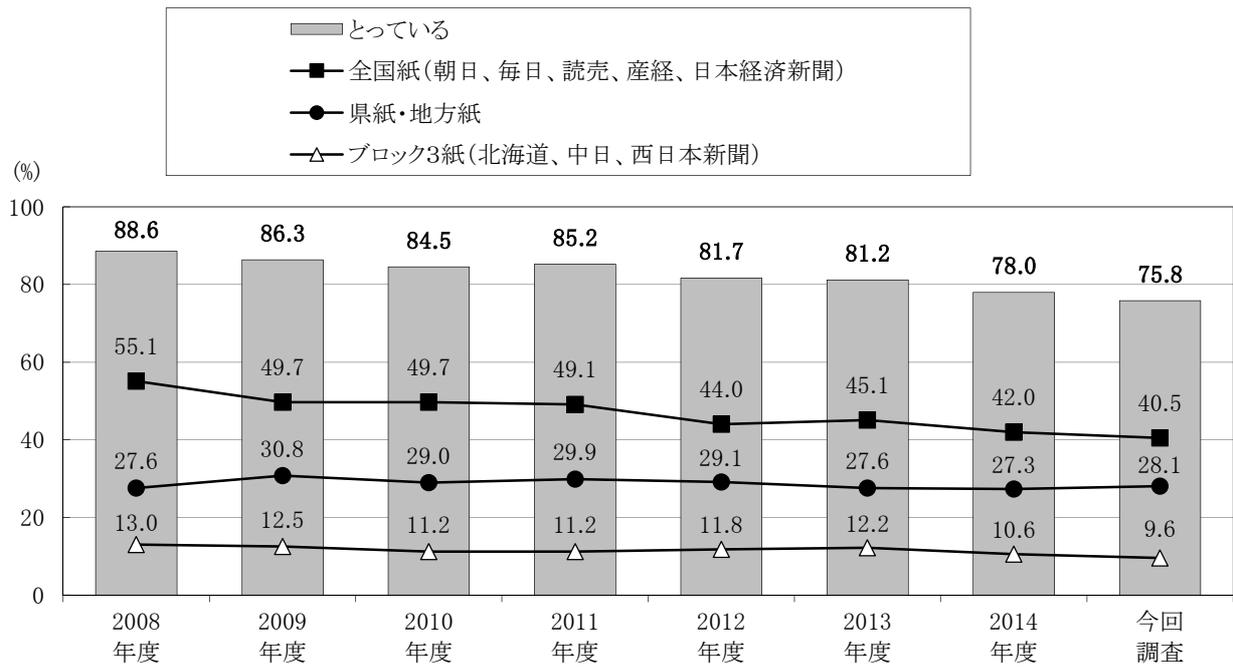
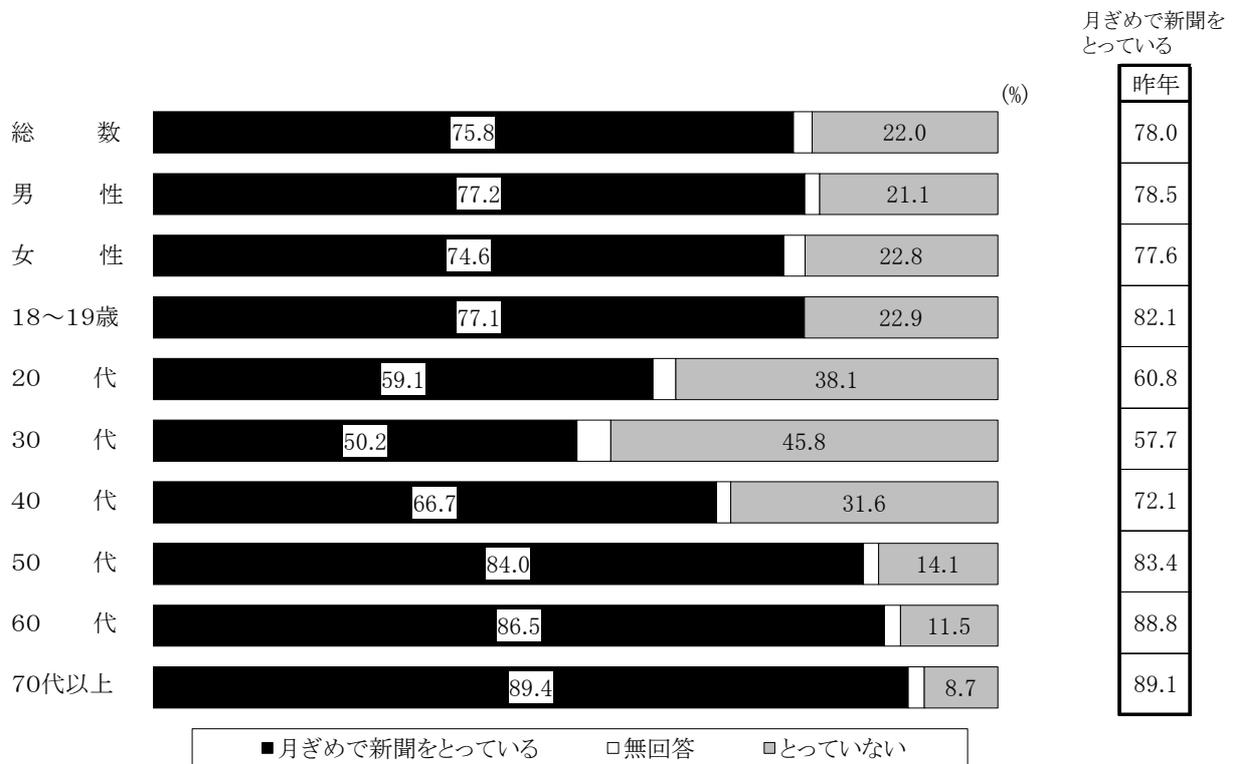


図 31-6 月ぎめでとっている新聞の有無（性・年代別）

(n=3,183)



## 32. 新聞の購読料をどう思う？（＊）

－ 「高い」とする人が45%、「妥当」とする人が52% －

- ・新聞の1ヶ月の購読料（朝刊と夕刊のセットでおよそ4,000円）について、「かなり高い」は8.7%、「少し高い」は36.5%の回答であった。両者を合わせた『高い(計)』は45.2%となり、半数近い人が購読料を負担に感じていることが分かった。「妥当である」は51.8%、「少し安い」と「かなり安い」を合わせた『安い(計)』は2.2%とごく少数に留まった。
- ・年代別に見ると、『高い(計)』は20～30代では5割以上（50.0%～51.5%）となったが、他の年代では4割台（40.0%～47.7%）となった。これらの年代では『高い(計)』の割合を「妥当である」の割合が上回った。新聞に金額相応の価値を置いていることがうかがえる。
- ・過去の調査と比較すると、『高い(計)』の割合は、調査開始の2008年度以来、5割台で推移してきたが、今回調査で初めて5割を下回った。

※『高い(計)』＝「かなり高い」＋「少し高い」  
『安い(計)』＝「少し安い」＋「かなり安い」

図 32-1 新聞の購読料

(n=3,183)

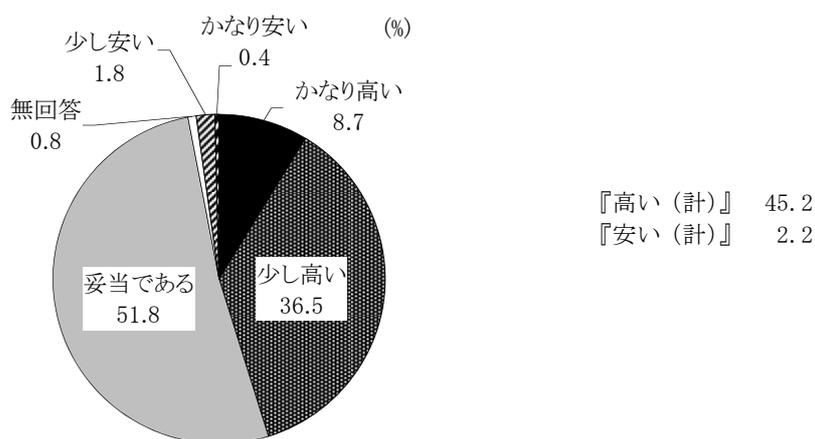
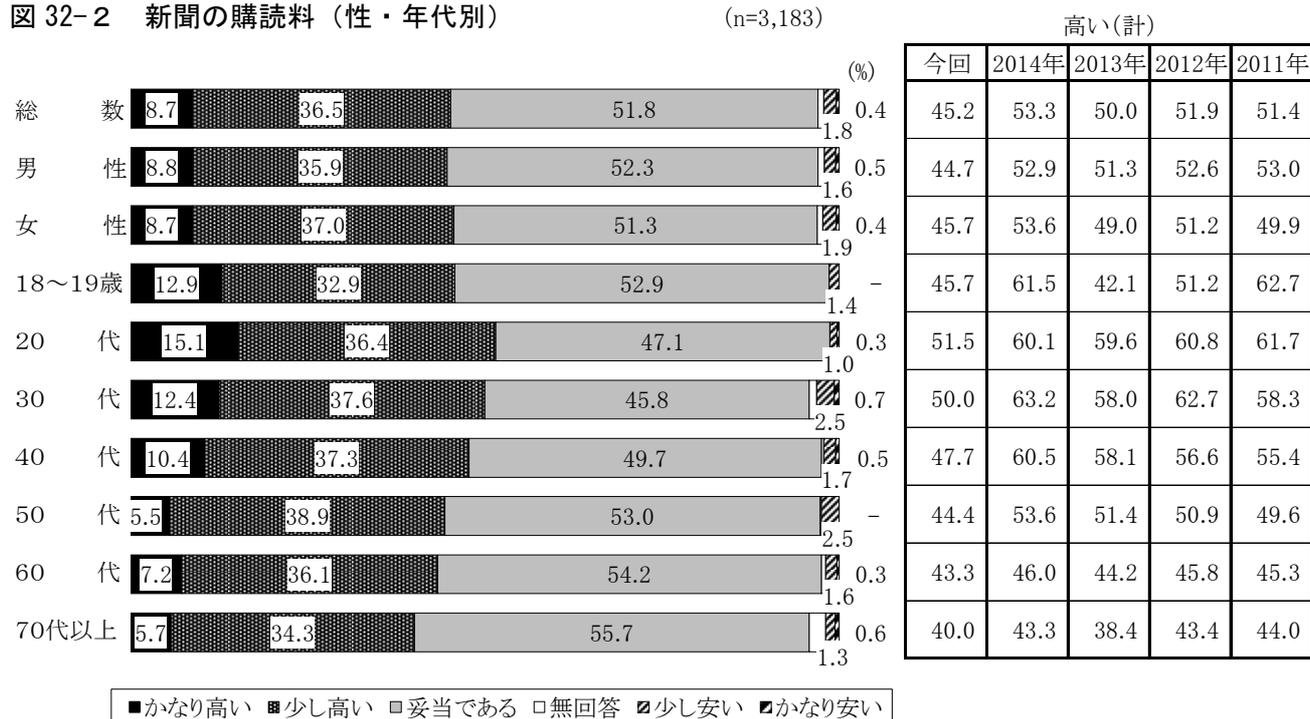


図 32-2 新聞の購読料（性・年代別）

(n=3,183)



### 33. 通信社の役割を知っている？（＊）

－ 「役割を知っている」人の割合は前年に続き 50%超  
「知っている」51%、「知らない」48%

- ・通信社が新聞社や放送局、インターネットサイトなどにニュースを配信していることを「知っている」人は 51.0%、「知らない」人は 48.4%であった。
- ・性別で見ると、「知っている」人は、女性（44.8%）よりも男性（57.7%）に多い。
- ・年代別に見ると、通信社の役割を「知っている」人は、18-19 歳では 22.9%と少なく、40～60 代で 5 割台（53.9%～58.3%）と多かった。
- ・過去の調査と比較すると、「知っている」人の割合は調査開始以来 45%前後であったが、2012 年度以降は半数を超えた。年代別に昨年度調査と比較すると、「知っている」人の割合は 18-19 歳で 6.6 ポイント減、30 代で 10.8 ポイント減となった。一方、20 代は 3.4 ポイント増、60 代は 2.2 ポイント増、70 代以上は 3.5 ポイント増となった。

図 33-1 通信社の役割の認知

(n=3,183)

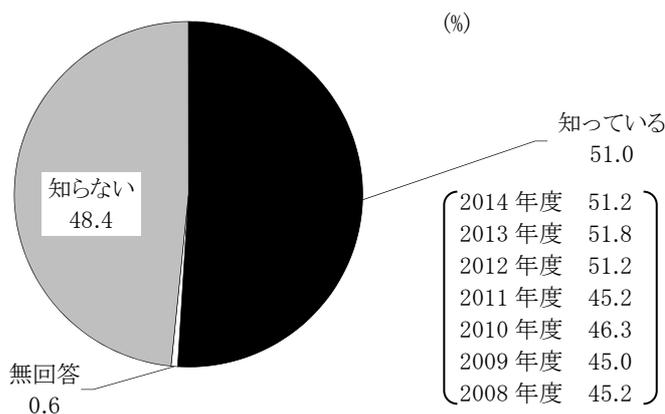
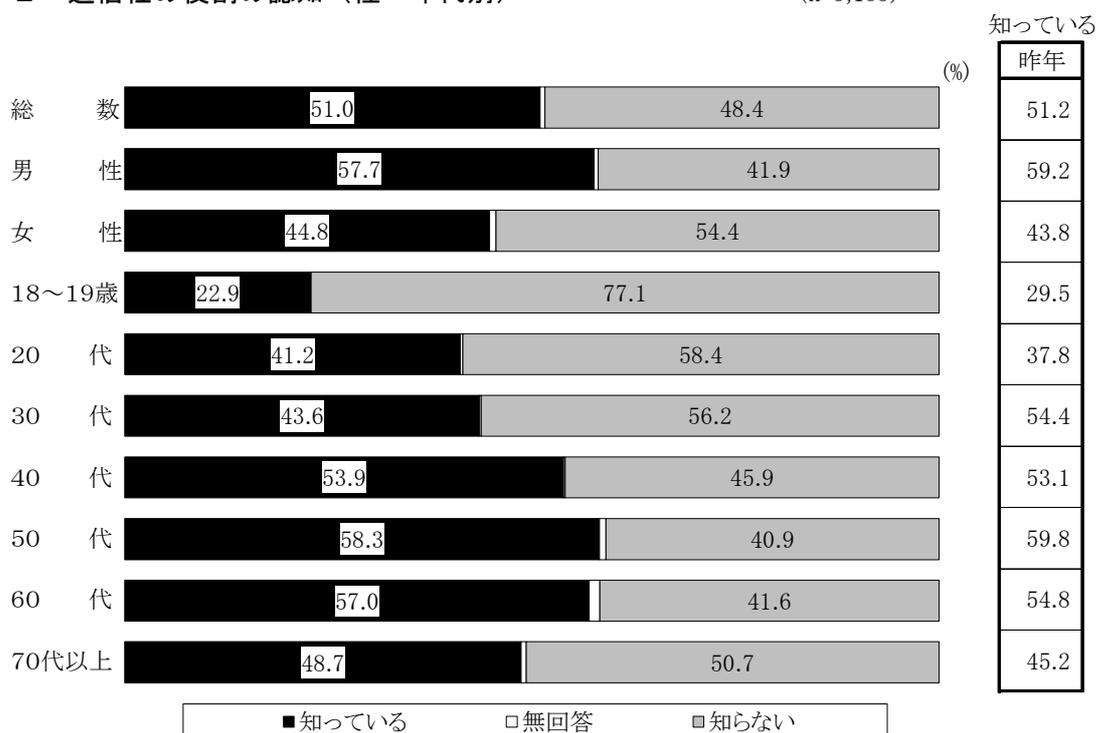


図 33-2 通信社の役割の認知（性・年代別）

(n=3,183)



### 34. 見たり聞いたりしたことがある通信社は？（＊）

－ 1位「ロイター通信」（70%）、2位「共同通信社」（69%） －

- ・見たり聞いたりしたことがある通信社の名前をひとつでも挙げた人は82.0%である。最も知名度が高いのは「ロイター通信」で69.5%の人が挙げた。次いで「共同通信社」が69.4%、「AP通信」が47.1%、「時事通信社」が45.6%、「新華社」が41.0%となった。
- ・年代別に見ると、50代以上では「共同通信社」の知名度が最も高かったが、40代以下では「ロイター通信」の知名度が最も高かった。
- ・過去の調査と比較すると、今回調査では前年よりAP通信が2.7ポイント、新華社が2.0ポイント、認知度が下がった。

図 34-1 知っている通信社の有無 (n=3,183)

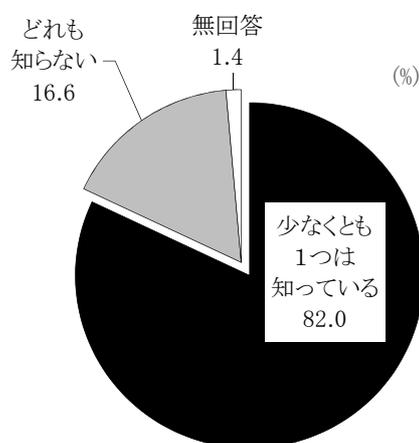
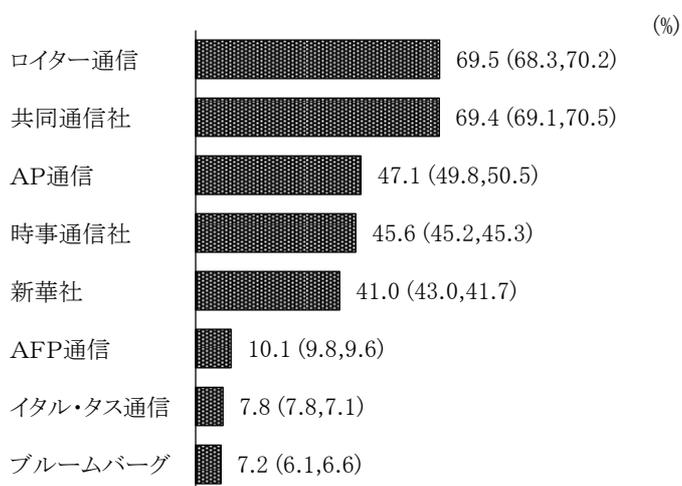


図 34-2 知っている通信社 (複数回答、n=3,183)



注：( ) 内は左から 2014 年度調査、2013 年度調査の数値

表 34-1 知っている通信社 (性・年代別)

(複数回答、n=3,183)

|        | 1 位            | 2 位            | 3 位           | 4 位           | 5 位           |
|--------|----------------|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 総 数    | ロイター通信<br>69.5 | 共同通信社<br>69.4  | AP通信<br>47.1  | 時事通信社<br>45.6 | 新華社<br>41.0   |
| 男 性    | 共同通信社<br>76.0  | ロイター通信<br>73.5 | 時事通信社<br>52.9 | AP通信<br>52.5  | 新華社<br>47.7   |
| 女 性    | ロイター通信<br>65.7 | 共同通信社<br>63.4  | AP通信<br>42.1  | 時事通信社<br>38.9 | 新華社<br>34.9   |
| 18-19歳 | ロイター通信<br>41.4 | 共同通信社<br>37.1  | AP通信<br>22.9  | 時事通信社<br>11.4 | AFP通信<br>10.0 |
| 20 代   | ロイター通信<br>63.9 | 共同通信社<br>49.5  | AP通信<br>45.0  | 時事通信社<br>31.6 | 新華社<br>21.6   |
| 30 代   | ロイター通信<br>76.2 | 共同通信社<br>67.8  | AP通信<br>55.4  | 時事通信社<br>44.8 | 新華社<br>32.4   |
| 40 代   | ロイター通信<br>76.2 | 共同通信社<br>72.9  | AP通信<br>56.6  | 時事通信社<br>51.5 | 新華社<br>40.1   |
| 50 代   | 共同通信社<br>79.8  | ロイター通信<br>78.3 | AP通信<br>57.7  | 時事通信社<br>50.1 | 新華社<br>49.1   |
| 60 代   | 共同通信社<br>73.5  | ロイター通信<br>69.6 | 新華社<br>48.5   | 時事通信社<br>46.0 | AP通信<br>42.5  |
| 70代以上  | 共同通信社<br>67.7  | ロイター通信<br>58.5 | 時事通信社<br>46.9 | 新華社<br>45.6   | AP通信<br>34.3  |

## 《新聞のこれからとインターネット》

### 35. インターネットのニュースをどの程度見る？（\*）

ー 「インターネットニュースを毎日見る」20～40代では半数超。

毎日閲覧は30～60代で前回より5ポイント以上の増加 ー

- ・インターネットのニュースを閲覧している人は66.0%となった。内訳を見ると、「毎日」見ている人が36.2%であった。
- ・年代別に見ると、インターネットのニュースを閲覧している人は若年層に多く、特に40代以下では88.9%～97.6%と、新聞朝刊の閲読率を上回った。また、インターネットのニュースを「毎日」見ている人は20～40代では5割（54.1%～67.3%）を超えている。
- ・前回調査と比較すると、インターネットのニュースを閲覧している人は全年代で増加し、18-19歳・50代・60代での増加（3.3～4.8ポイント）が大きい。「毎日」見ている人は20代以上で前回より増加し、特に30～60代では5ポイント以上の（5.9～8.7ポイント）増加となった。

図 35-1 インターネットニュースの閲覧状況

(n=3,183)

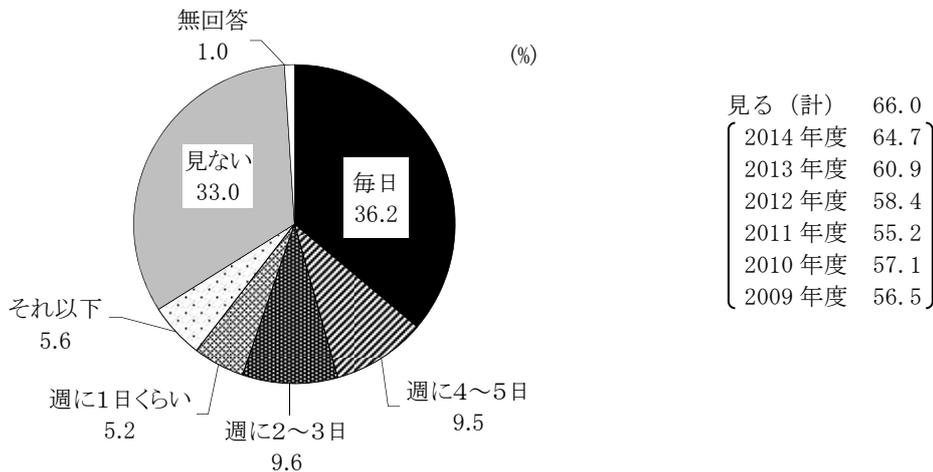


図 35-2 インターネットニュースの閲覧状況

(見る (計)) (性・年代別) (n=3,183)

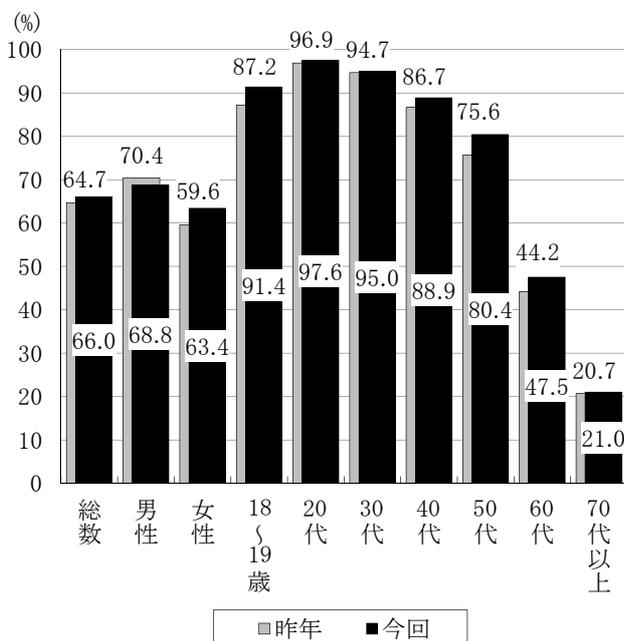
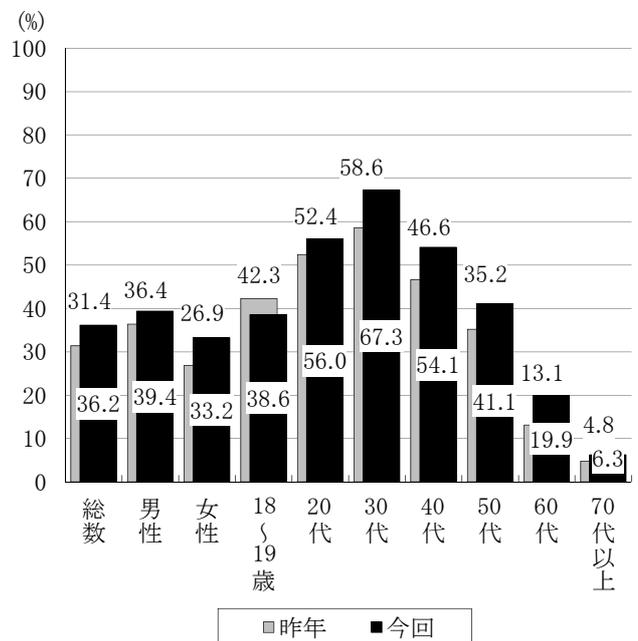


図 35-3 インターネットニュースの閲覧状況

(毎日) (性・年代別) (n=3,183)



(インターネットニュースを見ている人に) (全体の 66.0%)

## 36. よく見るインターネットニュースの記事は？（＊）

－ 1位「スポーツ・芸能に関する記事」(71%)、  
2位「社会に関する記事」(59%) －

- ・よく見るインターネットニュースの記事としては、「スポーツ・芸能に関する記事」(71.4%)を挙げる人が約7割と最も多く、次いで、「社会に関する記事」(59.1%)を挙げる人が約6割となった。
- ・性別に見ると、「経済に関する記事」「政治に関する記事」は男性の方が多く、「生活・健康に関する記事」は女性の方が多い結果となった。
- ・年代別に見ると、「スポーツ・芸能に関する記事」は50代以下で7割台(71.0%～79.7%)と多かった。「社会に関する記事」は20代以上で5割(50.7%～65.4%)を超えた。
- ・昨年度調査と比較すると、「地元に関する記事」以外は増加し、最も増加の大きい「ニュース解説」は2.0ポイントの増加であった。

図 36-1 インターネットニュースでよく読む記事 (複数回答、n=2,100)

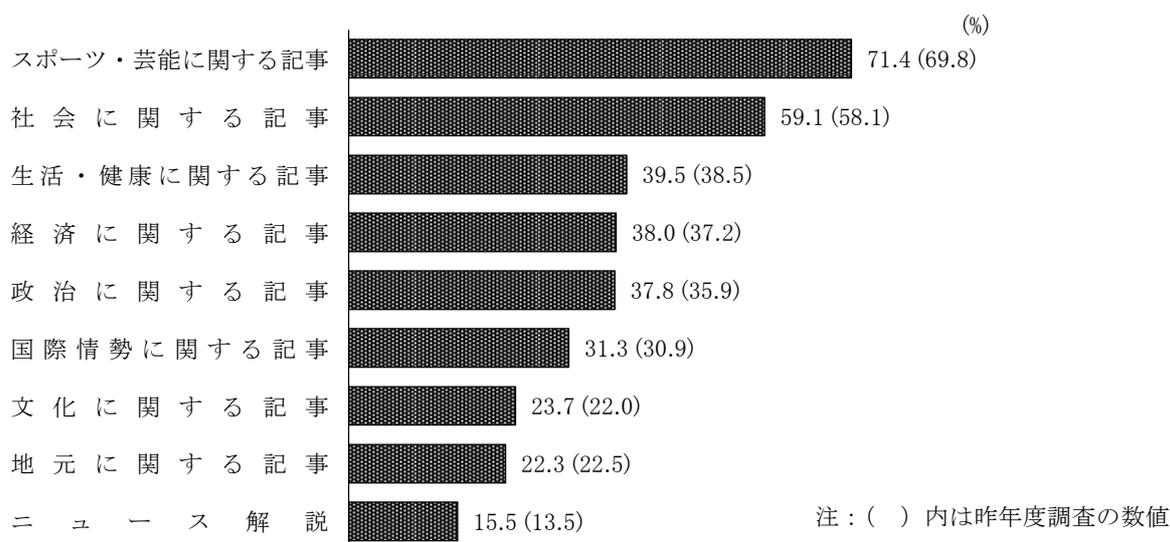
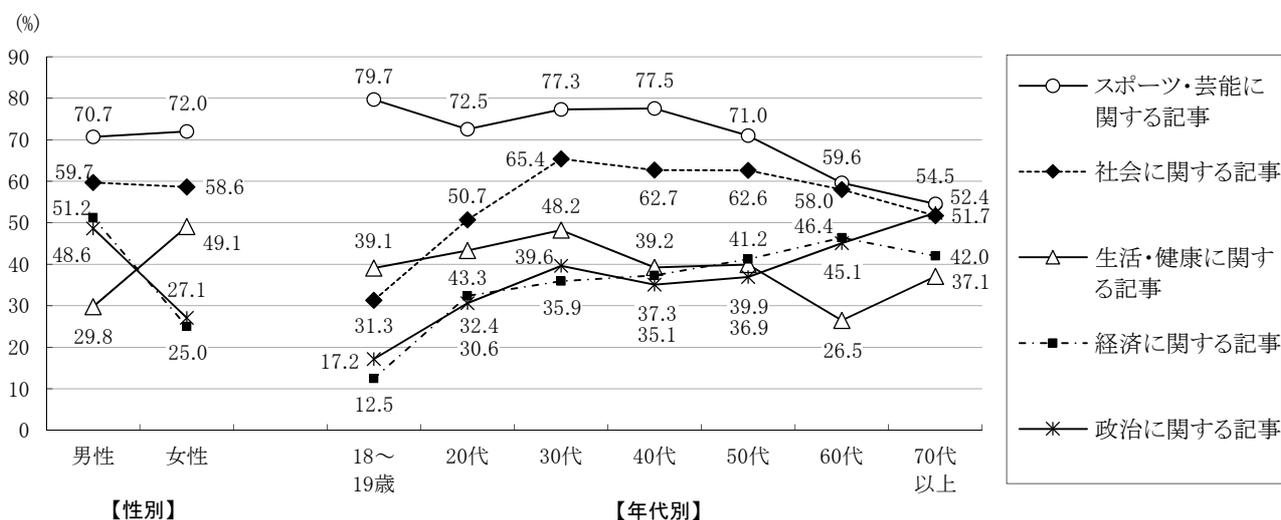


図 36-2 インターネットニュースでよく読む記事 (性・年代別) (複数回答、n=2,100)



(インターネットニュースを見ている人に) (全体の 66.0%)

### 37. インターネットニュースを見るサイトは？（＊）

－ ポータルサイトが 89%、新聞社の公式サイトは 21% －

- ・インターネットニュースを見るサイトを質問したところ、「ポータルサイト(Yahoo!、Google など)」(89.0%) が突出して最も多かった。「新聞社・通信社の公式サイト」(21.3%)、「テレビ放送局の公式サイト」(8.1%) は大きく水をあけられる結果となった。
- ・年代別に見ると、「ポータルサイト(Yahoo!、Google など)」はいずれの年代においても最も多く、50 代以下では 9 割台 (92.1%~93.8%)、60 代、70 代以上と少なくなっていくが、70 代以上でも 6 割 (62.9%) を超えた。「新聞社・通信社の公式サイト」は 20 代以上で 2 割台 (20.2%~23.7%) となった。
- ・昨年度調査と比較すると、ほとんど変化は見られなかった。

図 37-1 インターネットニュースを見るサイト

(複数回答、n=2,100)

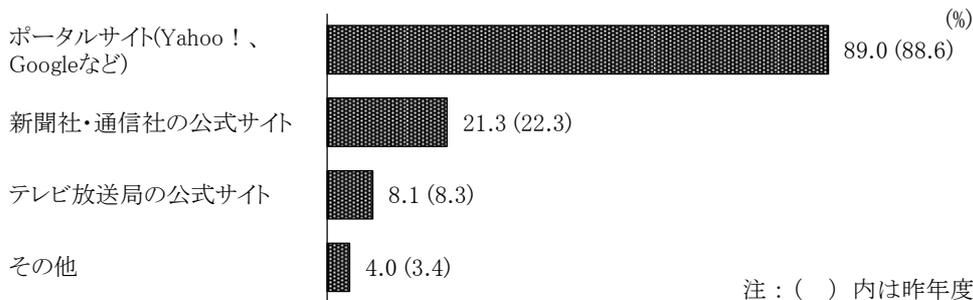
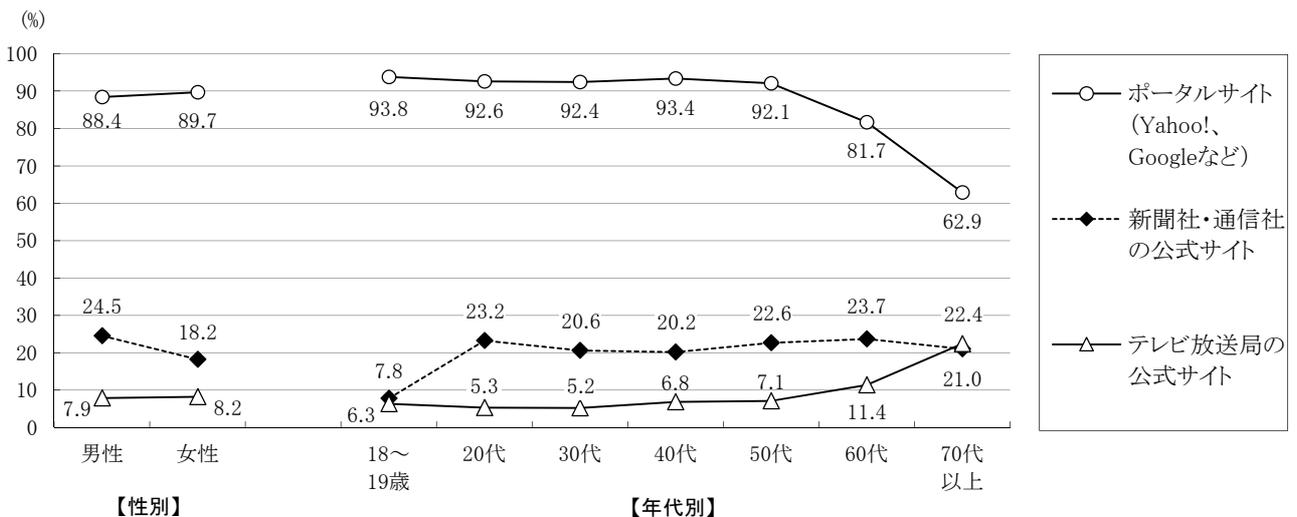


図 37-2 インターネットニュースを見るサイト（性・年代別）

(複数回答、n=2,100)



### 38. 将来の新聞の役割についてどう思う？（＊）

－ 新聞の役割減少派 43%、役割持続派 40%。

昨年度に続き役割減少派が役割持続派を上回る

- ・将来の新聞について、「A：インターネットなどの普及により新聞の役割が少なくなってくる」と考える役割減少派は 43.0%、「B：今までどおり、新聞が報道に果たす役割は大きい」と考える役割持続派は 39.8%と、役割減少派の方が多くなった。
- ・昨年度調査では、この質問を始めた 2009 年度調査以来、初めて役割減少派が役割持続派を上回ったが、今回調査でも同様の結果となった。

※役割減少派：「Aに近い」＋「どちらかと言えばAに近い」  
 役割持続派：「どちらかと言えばBに近い」＋「Bに近い」

図 38-1 将来の新聞についての意見

(n=3,183)

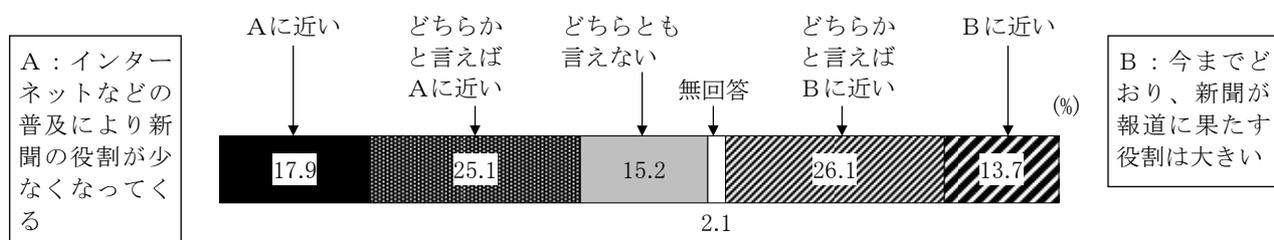
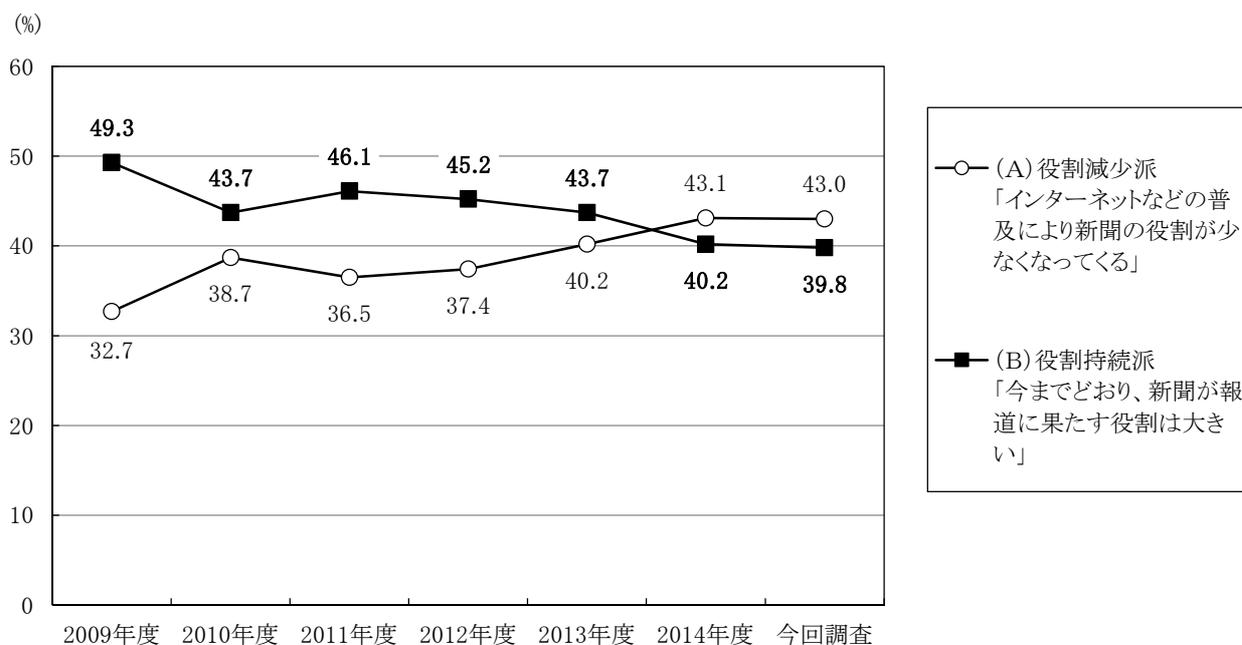
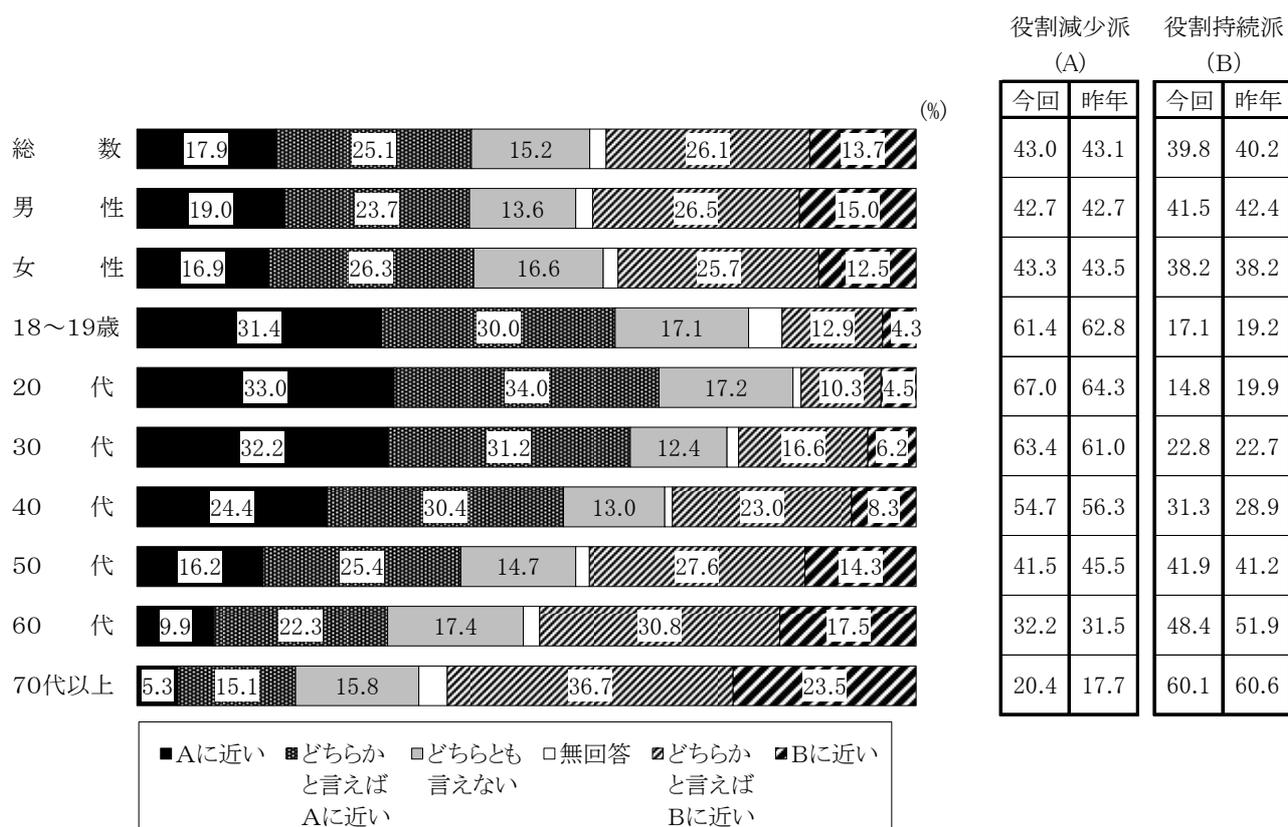


図 38-2 将来の新聞についての意見（時系列）



- ・年代別に見ると、役割持続派は20代（14.8%）で最も少なく、年代が上がるほど多くなり、70代以上では60.1%を占めた。一方、40代以下では役割減少派が過半数（54.7%～67.0%）と多く、持続派（14.8%～31.3%）を上回っており、若い世代で将来、新聞がインターネットなどの影響を受けると見ている人が多いことが分かる。
- ・昨年度調査と比較すると、年代別では、役割減少派は50代で4.0ポイント減となったが、20代・30代・70代以上で2.4～2.7ポイント増となった。役割持続派は18-19歳・20代・60代で2.1～5.1ポイント減となったが、40代で2.4ポイント増となった。

図 38-3 将来の新聞についての意見（性・年代別） (n=3,183)

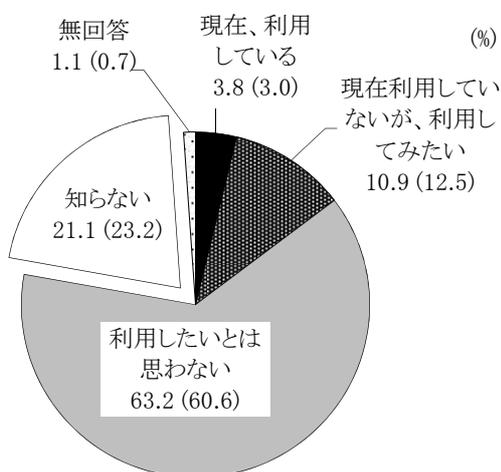


### 39. 電子新聞の利用意向は？（\*）

－ 利用希望は伸びず。「利用してみたい」は11%と昨年度より微減 －

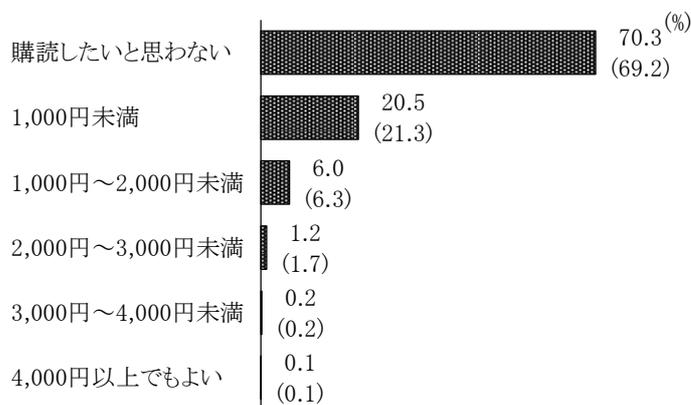
- ・パソコンや携帯電話、タブレットなどで読むことができる電子新聞の認知率（「現在、利用している」3.8%と「現在利用していないが、利用してみたい」10.9%と「利用したいとは思わない」63.2%の合計）は77.9%と、昨年調査より1.8ポイント増加した。有料の電子新聞に限定して利用意向を聞いたところ、「現在、利用している」が3.8%で昨年度より0.8ポイント増、「現在利用していないが、利用してみたい」が10.9%と昨年度より1.6ポイント減となった。
- ・電子新聞の購読料としては「1,000円未満」が20.5%、次いで「1,000円～2,000円未満」が6.0%となった。
- ・電子新聞の利用を年代別に見ると、利用している人の割合はいずれの年代でも1割に満たない。「現在利用していないが、利用してみたい」は50代以下で1割台（13.1%～15.7%）となった。

図 39-1 電子新聞の認知度と利用意向 (n=3,183)



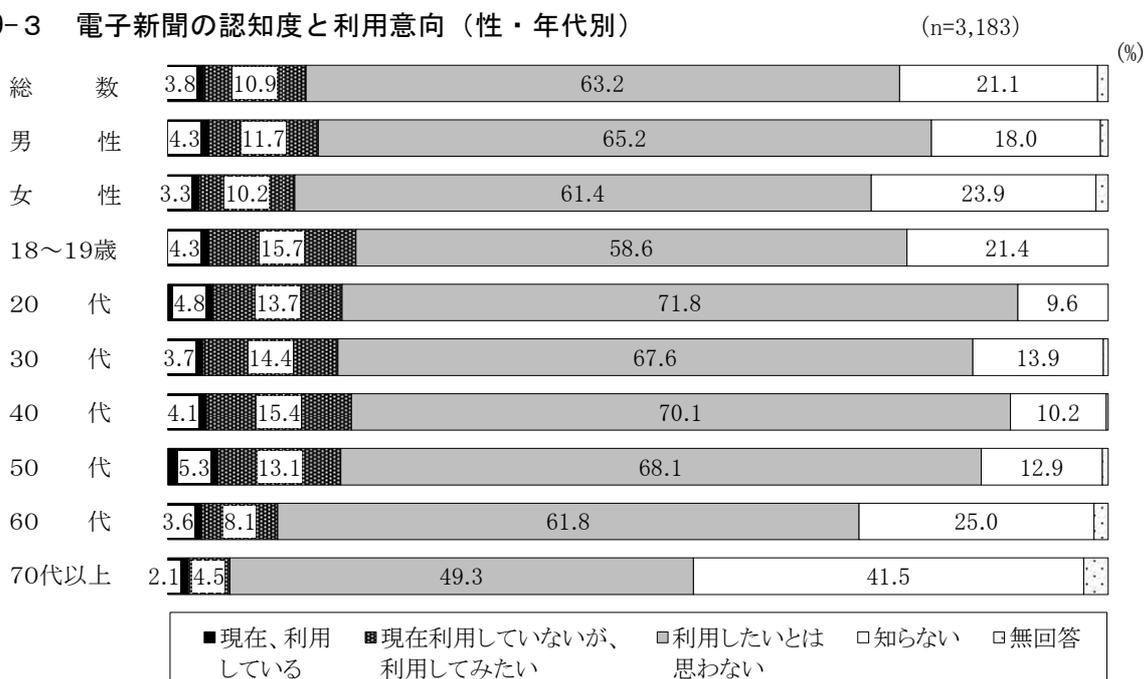
注：（ ）内は昨年度調査の数値

図 39-2 電子新聞の許容購読料 (n=3,183)



注：（ ）内は昨年度調査の数値

図 39-3 電子新聞の認知度と利用意向（性・年代別）



## 40. 記事ごとに料金を支払うシステムの利用意向は？

— 「利用したい」は6% —

- ・パソコンや携帯電話、タブレットなどで新聞の記事ごとに料金を払って読むことができれば、利用したいか聞いたところ、「利用したい」が5.8%、「利用したいと思わない」が66.7%、「分からない」が26.5%となった。
- ・利用意向を年代別に見ると、「利用したい」の割合は最も高い40代で8.1%となり、いずれの年代でも1割に満たない。一方、「利用したいと思わない」の割合は全年代で60%を超えた。

図 40-1 記事ごとに料金を支払うシステムの利用意向

(n=3,183)

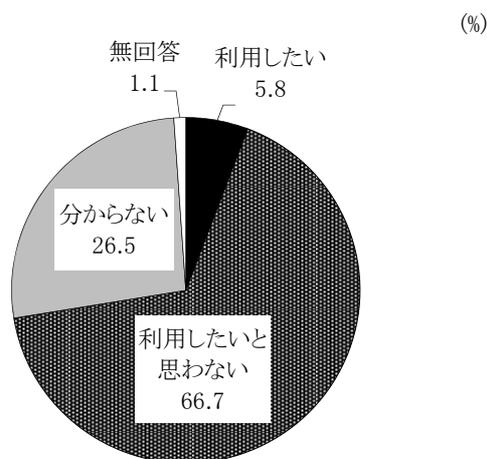
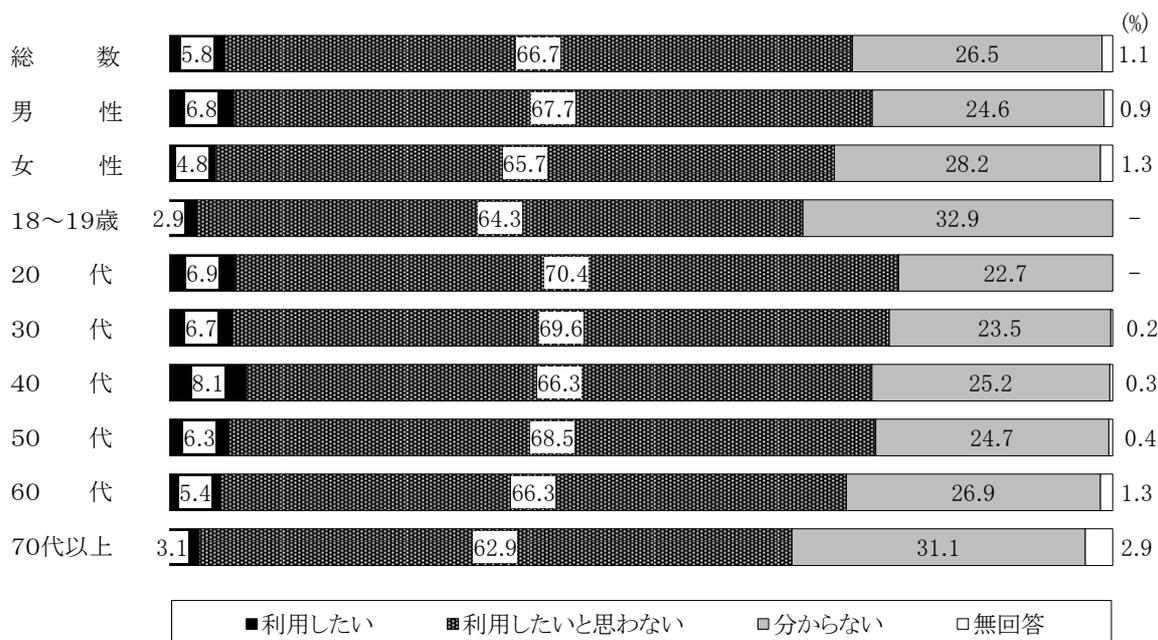


図 40-2 記事ごとに料金を支払うシステムの利用意向（性・年代別）

(n=3,183)



## 調査の概要

### ●調査地域

全国

### ●調査対象

18歳以上男女個人（5,000人）

### ●サンプリング法

住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法

### ●回収サンプルの構成

回収数 3,183（63.7%）

### <性別>

| 総数     | 男性    | 女性    |
|--------|-------|-------|
| 3,183  | 1,519 | 1,664 |
| 100.0% | 47.7% | 52.3% |

### ●調査方法

専門調査員による訪問留置法

### ●実査時期

2015年8月21日から9月8日

### ●調査委託機関

一般社団法人 中央調査社

### <年代別>

| 18～<br>19歳 | 20代  | 30代   | 40代   | 50代   | 60代   | 70代<br>以上 |
|------------|------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 70         | 291  | 404   | 579   | 489   | 668   | 682       |
| 2.2%       | 9.1% | 12.7% | 18.2% | 15.4% | 21.0% | 21.4%     |

第8回 メディアに関する全国世論調査 (2015年)

2015年10月発行

発行 公益財団法人 新聞通信調査会

東京都千代田区内幸町2-2-1

日本プレスセンタービル1階

電話 03-3593-1081